

二十一年三月六日滋賀縣令第五十五號ヲ以テ習熟書ヲ習熟證書ト改メ其縣令ハ後ニ出

○明治二十年八月九日滋賀縣令第六十七號(公報八月十日) 本縣ノ免許鑑札ヲ得テ産婆ノ業ヲ營ム者來ル明治二十四年一月一日以降ハ縣下ノ産婆講習會ニ於テ習熟書ヲ得タル者ニ非レハ營業スルヲ得ス

客年縣令第六十七號ハ前ニ出

○明治二十一年三月六日滋賀縣令第五十五號(公報三月七日) 客年縣令第六十七號中習熟書トアラシキ習熟證書ト改ム

二十一年三月六日滋賀縣令第五十二號ヲ以テ全部ヲ廢ス

第六百九十三條 産婆講習會設置準則制定廢止及産婆講習會規則制定

二十一年三月六日滋賀縣令第五十二號ヲ以テ全部ヲ廢ス

從來産婆ノ業ヲ營ム者其學術ノ何ヲ知ラス舊慣ニ拘泥シ往々産婦生兒ノ衛生ニ傷害ヲ與フルモノ不少哉ニ相聞候條別紙準則ニ據リ産婆講習會ヲ開設セシメ專ラ其學術ノ改良進歩ヲ相計候様可致此旨相達候事(別紙ハ釐頭ノ通ニ付之ヲ略ス)

十九年本縣乙第十三號ハ前ニ出

○明治二十一年三月六日滋賀縣令第五十二號(公報三月七日) 明治十九年本縣乙第十三號ヲ以テ郡役所へ相達候産婆講習會設置準則ヲ廢シ産婆講習會規則左ノ通相定候條本縣ノ免許鑑札ヲ得テ産婆ノ業ヲ營ム者ハ本則ニ據

講習會ヲ開設スヘシ

但從前該會ヲ開設セルモノハ本則ニ據リ更ニ届出ヘシ

産婆講習會規則

第一條 此規則ハ本縣限免許ヲ受ケタル産婆組合ヲ定メ本會ヲ開設シ以テ産婆術

ノ大意ヲ講習シ其術業ノ改良進歩ヲ計ル爲メニ設ルモノトス

但免許ヲ受ケタル者ト雖モ將來縣下ニ於テ産婆業ヲ營マント欲スル者ハ本會

ニ加入スルコトヲ得

第二條 組合ノ區畫ハ一郡役所所轄部内若クハ一郡又ハ一郡内ヲ分テ便宜之ヲ定

メ郡長ノ認可ヲ受クヘシ

但一郡内ヲ分テ區畫ヲ定メタルトキハ何郡何部ト稱スヘシ

第三條 本會ニハ會員中ノ投票ヲ以テ會長一名幹事數名ヲ撰定シ本會ノ事務ヲ取

扱ハシムヘシ

但會長又ハ幹事ノ職務ハ便宜其地ノ開業醫師ニ依托スルコトヲ得

第四條 本會ニ於テハ醫師又ハ内務省ノ免狀ヲ得タル産婆ヲ講師トシ毎月二回以上開會シ産婆術ノ講習ヲナスヘシ

第五條 本會ノ講習ハ凡ソ二ケ年ヲ以テ卒業ノ期トシ其科目ハ左項ニ據ルヘシ
但會員中學力アル者ハ試問ノ上相當ノ學期ニ編入セシムルコトヲ得

第一期

豫備論

第二期

正規妊娠論

第三期

正規分娩論

第四期

妊娠經過異常論

附則

第五期

分娩經過異常論

第六期

産後職務論

第六條 講習ノ方法ハ科目ノ大意ヲ成ルヘシ平易ニ講述シ勉メテ理解シ易カラン
ムルヲ要スヘシ

第七條 每期ノ終リニ簡易ナル試問ヲナシ其優劣ヲ次第々全科講習卒業ノ上各科
目ニ就キ試問ヲ行ヒ習熟證書ヲ付與スヘシ

第八條 習熟證書ハ第一號書式ニ據リ之ヲ甲乙丙丁ノ四種ニ區別シ每期ノ試問卒業
業ノ試問平生講習ノ勤怠等ヲ參酌シテ其等差ヲ定ムヘシ

但甲ハ特別優等ノ者ニ限ルヘシ

第九條 卒業試問ニ及第ヒサルモノハ猶本會ニ於テ再ヒ講習ヲナスコトヲ得

第十條 已ニ習熟證書ヲ得タル者ト雖モ復習ノ爲メ猶本會ニ加入スルコトヲ得

衛生

第十一條 組合ノ區域講習會場ノ位置開會ノ度數及期日講習會員ノ住所氏名年齡等ハ縣廳ヘ届出ヘシ異動ヲ生シタルトキモ亦同シ

第十二條 開會ノ節出席者ノ氏名卒業ノ上習熟證書ヲ付與シタル者ノ氏名等ハ其都度縣廳ニ開申スヘシ

第十三條 全科講習卒業ノ試問ヲ行フトキハ豫メ縣廳ニ届出ヘシ

第十四條 本會ニ於テハ會員ニ非サルモ管内ノ者ニ限リ請求ニ依テ全科ノ試問ヲ行ヒ相當學力アルモノハ其成績ヲ縣廳ニ具シ許可ヲ得テ第二號書式ノ習熟證書ヲ付與スルコトヲ得

第十五條 本會ヨリ縣廳ニ差出ス書面ハ會長ノ名ヲ以テシ總テ郡役所ヲ經由スヘシ

第十六條 開會ノ節當該吏員ヲシテ臨場セシムコトアルヘシ

第十七條 本會ノ經費ハ會員ニ於テ支辨スヘシ

第一號 習熟證書式 用紙奉書四ツ切

割印

習熟證書

何郡何町族籍

(甲) (乙) (丙) (丁)

氏名

何年何月生

産婆術講習卒業ニ付此習熟證書ヲ付與ス

何郡(何部)産婆講習會

年月日

醫師

氏

名

第二號 習熟證書式 用紙奉書四ツ切

割印

習熟證書

何郡何町族籍

(甲) (乙) (丙) (丁)

氏名

何年何月生

産婆術試問ノ上此習熟證書ヲ付與ス

何郡(何部)産婆講習會

年月日

醫師

氏

名

衛生

○第四款 獸醫 本署此款
ヲ新設ス

第六百九十四條 滋賀縣下ニ於テ獸醫ヲ開業セントスル者届出ノ事

○明治二十年十二月九日滋賀縣令第二百三十三號(公報十二月十日)

縣下ニ於テ獸醫(本免狀ヲ有スルモノ)ヲ開業セントスルモノハ其他名ヲ詳記シ免
狀寫相添届出ヘシ

但既ニ開業セシモノハ此際届出ヘシ

第六百九十五條 獸醫假開業免狀出願者心得制定及消滅

○明治十九年五月廿九日滋賀縣令第八十一號布達(六月三日發布)

獸醫假開業免狀出願者心得左ノ通相定ム

○ 獸醫假開業免狀出願者心得

第一條 獸醫學術ノ試験ヲ經サルモノニヤテ假開業免狀ヲ得ント欲スル者ハ別紙
雛形ノ如キ願書ニ履歷書ヲ添ヘ所管郡役所ヲ經テ本縣ヘ届出ヘシ

第十八年八月二日
第十二號
公告以テ
免許ヲ給
定シ付同
月九日ヨ
行ニ消滅
メヘハ入
メヘハ入

第二條 前條ニヨリ願出タルモノト雖モ出願人員ノ多少ト開業地ノ便否及ヒ最寄

町村現在家畜頭數ノ多寡等ニヨリ特ニ其人員ヲ制限スルコトアルヘシ

第三條 假開業免狀ヲ得タルトキハ本縣ニ於テ其開業地名及ヒ地區ヲ指定スヘシ

故ニ其地區外ニ出テ病畜ノ治療ヲ爲スヲ得ス

但地區外ノ病畜ト雖モ牽來リテ治療ヲ請フモノアルトキハ此限ニ非ス

右布達ス

別紙

(雛形)

獸醫假開業免狀御授與願

一私義從來ヨリ獸醫開業罷在候付假開業免狀御授與被成下度御免許ノ上ハ何郡何
町村ニ於テ開業仕度別紙履歷書相添此段奉願候也

何郡何町村何番地

何 某印

年月日

衛生

縣令宛
前書ノ通付奥印仕候也

戸長

何某印

(履歷書式)

滋賀縣下何郡何町何番地

何某

何年何月ヨリ何年何月マテ何地何學校又ハ何某ニ就キ何學研究何年何月卒業何年何月ヨリ何地ニ於テ牛馬醫ヲ開業シ平均一ケ年凡幾十頭ノ病畜ヲ治療セリ
第六百九拾六條 獸醫假開業免狀下付出願細則

○明治二十年二月七日滋賀縣令第六十三號(公報二月九日)

明治十八年八月二十八號公布獸醫免許規則第五條ニ據リ假開業免狀下付ヲ出願セ
ントスル者ハ左ノ細則ニ據ルヘシ

第二十八號公
布告ニシテ滋
賀縣ノ布令ニ
非ス故ニ登載
セス

獸醫假開業免狀下付出願細則

第一條 獸醫ニ乏シキ地トハ開業獸醫ノ住所ヨリ一日中ニ往復シ能ハザル土地ニ
限ルヘシ

第二條 假開業免狀ヲ得ント欲スル者ハ甲號書式ノ願書ニ履歷書ヲ添ヘ所管郡役
所ヲ經テ本縣ヘ差出スヘシ

第三條 假開業免狀下付出願スル者アルトキハ郡長ハ獸醫欠乏ノ土地ニ限リ區域
ヲ定メ其地勢廣狹牛馬頭數等乙號書式ニ據リ詳細取調意見ヲ具ヘ願書ト共ニ進
達スヘシ

第四條 假開業獸醫ハ一區域一人ニ限ルヘシ

第五條 假開業獸醫營業免許年限ハ滿二年以内タルヘシ但シ免許期限ヲ過キ仍ホ
獸醫ニ乏シキ場合ニ於テハ更ニ假開業免狀下付出願スルコトヲ得

第六條 假開業獸醫ハ免許區域外ニ出テ病畜ノ治療ヲ爲スヲ得スト雖モ其免許區

域内ニ牽来リタル病畜ハ之レヲ治療スルコトヲ得

第七條 假開業獸醫ニシテ免狀有効ノ期限ヲ經過シ又ハ本免許ヲ得タルトキハ所管郡役所ヲ經テ速ニ假免狀ヲ返納スヘシ

第八條 假開業獸醫免許年限中其区域内ニ於テ本免狀ヲ得タル獸醫ノ開業者アルトキハ該假開業免狀ヲ返納セシムルコトアルヘシ

甲號書式

(用紙美濃紙正副二通)

獸醫開業假免狀下付願

滋賀縣何那何町(村)何番屋敷(寄留ナレハ本籍ヲ併記スヘシ)

族籍

氏

年月日生

私儀何那何町(村)何番屋敷ニ於テ獸醫開業仕度候間獸醫假開業免狀御下付被成下度別紙履歷書相添此段奉願候也

二十二年四月
何那何町制實
施ニ付月長ハ
町村長ニ改メ

年月日

右

氏

名印

戸

長

氏

名印

農商務大臣爵氏名殿

乙號書式

獸醫假開業出願調書

何那何町(村)何番屋敷(寄留ナレハ前ニ做フ)

族籍

氏

年月日生

營業區域 何那一圓又ハ何那ノ内何町(村)何町(村)

區域内地勢

同 廣狹

同 牛馬頭數

衛生

營業年限 何ヶ年

開業獸醫居住地ヨリ假開業獸醫營業區域境界マテノ最近距離何里

第六百九十七條 開業免許獸醫ニアラスシテ刺絡烙鐵剪蹄等ヲ施ス者ナキ權訓戒

ノ事

○明治二十年八月十九日滋賀縣訓令第八十二號(公報八月二十日) 郡役所戶長役場へ

公布ハ太政官ノ布告ニシテ滋賀縣ノ布令ニアラス故ニ登載セス

午馬ニ刺絡又ハ烙鐵其他剪蹄等ヲ施スハ開業免許獸醫ニアラサレハ固ヨリ施術不相成等ニ候處從來伯樂ヲ營業スル者ニテ剪蹄等ヲ名トシ窮ニ施術スルノミナラス往々投藥スル者モ有之趣相聞右ハ去ル十八年八月二十八號公布獸醫免許規則ニ背キ不都合ノミナラス違背ノ者ハ同則ニ照ラシ夫々處罰セラレヘキ筈ニ候條心得違ノモノ無之様此際篤ク訓戒スヘシ

第六百九十八條 獸醫人名及營業區域

○明治二十年二月二十二日滋賀縣告示第二十九號(公報二月二十三日)

二十二年六月四日滋賀縣告示第二十六號

チ以テ全部更正スルト雖モ參看ノタメノ爲メ入ス其告示ハ後ニ出

十八年第二十八號公布ハ太政官布告ニシテ滋賀縣ノ布令ニ非ス故ニ登載セス

明治十八年八月二十八號公布獸醫免許規則第五條ニ據リ獸醫假開業免狀ヲ下付セシ人名及ヒ營業區域別冊ノ如シ (十八年第二十八號公付ハ太政官ノ布告ニシテ滋賀縣ノ布令ニ非ス故ニ登載セス○別冊ハ願頭ノ通ニ付之ヲ尋ス)

○明治二十二年六月四日滋賀縣告示第二十六號(公報六月五日)

明治十八年八月二十八號公布獸醫免許規則第五條ニ據リ今般更ニ獸醫假開業免狀

ヲ下附セシ人名及ヒ營業區域左ノ如シ

獸醫營業人名及區域

滋賀郡石山村字平津村第四十二番屋敷平民

森 房 吉

營業區域

滋賀郡ノ内

石山村 字外畑村

同

内畑村

同

赤尾村

同 南郷村

同

千町村

同

平津村

衛生

同	國分村	同	鳥居川村	同	北大路村
同	寺邊村	膳所村	字膳所村	同	別保村
同	中庄村	同	錦村	同	大津町 字松本村
同	馬場村	同	東浦村	同	藤尾村
同	別所村	同	神山村	同	滋賀村 字南滋賀村
同	山上村	同	澁村	同	錦織村
同	山中村	同	滋賀里村	同	阪本村字 阪本村
同	穴太村	雄琴村	字千野村	同	雄琴村
同	苗鹿村	下阪本村字	下阪本村	同	比叡辻村

大津市街

滋賀郡伊香立村字下龍花村第五十九番屋敷平民

西口 宗五郎

營業區域

滋賀郡ノ内	下在地村字南庄村	真野村字	真野村	同	宗田村
同	大野村	同	谷口村	同	普門村
同	佐川村	同	仰木村	同	堅田村字 本堅田村
同	今堅田村	同	衣川村	同	伊香立村字下在地村
同	生津村	同	上在地村		
同	北在地村	同	向在地村	同	途中村
同	上龍花村	同	下龍花村	同	高川村 字坊村
同	阪下村	同	中村	同	木戶口村
同	町居村	同	梅ノ木村	同	貫井村
同	細川村	和邇村	字今宿村	同	小野村
同	和邇中村	同	高城村	同	南濱村
同	中濱村	同	北濱村	同	栗原村

木戸村	字木戸村	同	南船路村	同	八屋戸村
同	荒川村	同	大物村	同	南比良村
小松村	字北小松村	同	北比良村	同	南小松村
同	鶴川村				

栗太郡老上村字橋岡村第四十一番屋敷平民

淺尾安五郎

營業區域

栗太郡ノ内					
常盤村	字長束村	同	穴村	同	芦浦村
同	下物村	同	上寺村	同	下寺村
同	志那中村	同	片岡村	同	志那村
同	北大萱村	物部村	字横江村	笠縫村	字下笠村
同	上笠村	同	川原村	同	平井村

同	新堂村	同	野村	同	築村
同	駒井澤村	山出村	字御倉村	同	山田村
同	北山田村	同	南山田村	同	木ノ川村
大寶村	字笠川村	同	新原村	同	小平井村
老上村	字橋岡村				

栗太郡葉山村字辻村第十一番屋敷平民

奥田政二郎

營業區域

栗太郡ノ内					
葉山村	字出庭村	同	大橋村	同	高野村
同	小野村	同	伊勢落村	同	六地藏村
同	林村	同	辻村	物部村	字二町村
同	伊勢村	同	古高村	同	千代村

同	今宿村	同	浮氣村	同	勝部村
同	大門村	同	焰魔堂村	同	阿村
大寶村	字野尻村	同	北中小路村	同	蜂屋村
同	十里村	同	靈仙寺村	同	總村
粟太郡下田上村字稻津村第三番屋敷平民					
廣瀬半四郎					
營業區域					
粟太郡ノ内					
大石村	字曾束村	同	龍門村	同	富川村
同	小田原村	同	大石中村	同	淀村
同	東村	同	下田上村字關津村	同	太子村
同	黒津村	同	稻津村	同	石居村
同	羽栗村	同	里村	同	枝村

同	森村	同	上田上村字新免村	同	平野村
同	中野村	同	芝原村	同	牧村
同	堂村	同	瀬田村	同	神領村
同	大江村	同	南大萱村		
粟太郡草津村字草津村第四百三十四番屋敷平民					
中村金彌					
營業區域					
粟太郡ノ内					
志津村	字部田村	同	岡本村	同	馬場村
同	山寺村	同	追分村	同	金勝村
同	東阪村	同	御園村	同	字井上村
同	上砥山村	同	觀音寺村	同	荒張村
同	大鳥居村	同	葉山村	同	上田上村字桐生村
			字手原村		治田村
			字上鈎村		字上鈎村

同	川邊村	同	坊袋村	同	目川村
同	澁川村	同	中澤村	同	小柿村
同	下鈎村	同	安養寺村	同	下戸山村
同	岡村	同	草津村 字矢倉村	同	草津村
同	大路井村	同	老上村 字野路村	同	南笠村
同	新濱村	同	矢橋村	同	瀬田村 字月輪村
同	栗林新田				
野洲郡篠原村字小南村第百十一番屋敷平民					
山本 庄太郎					
營業區域					
野洲郡ノ内					
篠原村 字入町村	同	長島村	同	高木村	
同 小南村	同	小堤村	同	大篠原村	

北里村 字江頭村	同	小田村	同	十王町村
同 野村	同	佐波江村	同	兵主村 字五條村
同 安治村	同	須原村	同	井口村
同 六條村	同	堤村	同	野田村
中里村 字比江村	同	乙窪村	同	吉地村
同 木部村	同	八夫村	同	小比江村
同 虫生村	同	西河原村	同	比留田村
同 北比江村	同	中洲村 字新庄村	同	服部村
同 立田村	同	小濱村	同	吉川村
同 菖蒲村	同	喜合新田	同	幸津川村
義王村 字永原村	同	中北村	同	辻町村
同 富波村	同	上屋村	同	五之里村
同 北村	同	野洲村 字久野部村		

野洲郡守山村字吉身村第八十二番屋敷平民

守崎多助

營業區域

野洲郡ノ内

守山村	字守山村	同	吉身村	同	立入村
岡村	小津村	字三宅村	同	同	大林村
森川原村	同	欲賀村	同	同	山賀村
杉江村	同	金森村	同	玉津村	字石田村
矢島村	同	赤野井村	同	同	十二里村
河西村	字小島村	同	川田村	同	今市村
荒見村	同	笠原村	同	同	搦磨田村
中村	野洲村	字野洲村	同	同	谷畑村
市三宅村	同	小篠原村	同	三上村	字三上村

同	南櫻村	同	北櫻村	同	妙光寺村
速野村	字水保村	同	今濱村	同	木濱村
同	洲本村				

甲賀郡伴谷村字下山村第三十六番屋敷平民

佐井平治郎

營業區域

甲賀郡ノ内

伴谷村	字春日村	同	八田村	同	下山村
同	伴中山村	同	山村	同	下田村
岩根村	字岩根村	同	正福寺村	同	朝國村
同	菩提寺村	同	柏木村	同	泉村
同	名阪村	同	字田村	同	酒人村
同	植村	同	水口村	同	字林口村
					水口村

同	松尾村	同	中畑村	同	新城村
大野村	字今郷村	同	大野村	同	徳原村
同	頓宮村	同	市場村	同	前野村
土山村	字野上野村	同	南土山村	同	北土山村
同	平子村	同	瀬ノ音村	同	青土村
山内村	字山中村	同	猪鼻村	同	黒川村
同	黒瀧村	同	山女原村	同	笹路村
鮎川村	字鮎川村	同	大河原村	同	比羅生郡雨村字下駒月村

甲賀郡北柚村字柚中村第四番屋敷平民
宿谷 政 吉

營業區域
甲賀郡ノ内
石部村 字石部村 同 東寺村 同 西寺村

三雲村	字三雲村	同	平松村	同	針村
同	柑子袋村	同	吉永村	同	夏見村
北柚村	字三大寺村	同	高山村	同	岩阪村
同	柚中村	同	牛飼村	同	山上村
貴生川村	字宇川村	同	内貴村	同	北内貴村
同	虫生野村	同	寺庄村	同	深川村
同	深川市場村	同	寶木村	同	種谷村
南柚村	字杉谷村	同	市原村	同	壺野村
長野村	字長野村	同	江田村	同	田代村
同	畑村	同	神山村	同	雲井村
同	宮町村	同	黄瀬村	同	勅旨村
小原村	字中野村	同	柞原村	同	西村
同	小川村	同	小川出村	同	杉山村

朝宮村 字宮尻村 同 下朝宮村 同 上朝宮村
多羅尾村

甲賀郡油日村字上野村平民

西川 多二郎

營業區域

甲賀郡ノ内

大原村 字神 村	同	大久保村	同	樺野村
同 大原上田村	同	大原中村	同	大原市場村
同 鳥居野村	同	高野村	同	相摸村
油日村 字和田村	同	瀧 村	同	油日村
同 上野村	同	毛枚村	同	高嶺村
同 五反田村	同	田堵野村	同	龍池村 字池田村
同 龍法師村	同	野尻村	同	磯尾村

同 野田村	宮村	字上馬杉村	同	下馬杉村
同 野川村	同	柑子村	同	佐山村 字小佐治村
同 隱岐村	同	神保村	同	和野村
同 巖巖村	同	岩室村	同	南杣村 字新治村
寺庄村 字寺庄村	同	葛木村	同	土山村 字大澤村

蒲生郡朝日野村字蒲生堂村第十二番屋敷平民

長澤 嘉 藏

營業區域

蒲生郡ノ内

朝日野村字上南村	同	市子沖村	同	市子川原村
同 市子殿村	同	合戸村	同	横山村
同 葛巻村	同	宮井村	同	外原村
同 宮川村	同	蒲生堂村	同	鈴 村

同	大森村	同	下麻生村	同	上麻生村
同	岡本村	同	大塚村	同	田井村
同	市子松井村	同	鎗物師村	同	北比都佐村字石原村
同	中山村	同	増田村	同	小谷村
同	小御門村	同	三十坪村	同	櫻谷村 字野山村
同	蓮華寺村	同	櫻川村 字平林村	同	石塔村
同	綺田村	同	寺村	同	上小房村
同	下小房村	同	川合村	同	稻垂村
同	木村	同	平田村 字上羽田村	同	苗村 字岩井村
同	川守村	同	田中村	同	山ノ上村

蒲生郡桐原村字池田村第九十五番屋敷平民

淺野九 蔵

營業區域

蒲生郡ノ内	北比都佐村字山本村	同	内池村	同	猫田村
同	十碑寺村	同	豊田村	同	里口村
同	南比都佐村字別所村	同	深山口村	同	追村
同	清田村	同	上駒月村	同	日野町字日野大窪町
同	日野村井町	同	日野松尾町	同	大谷村
同	日田村	同	木津村	同	上野田村
同	日野河原村	同	小井口村	同	寺尻村
同	西大路村字音羽村	同	西大路村	同	仁本木村
同	北藏王村	同	西明寺村	同	北畑村
同	南藏王村	同	平子村	同	熊野村
同	櫻谷村 字小野村	同	北脇村	同	川原村
同	奥師村	同	中在寺村	同	安部居村

同	與之池村	同	佐久良村	同	中之郷村
同	鳥居平村	同	柚村	同	杉村
同	原村	市原村	字一式村	同	石谷村
同	高木村	同	市原野村	同	池之脇村
同	上二俣村	同	甲津畑村	同	新田村
同	王緒村	字土器村	同	同	下二俣村
同	柴原南村	同	尻無村	同	瓜生津村
同	芝原村	同	上大森村	鎌掛村	

蒲生郡桐原村字池田村第九十五番屋敷平民

淺野九兵衛

營業區域

蒲生郡ノ内

八幡町 一圓 照山村 字牧村 同 船木村

同	小船木村	同	大房村	同	南津田村
同	加茂村	同	田中江村	桐原村	字池田村
同	中小森村	同	安養寺村	同	竹村
同	八木村	同	森尻村	同	古川村
同	東村	字津呂村	字土田村	同	大林村
同	市井村	同	中村	同	多賀村
同	北之庄村	同	字津呂村	金田村	字西庄村
同	淺小井村	同	長田村	同	金剛寺村
同	杉森村	同	西本郷村	同	上田村
同	鷹飼村	島村	字奥島村	同	圓山村
同	白王村	同	北津田村	同	長命寺村
同	沖島村	同	中庄村	安土村	字小中村
同	常樂寺村	同	香庄村	同	下置浦村

同	上豊浦村	同	慈恩寺村	同	宮津村
同	上出村	同	中屋村	同	桑實寺村
武佐村	字野田村	同	武佐村	同	西宿村
同	長光寺村	同	友定村	同	南野村
同	西生來村	同	御所内村	同	市邊村
同	糠塚村	同	布施村	同	字市邊村
同	野口村	同	三津屋村	同	蛇澤村
同	小脇村	同	今堀村	同	中野村
同	今崎村	同	淨土寺村	同	字中野村
同	長福寺村	同	千僧供村	同	小今村
同	東川村	同	新卷村	同	馬淵村
同	倉橋郡村	同	西老蘇村	同	字馬淵村
同	清水鼻村	同	老蘇村	同	東横關村
			字東老蘇村		上畑村
			内野村		

營業區域

神崎郡ノ内

愛知郡日枝村字大町村第百十五番屋敷平民

大野信立

同	石寺村	同	鏡山村	同	西川村
同	岡屋村	同	須惠村	同	山中村
同	山面村	同	橋本村	同	弓削村
同	小口村	同	藥師村	同	川上村
同	七里村	同	西横關村	同	鏡村
同	苗村	同	信濃村	同	堀奥丁村
同	字綾戸村	同	庄村	同	林村
同	鳥村	同	柏木村	同	下平木村
同	平田村	同	中羽田村		
同	字上平木村				
同	下羽田村				

東五個莊村字伊野部村	同	平坂村	同	木流村	
同	山本村	同	石塚村	同	北町原村
同	新堂村	同	三俣村	同	奥村
南五個莊村字金堂村	同	石川村	同	塚本村	
同	川並村	同	石馬寺村	同	七里村
同	下日吉村	北五個莊村字龍田村	同	宮莊村	
同	小幡村	同	中村	同	竈瀬村
同	和田村	同	河曲村	同	八條村字猪子村
同	林村	同	山路村	同	伊庭村
同	能登川村	同	北須田村	同	南須田村
同	佐生村	同	佐野村	同	八幡村字長勝寺村
同	神郷村	同	種村	同	今村
同	川南村	同	小川村	同	阿彌陀堂村

同	肺光寺村	同	垣見村	同	粟見村字乙女濱村
同	福堂村	同	栗見新田	同	粟見山在家村
同	新宮村	葉枝見村字新海村	同	服部村	
同	上稻葉村	同	下稻葉村	同	木庄村
同	田附村	同	三ッ谷村	同	普光寺村
愛知郡ノ内					
同	稻村字甲崎村	同	西川村	同	田原村
同	東押立村字南花澤村	同	大澤村	同	北花澤村
同	讀合堂村	同	中里村	同	湯屋村
同	僧坊村	同	下里村	同	平松村
同	中一色村	同	今在家村	同	小八木村
同	平柳村	同	祇園村	同	西押立村字下一色村
同	勝堂村	同	北菩提寺村	同	西菩提寺村

鯉江 鉄次郎

營業區域

神崎郡ノ内

山上村	字杜葉尾村	同	藜畑村	同	荻尾村
同	佐目村	同	相谷村	同	和南村
同	山上村	御園村	字池田村	同	今田居村
同	寺村	同	藪畑村	同	岡田村
同	林田村	同	上村	同	妙法寺村
同	中小路村	同	野村	同	神田村
同	外村	同	河合寺村	建都村	字塚村
同	瓦屋寺村	同	上日吉村	同	下野村
同	上中村	同	北村	同	南村
八日市町字八日市村		同	津野村		

愛知郡ノ内

東小椋村字茨川村	同	若ヶ畑村	同	蛭谷村	
同	箕川村	同	政所村	同	黄和田村
同	九居瀬村	同	高野村	同	西小椋村字外村
同	小倉村	同	青山村	同	曾根村
同	妹村	同	中戸村	同	鯉江村
同	上岸本村	同	梅林村	同	角井村
同	園村	同	大林村	同	字平尾村
同	市ヶ原村	同	百濟寺村	同	大覺寺村
同	下中野村	同	池ノ尻村	同	上中野村

犬上郡川瀬村字廣野村第百三十九番屋敷平民

石居 政次郎

營業區域

衛生

犬上郡一圓

高嶋郡今津村字弘川村第六十二番屋敷土族

中村 小次郎

營業區域

高島郡一圓

伊香郡木ノ本村字廣瀬村第三百三十八番屋敷平民

鈴木 榮 藏

營業區域

伊香西淺井郡一圓

阪田郡大原村字市場村第五番屋敷寄留

岐阜縣平民

石川 松太郎

營業區域

阪田郡ノ内

柏原村 字長久寺村	同	柏原村	同	清瀬村
同 梓河内村	同	須川村	同	大野木村
春照村 字村木村	同	杉澤村	同	高番村
同 大清水村	同	藤川村	同	春照村
同 上平寺村	同	伊吹村 字彌高村	同	上野村
同 伊吹村	同	大平寺村	同	小泉村
同 大久保村	同	大原村 字小田村	同	間田村
同 井之口村	同	村居田村	同	野一色村
同 烏脇村	同	阪口村	同	朝日村
同 下夫馬村	同	産所村	同	市場村
同 本市場村	同	天満村	同	池下村
東淺井郡ノ内七尾村 字相模庭村	同	東黒田村字西山村	同	長岡村

同 萬願寺村

阪田郡東黒田村字本郷村第六十六番屋敷平民

百々春 峯

營業區域

阪田郡ノ内

東黒田村字菅江村

同

北方村

同

志賀谷村

同 山室村

同

大鹿村

同

堂谷村

同 本郷村

同

醒井村 字一色村

同

醒井村

同 枝折村

同

上丹生村

同

樽ヶ畑村

同 下丹生村

同

南箕浦村字牛打村

同

樋口村

同 三吉村

同

西阪村

同

番場村

同 鳥井本村字武奈村

同

男鬼村

同

佛生寺村

同 庄殿寺村

同

善谷村

同

中山村

同 笹尾村

同

原村

同

小野村

同 鳥居本村

同

古西法寺村

同

宮田村

同 下矢倉村

同

甲田村

入江村 字梅ヶ原村

同 米原村

同

下多良村

同

中多良村

同 上多良村

同

朝妻村

同

磯村

同 法性寺村字世繼村

同

飯村

同

宇賀野村

同 長澤村

同

加田村

同

加田今村

同 息長村 字岩脇村

同

西圓寺村

同

箕浦村

同 新庄村

同

寺倉村

同

能登瀬村

同 多和田村

同

日光寺村

同

顔戸村

同 高溝村

同

舟崎村

西黒田村字蘭原村

同 名越村

同

常喜村

同

鳥羽上村

同 本庄村

同

八條村

六莊村 字田村

衛生

同	寺田村	同	下坂中村	同	大茂亥村
同	高橋村	同	下坂濱村	同	平方村
同	南高田村	同	四塚村	同	勝村
同	永久寺村	同	大長巳村	同	室村
同	八幡東村	同	南郷里村字大東村	同	今川村
同	宮司村	同	小堀村	同	南田附村
同	加納村	同	榎木村	同	新榮村
同	南小足村	同	七條村	同	北郷里村字石田村
同	小屋村	同	堀部村	同	保多村
同	垣籠村	同	春近村	同	東上坂村
同	西上坂村	同	千草村	同	春照村
同	山階村	同	口分田村	同	字川崎村
同	保田村	同	橋本村	同	今村
同		同		同	國友村

同	中澤村	同	下ノ郷村	同	小澤村
同	新庄馬場村	同	新庄寺村	同	新庄中村
同	南方村	同	八幡中山村	同	十里村
同	刈見村	同	祇園村	同	相摸村
同	森村	同	長濱市街一圓		

阪田郡長濱北船町第二十四番屋敷寄留

京都府平民

長島 富次郎

營業區域

東淺井郡一圓

○第五款 施藥 闕

○第六款 種痘

第六百九十九條 種痘規則廢止及種痘細則制定

○明治十九年二月八日滋賀縣甲第十號布達

明治十八年十一月第三十四號布告種痘規則第十一條ニ據リ種痘細則別冊ノ通相定候

條此旨布達候事

但明治十七年十月本縣甲第十七號布達ハ廢止ス

(別冊)

種痘細則

第一條 種痘ハ戶長ノ指定ナル期日内ニ種痘所ニ就キ接種ヲ受クヘシ

但戶長ノ指定ヲ待タズシテ便宜他ノ醫師ニ就キ接種ヲ受クルモ妨ナシ

第二條 種痘ヲ受クヘキ者病氣或ハ事故アリテ種痘規則第一條第二條第三條ノ時

期ニ種痘ヲ行フコト能ハサルトキハ第一號式ニ準シテ届出病氣全癒若クハ事

十八年第三十
四號布告ハ滋
賀縣ノ布令ニ
非ス故ニ登載
セズ
十七年本縣甲
第十七號布
達ハ第三編第
二百九十七條
丁ニ出
二十二年四月
ヨリ町村制實
施ニ付戶長ハ
總テ町村長ニ

故了ルノ后直ニ接種ヲ受クヘシ

第三條 種痘ヲ受ケシ者病氣或ハ事故アリテ醫師ノ指定シタル期日ニ檢診ヲ受ク
ルコト能ハサルトキハ第二號式ニ準シテ届書ヲ醫師ニ差出シ病氣全癒若クハ
事故了ルノ后直ニ檢診ヲ受クヘシ

第四條 種痘證又ハ天然痘證ヲ受領シタルトキハ直ニ戶長ニ届出劄印ヲ受クヘシ
但種痘規則第一條ノ初種又ハ再種不善感ユシテ證書ヲ受領セサル者モ其旨必
ズ届出ヘシ

第五條 再三種ヲ受ケシ者ハ檢診ヲ受ケルノ當日初種ノトキ受領シタル種痘證ヲ
醫師ニ差出シ再三種ノ記入ヲ請ヒ尙前條ニ據リ戶長ニ差出シ劄印ヲ受クヘシ

第六條 種痘證及天然痘證ハ終身之ヲ保存シ置キ臨時掛官吏ノ點檢ニ供スヘシ
但毀損亡失シタルトキハ速ニ醫師ニ請ヒテ之ヲ受領シ直ニ戶長ニ届出ヘシ

衛生

但天然痘ノ痕跡明瞭ニシテ證書ナキ者ハ本文ノ限ニアラスト雖モ其行戸長ニ届出ヘシ

第八條 他へ寄留若クハ止宿中種痘ヲ行ヒ又ハ天然痘ニ罹リシ者歸住シタルトキハ十六年未滿ノ者ハ種痘證又ハ天然痘證ヲ直ニ戸長ニ差出スヘシ

第九條 小兒出生后始テ種痘ヲ行ヒ若シ不善感ナルトキハ初種未済トシ更ニ再種ヲ行ヒ善感ナラハ此期ヲ以テ初種済トス若シ再種不善感ニシテ三種ヲ行ヒタルトキハ善感ナルト否トニ拘ハラス此時ヲ以テ初種済トス

但初種不善感ノ者再種ヲ行フノ期日ハ醫師ノ指定スル所ニ從フヘシ
第十條 種痘規則第二條ニ掲ケタル年期ヲ踐ミ再種三種ヲ行ヒタルトキハ其感否ヲ論セス総テ既済トス

第十一條 初種后滿五年ヲ經サル以前ニ再種ヲ行ヒタルモ尙初種ノ時ヨリ算シテ五年乃至七年ニハ種痘規則第二條ニ據リ再種ヲ行フヘシ再種后三種ヲ行フモ亦之ニ準ス

第十二條 種痘規則第三條ニ據リ種痘ヲ行フヘキ者ハ其時々掛官吏ヨリ指定スヘシ

第十三條 戸長ハ第三號式ノ種痘人名簿ヲ製シ其住所氏名年齢初再三種ノ年月日善感不善感天然痘濟等式ノ如ク詳記シ出生死亡送入籍等異動ノ都度精密ニ加除ノ手續ヲナスヘシ

第十四條 戸長ハ毎年春季自三月秋季自九月ノ兩度其部内適宜ノ場所ニ於テ種痘所ヲ設ケ擔當醫ヲ定メ種痘ヲ行フヘシ

但種痘所ノ位置及擔當醫師ノ住所氏名種痘ノ期日等ヲ郡長ニ届出且部内ニ告示スヘシ

第十五條 戸長ハ種痘期日前種痘人名簿ニ就キ初再三種痘時期ノ者ヲ調査シ第四號式ノ種痘切符ヲ作り遅クモ期日ヨリ五日以前ニ其家ニ付與スヘシ

第十六條 戸長ハ種痘ノ期日種痘所ニ出張シテ諸事ヲ監督スヘシ
第十七條 戸長ハ種痘濟又ハ天然痘濟ノ届出ヲ受ケタルトキハ左ノ手續ヲナシ證

書ハ直ニ本人ニ下付スヘシ

種痘證及天然痘證ハ式ノ如ク種痘人名簿ニ記入割印スヘシ

種痘規則第一條第二條ノ時期ニ依ラヌ又ハ同規則第三條ニ據リ種痘ヲ行ヒタル者ニ係ル證書ハ其裡面ヘ明治何年何月何日檢ト朱記シテ認印ヲ捺シ其旨種痘人名簿備考欄内ニ記入スヘシ

但種痘規則第三條ニ據リ種痘セシ者ト雖モ同規則第一條第二條ノ時期ニ相當シタル者ハ前項ニ據ルヘシ

十六年以上ノ者ニ係ル種痘證天然痘證ハ別帳ニ其全文ヲ登錄シ證書ト割印スヘシ

種痘規則第一條ノ初種又ハ再種不善感ニシテ證書ヲ受領セサル者ハ其旨種痘人名簿備考欄内ニ記入スヘシ

第十八條 戶長ハ病氣及事故アリテ種痘ヲ行ヒ難キ者ノ届書ヲ精密ニ調査シ其事由ヲ種痘人名簿ニ記入スヘシ

第十九條 戶長ハ十六年未滿ノ者ノ送籍證ニハ種痘證若クハ天然痘證ヲ添付スヘシ

若シ未種痘者又ハ天然痘ノ痕跡明瞭ニシテ證書ヲキ者ハ其旨送籍證ニ記載スヘシ

第二十條 戶長ハ十六年未滿ノ者ノ送籍證ヲ受取タルトキハ種痘證若クハ天然痘證ヲ添付シ檢シ種痘人名簿ニ式ノ如ク記入ノ上該證書ハ本人ニ下付スヘシ

第二十一條 戶長ハ第五號式ノ種痘明細表ヲ製シ每年前半期分ハ十月十日後半期分ハ翌年一月十日迄ニ郡長ヲ經テ縣令ニ差出スヘシ

第二十二條 戶長ハ種痘ニ係ル費用ノ支辨法及赤貧者無料種痘ノ方法等便宜部内町村ニ於テ取設ケシムヘシ

第二十三條 醫師種痘ヲ施ストキハ明治十八年四月本縣甲第四十二號布達種痘施術心得書ニ據ルヘシ

第二十四條 醫師種痘ヲ施シタルトキハ豫メ檢診ノ期日ヲ指定シ其期日ニ至リ檢診ヲ遂ケタルトキハ直ニ第六號式ノ種痘證ヲ付與シ其再三種ニ係ル者ハ初種ノ

十八年甲第四十二號布達ハ
第四編第二百四十六條(下)
卷八十七丁ニ出

トキ付與セシ證書ニ式ノ如ク記入ノ上返付スヘシ

但初種ノトキ不善感ナルトキハ證書ヲ付與セス三四週ノ后再ニ接種シ善感ナ
ラハ初種善感トシテ證書ヲ付與シ若シ不善感ナラハ尙ホ證書ヲ付與セス初種
ノ時ヨリ一週年以内ニ三種ヲ施スヘシ此場合ニ於テハ感否ニ拘ハラズ初種ノ
證書ヲ付與スヘシ種痘規則第二條ニ掲ケタル再三種ハ感否ニ論ナク本文ニ據ル
ヘシ

第二十五條 醫師ハ種痘規則第一條第二條ノ時期ニ依ラス又ハ同規則第三條ニ據
リ種痘ヲ施シタル者ノ證書ニハ接種ノ年月日初再三種善感不善感ノ別并ニ自己
ノ氏名等ヲ其裡面ニ朱書スヘシ

但種痘規則第三條ニ據リ種痘セシモノト雖モ同規則第一條第二條ノ時期ニ相
當シタルモノハ前條ニ據ルヘシ

第二十六條 醫師ハ天然痘患者ヲ診療シ若シハ點檢シタルトキハ第七號式ノ證書
ヲ付與スヘシ

第二十七條 醫師ハ帳簿ヲ製シ置キ種痘ヲ施シタル者ノ住所氏名年齢接種ノ年月
日及初再三種善感不善感等ノ別ヲ記シ證書ト割印シ該帳簿ヲ保存スヘシ
第二十八條 醫師ハ種痘ヲ施シタル者ヨリ受取タル種痘切符ニ接種ノ年月日及感
否ヲ記載シ戸長ニ返付スヘシ
第一號

届

何村何番地居住(寄留)

何某幾男或ハ何々

氏 名

當何年何ヶ月

右ハ種痘規則ニヨリ(初種)(再種)(三種)スヘキ時期ニ有之候處(病氣ニ付)(何々
云々等ノ事故有之)目今種痘難相受候間(病氣全癒ノ上ハ)(右事故相了候上ハ)直
ニ可相受仍テ別紙醫師診斷書(肌感保證書)相添ヘ此段御届申候也

衛生

年月日

戸長氏名殿

右父或ハ何々

氏名印

別紙

(醫師診斷書式ハ零ス)

保證書

何村何番地居住(寄留)

何某幾男或ハ何々

氏名

當何年何ヶ月

右ハ何々云々等ノ事故有之目今種痘難相受事實相違無之此段致保證候也

何郡何村何番地居住(寄留)

親戚(隣保)氏名印

年月日

第二號

戸長氏名殿

届

何郡何村何番地居住(寄留)

何某幾男或ハ何々

氏名

當何年何ヶ月

右ハ本日御檢診可相受之處(病氣ニ付)(何々云々ノ事故有之出頭難相成候間)(病氣全癒ノ上ハ)(事故相了候上ハ)直ニ出頭檢診可相受仍テ(別紙醫師診斷書相添)
(保證人^{親戚}隣保連署ヲ以テ)此段御届申候也

右父或ハ何々

氏名印

年月日

何郡何村何番地居住(寄留)

衛生

二十二年四月
三町村制
ニ付戸長役
場ハ町村役
ニ改マル

衛生

別ニ帳 簿ヲ作 リテ割 シ印スヘ	第四號	考
第何號	種痘切符	
初(再)(三)種	用紙半紙四ツ切	
何月何日午前第何時迄ニ何町ノ種痘所へ出頭シ此切符ヲ醫師ニ 差出シ種痘ヲ受クヘシ	何郡何町何番地居住 何某幾男或ハ何々 氏名 明治何年何月何日生	
何町	寄留ノ者ハ 本籍ヲモ記 スヘシ	

五百七十九

別紙

醫師氏名殿

保證人

親戚(隣保)氏名印

第三號

(醫師診斷書式ハ零ス)

種痘人名簿

用紙半紙

證書ト割印	初種	再種	三種	備
明治何年何月何日善威	明治何年何月何日善威	明治何年何月何日不善威	明治何年何月何日善威	
何番地何某幾男女或ハ何々 氏名			天生痘	明治何年何月何日
			天然痘	明治何年何月

五百七十八

第七號

天然痘證

用紙適宜但可及の久ニ耐ユヘキ紙質ヲ撰ムヘシ
寸法 横五寸五分 縦三寸五分

天然痘證

何國何郡何村何番地居住

何某幾男或ハ何々

氏

明治何年何月何日生

寄留ノ者ハ
本籍ヲモ記
スヘシ

未種痘

明治何年何月何日初種痘

明治何年何月何日再種痘

明治何年何月何日三種痘

右明治何年何月天然痘證

何郡何村何番地

醫師 氏

名 印

明治何年何月何日

書式解釋

第三號種痘人名簿

一種痘人名簿ハ在籍寄留ヲ問ハス十六年未滿ノ者ヲ登錄スルモノトス

但在籍者ト寄留者トハ帳簿ヲ各別ニ製ス可シ

一出生兒アルルハ勿論他ヨリ入籍及寄留セル者アルルハ直ニ之ヲ登錄スヘシ

但入籍寄留等ノ者ハ其年月日及原籍ヲ備考欄内ニ詳記スヘシ

一死亡又ハ他ニ轉籍セル者アルルハ死亡ハ其年月日轉籍ハ其年月日及其府縣郡區町村等ヲ備考欄内ニ詳記シ氏名ノ欄ヲ抹消スヘシ

一他ニ寄留ノ者ハ前項轉籍ニ準シテ記入シ氏名ノ欄ニ掛紙ヲナシ本人復歸ノ節ハ之ヲ除キ其旨備考欄内ニ記入スヘシ

一滿十六年ニ至ル者ハ氏名ノ欄ニ朱線ヲ引ク可シ

一初再三種欄内ノ記入及割印ハ總テ種痘規則第一條第二條ノ時期ニ種痘ヲ行ヒタルルルニ限ルモノトス

一種痘規則第一條第二條ノ時期ニ依ラス又ハ同規則第三條ニ據リ種痘ヲ行ヒタル者ハ備考欄内ニ其年月日及初再三種若クハ四五種等ニ至ル迄其區別并ニ感否ヲ詳記スヘシ

二十一年十二月七日滋賀縣令第六十六號ヲ以テ一項追加ス其縣令ハ後ニ出

十九年本縣甲第十號ハ前ニ出
二十二年二月十九日滋賀縣

第五號種痘明細表

一種痘明細表ハ在籍寄留ノ別ナク其町村内ニ住シテ種痘シタル者ノ員數ヲ登記スヘシ

但シ一戸長役場部内一紙ニ記載スヘシ

一種痘規則第三條ニ據リ臨時種痘セシ者及種痘規則第一條第二條ノ時期ニ依ラズ

便宜種痘ヲ行ヒタル者ノ員數ハ表中ニ算入セス備考欄内ニ左ノ如ク記載スヘシ

規則第三條ニ據リ臨時種痘ノ者何百何十人内^{善感何人}不善感何人

規則第一條第二條ノ時期ニ依ラス便宜種痘セシ者何人内^{善感何人}不善感何人

第七號天然痘證

一天然痘證ニハ必ス未種痘若シハ初再三種痘ノ年月日ヲ式ノ如ク記入スヘシ

一天然痘證ノ者ヲ點檢セシホニ付與スル證書ニハ年月日ノ下ニ點檢ト記スヘシ

○明治二十一年十二月七日滋賀縣令第六十六號公報(十二月八日)

明治十九年二月本縣甲第十號布達種痘細則第五號種痘明細表樣式及符式解釋左ノ通

令第五號ヲ以テ町村制實施ス其縣令ハ第三十七條ニ出

改正追加ス

○

三 種 不 善 感	善 感	再 種		初 種		區 別	明治何年 自何月至何月 何郡何村外何ヶ村 種痘明細表	戸長 氏 名 印
		善 感	不 善 感	善 感	不 善 感			
		疾病事故ニテ種痘 セサルモノ						
						滿一年マ		
						滿一年以上二年マ		
						滿五年マ		
						滿十年マ		
						滿十五年以上		
						合計		

衛生

疾病事故ニテ種痘セサルモノ									
合計									

第五號種痘明細表解釋第一項ノ次へ

一 一年以上満二年マテノ欄ニハ一年一月以上満二年マテ一年以上満五年マテノ欄ニハ二年一月以上満五年マテノ者ヲ記入スヘシ以下諸欄皆同シ

第七百條 神奈川県十全醫院ニ於テ痘漿採收請求ニ應スル儀廢止

○明治二十二年三月十五日滋賀縣第二部衛第一二五號照會（公報三月十六日）
 神奈川県十全醫院ニ於テ痘漿採收汎シ請求ニ應スヘキ旨去ル十九年中同縣照會ニ依リ及御通報候義モ有之候處右ハ今回相廢シ候趣尙又通知致來候ニ付右様御了知開業醫師へモ便宜御通達方可然御取計相成度此段及御照會候也

○第七款 傳染病

第七百一條 傳染病豫防細則中改正

○明治十九年四月六日滋賀縣甲第五十五號布達（四月十日發布）

明治十六年七月本縣甲第八十七號布達傳染病豫防細則第十一條左ノ通改正ス

第十一條 掛官吏ノ許可ヲ得スレテ患者及ヒ死体ヲ他ニ移轉スヘカラス

但傳染病豫防規則第十四條第二項ヲ施行スル場合ニ於テハ吐瀉ノ二症ヲ兼備フル病者死者モ亦本條ニ準ス

右布達ス

第七百二條 傳染病檢疫醫師ノ旅費支給方

○明治二十一年九月十八日滋賀縣達第貳百十六號（郡役所戶長役場へ）

（本文ハ第四百四十六條ニ出）

第七百三條 虎列刺病豫防消毒心得書

○明治十九年五月卅一日滋賀縣達（檢疫本支部各署郡役所戶長役場縣立病院縣立學校へ）

十六年本縣甲第八十七號布達ハ第三編第百九十八條（下卷百六十三丁）ニ出

傳染病豫防規則ハ十三年七月九日太政官令ニシテ滋賀縣ニ布令ニテラス故ニ登載セス

二十年八月二十三日滋賀縣

訓令第八十三號
以テ全部
更正ノ分
ニ付消滅
雖モ參看
ノ編入ス
令ハ後ニ
出

客年訓令第三
一號ハ前ニ出
二號ハ前ニ出
五日滋賀縣訓
令第七十四號
ヲ以テ追加其
縣令ハ第六編
ニ載スヘシ

虎列刺病豫防消毒心得別紙之通訓令セラレタリ

別紙

虎列刺病豫防消毒心得書

訓第三二一號

虎列刺病豫防ノ方法ハ明治十三年^九月^九當省乙第三十六號達ニ詳ナリト雖尙昨年該病流行ノ經驗ニ徴シ別冊虎列刺病豫防消毒心得書ヲ編成セシム該達ト此心得書トヲ參互シテ其機變ニ應シ處措セラルヘシ(別冊ハ藍頭ノ通ニ付之ヲ略ス)

右訓令ス

明治十九年五月廿四日

內務大臣伯耆山縣有朋

滋賀縣令中井弘嚴

○明治二十年八月二十三日滋賀縣訓令第八十三號(公報八月二十四日)(郡役所月長役場へ)

客年^五訓第三二一號ヲ以テ內務大臣ヨリ訓令セラレタル虎列刺病豫防消毒心得書ヲ改正増補シ別冊ノ通令般更ニ訓令セラレ候ニ付該趣旨ニ基キ參酌處置スヘシ

別冊

訓第六六五號

客年^五訓第三二一號訓令虎列刺病豫防消毒心得書各章ヲ改正増補シ新クニ數章ヲ加ヘ別冊之通檢疫施行ノ方法ヲ指示ス此方法ニ基キ虎列刺病ノ豫防撲滅ヲ計畫セラルヘシ

右訓令ス

明治廿年八月十五日

內務大臣伯耆山縣有朋

(別冊)

改正虎列刺病豫防消毒心得書

傳染病ヲ撲滅スルコトハ機會時期ヲ必要トス先年來我邦ニ於ケル虎列刺病ノ流行猖獗ヲ極メタル事實ニ就テ觀察スルモ其初發即チ儘々二三ノ患者ニ過キタルノ時ニ於テ迅速之カ撲滅ニ着手シ且其消毒法ノ綿密周到セルモノハ常ニ其結果ヲ呈シ又未タ該病發生ヲ見サル所ニ在テハ清潔其他ノ豫防法ヲ施行シ遂ニ其傳染ヲ免レシ

衛生

ハ皆機會時期ヲ失ハサルニ由ル然レトモ其初發ニ於テ消毒豫防ヲ等閑ニシ毒焰熾盛ノ後ニ及テ假令非常ノ力ヲ盡スモ兇勢猛烈復テ制スヘカラサルハ實際ニ徴シテ明カナリ故ニ虎列刺病未發ノ時ニ於テハ攝生清潔ヲ力メテ常ニ之レカ豫防ヲ爲シ若シ一朝該病發生スルヲ認メハ其末ヲ流傳セサルニ先テ急ニ主務吏員ニ於テ撲滅ノ方法ヲ施行スルハ勿論一層攝生清潔ヲ謀リ苟モ該病誘發ノ虞アルモノヲ除却シ以テ虎列刺病毒ノ侵襲ヲ防クコト殊ニ必要ナリトス

第一章 豫防準備

一般傳染病ヲ豫防スルハ人民各自ニ於テ常ニ攝生清潔ヲ行ハシムルハ勿論殊ニ例年炎暑ニ向ントスルノ前及其交通アル地方ニ虎列刺患者アル時ニ方テハ尙更之ヲ勸奨シ各家互ニ注意セシメ苟モ該病誘發ノ媒介トナルモノヲ却ケ自衛ノ念ヲ喚起セシメ又互ニ注意シテ隱匿ノ弊ヲ去レハ其豫防上ニ功績ヲ收メ得ヘキハ敢テ疑テ容レサル處ナリ平素此念ヲ保ツシメハ一旦發病者アルモ檢疫ノ施設便利ニシテ災チ一小點ニ息滅スルコトヲ得ヘシ而シテ流行時ニ至リテハ無病地ヨリ有病地ニ出

町村制實施ノ
地方ハ月長ハ
町村長ニ改マ
ル

稼ノ者其病毒ノ傳染ヲ避ケンカ爲メ毒ヲ懷テ歸郷スルヨリ病毒ヲ輸入スルモノ間々之アリ依テ是等ニ注意スルコト殊ニ肝要ナリトス

第一條 區戸長ハ各町村内ニ便宜組合ヲ編成シ常ニ清潔掃除及虎列刺病豫防消毒ノ實施ニ就キ約束ヲ設ク之ヲ履行セシムルヲ要ス

第二條 區戸長ハ所轄地外ノ遠近ニ拘ハラズ所轄地ト交通アル場所ニ虎列刺患者アルカ又ハ該病流行ノ兆アルトキハ石炭酸水稀硫酸昇汞水等ノ如キ消毒藥及其他檢疫ニ屬スル要具ヲ備置キ其交通上ヨリ病毒ヲ侵入セシメサルニ注意シ且組内ヨリ該病流行スル地ニ出稼人ノ有無及組内互ニ該患者ノ有無ニ注意セシムルヲ要ス若シ該病アル地ニ往來シタル者下利ヲ爲シタル場合ニ於テハ其消毒等虎列刺病ニ同様ナル處置ヲ行フヘシ

此場合ニ於テハ組内ヲシテ相當ノ方法ヲ設ケンメ大糞池等消毒ニ困難ナル厠園ニ上ラシメス成ルヘシ小糞池ヲ設ケシメ且吐瀉物ヲ大糞池等へ投棄セシメサルヲ可トス

第三條 前條ノ場合ニ於テハ區戶長ハ各組合約束ノ履行ヲ監査シ該病豫防消毒ノ要領ヲ各組合ニ説示スルヲ要ス

第二章 撲滅法

虎列刺患者發シタルトキハ其消毒撲滅法ヲ實施スルハ主トシテ巡查町村吏擔當スルモノナレトモ此場合ニ於テハ必ス經驗ニ富ミタル衛生課員警部若シハ郡書記之ヲ監督セサルヘカラス其實務者ノミニニ放任シテ其監督ヲ怠ル時ハ爲ス所其方法ヲ得ス勞多クシテ効寡ナシ況ンヤ豫防消毒不十分ナルトキハ其害一所ニ止マラス忽チ病毒ヲ散亂シ其災害ノ及フ所測ルヘカラサル於テオヤ而シテ該病豫防撲滅ノ實施ヲ周密活潑ニシテ其効績ヲ確ムルコトハ時々高等官ノ巡視ヲ最緊要ナリトス

第四條 虎列刺患者發生シタルトキハ直ニ豫防消毒法ヲ實施シ置キ傍ヲ其患者ハ傳染シタルモノナルヤ特發シタルモノナルヤヲ探知スル爲メ左ノ事項ヲ問フコトヲ要ス

一 發生ノ時日

一 發病前當人及家内ノ者他ノ該病アル所ヘ行キシコトアリヤ且其所ニ於テ飲食セシコトアリヤ

二 該病アル所ヨリ來リシ物品ナキヤ

三 近頃該病アル地ヨリ容來若クハ職人婢僕ノ傭人ヲ爲セシコトナキヤ

四 曾テ其家ニ該病アリシコトナキヤ或ハ近頃下利ヲ患ヒシ者ナキヤ

五 曾テ近隣ニ該病アリシヤ又ハ現在該病アリヤ

以上ヲ質問シ其傳染シタルモノナルカ又ハ特發シタルモノナルカヲ明カニスヘシ而シテ傳染ノ來歴正シク知レサルモ決シテ豫防消毒ニ怠ルヘカラス當時傳染ノ証迹詳ナラサルモ後日ニ至リテ之ヲ發見スルコトアリ又終ニ傳染ノ迹詳ナラサルモノヨリ他ヘ傳染スルコトアルハ往々見ル所ナレハナリ

第五條 傳染ナルト特發ナルトニ拘ラス其最初ニ在テハ速ニ嚴重ノ手段ヲ施シ患者ハ第三章ニ依リ取扱ヒ第七章ニ依リ充分ノ消毒法ヲ行ヒ一家限リニ之ヲ撲滅スルヲ力ムヘシ此場合ニ於テハ醫員ヲシテ該家及近隣ヲ巡診セシメ衛生法ヲ論

示シ殊ニ飲食ヲ戒慎セシムル等諸般ノ注意ヲ怠ルヘカラス

第六條 前條ノ場合ヨリ愈々患者ヲ發生シ該病傳播ノ兆アルトキハ地方長官ハ檢疫委員ヲ設ケテ必要ノ場所ヘ派出シ消毒ノ實施ヲ監督セシメ且豫防上ニ於テ各所互ニ脈絡ヲ通セシムヘシ又祭禮等ノ如キ人民ノ群集飲食スル事項ニ注意シ醫師ヲシテ吐瀉ノ患者ヲ届出サシムヘシ但本文ノ場合ニ於テハ第五條ノ方法ヲ充分施行スルハ勿論一局部ノ遮斷ヲ必要ト認ムル場合ニ於テハ第六章ニ從テ之ヲ施行スヘシ

第七條 隣府縣及交通アル府縣ニ虎列刺病アリテ自府縣ヘ患者及死者ヲ輸入シタルトキ又ハ歸府縣後發病シタル者アルトキニ於テハ第五條第六條ノ方法ニ依リ充分消毒撲滅ヲカムヘシ

第八條 船舶ノ交通アル府縣ニ該病流行スルノ通知ニ接スルトキハ地方長官ハ直ニ要港ヘ主務吏員ヲ派出シ傳染病豫防規則第十三條ニ據リ充分注意セシメ若シ患者アルヲ探知シタルトキハ第五條ニ依リ速ニ處置スヘシ又下宿、旅人宿、殊ニ

木賃宿、安泊等ニハ日々主務吏員ヲ派遣シ行旅人ノ吐瀉病ニ罹ル者ナキヤ否ニ注意セシムヘシ

第九條 隣府縣及直接交通アル府縣ニ該病流行スルモ未タ病源ヲ流傳セサル場合ニ於テハ地方長官ハ該病アル地方ヨリ通路ニ當ル要衝ノ地又ハ停車場ニ主務吏員ヲ派出シ行旅人ニ注意セシメ該患者死者若シハ其疑アル者ヲ發見シタルトキハ應當ノ處置ヲ爲サシムヘシ但一般通行人ヲ引留メ石炭酸水ヲ撒注シ又ハ診察ヲ爲スカ如キ事ヲ要セス

第十條 自府縣ニ於テ該病流行スルトキハ速ニ隣府縣及交通アル府縣ヘ電報シ若シ流行地ト直接スル土地其管轄廳ニ遠隔シタルトキハ最寄郡區役所又ハ警察署ニ併テ通報スルヲ要ス

第十一條 寄宿舍、旅人宿、下宿屋、人足部屋、貧院、囚獄等ノ如キ多人數群居スル家ニ患者發生シタルトキハ先ツ同室者ノ外出散亂ヲ禁シ直ニ患者ヲ隔離シ其室ハ勿論必要ト認ムル場所ニハ消毒ヲ充分施行シ其同室者ハ一々入浴セシメ同室

者ノ衣類夜具等病毒ニ汚染シタルモノ若クハ其疑アルモノハ第七章ニ依リ消毒
スヘシ且患者ト離隔シタル日ヨリ起算シ五日間同所ニ滞留セシメ他ト交通ヲ絶
テ同症ニ罹ルナキヤ否ニ注意スヘシ若シ其場所狹隘ナルカ又ハ都合ニ依リテハ
他ノ一家ヲ以テ之ニ充テ其家ニ分居セシムルカ若クハ悉ク其家ニ移シ居ラシム
ルモ妨ナシ

又學校、寺院、劇場等ノ如キ多人數群集スル場所ニ該患者アリタルトキハ患者ハ
直ニ離隔シ病毒汚染ノ虞アル者ハ一時之ヲ止メ相當ノ消毒ヲ爲シ宿所氏名並其
行先ヲ聞キ其旨ヲ行先ノ檢疫委員ニ通知スヘシ

第十二條 日本形諸船舶中ニ該患者死者アリタルトキハ其吐瀉物ヲ何ノ處ニ投棄
シタルカヲ查明シタル上患者ハ陸上ニ於テ避病ニ適應ノ場所ニ送り死者ハ消毒
ノ上火葬ノ手續ヲ爲スヘシ又其船舶ハ相當ノ消毒ヲ施シ且旗號ヲ立テ人家及他
ノ船舶ニ遠リタル所ニ碇泊セシメ又飲食起臥ヲ共ニシタル同船者ハ消毒ノ上其
船中又ハ離隔所ニ五日間滞留セシメ同症ニ罹ルナキヤ否ヤニ注意スヘシ

漁車中ニ該患者死者アリタルトキハ前項ニ準シ其取扱ヲ爲シ病毒汚染ノ虞アル
同室者ハ消毒ノ上其宿所氏名並其行先ヲ聞キ其旨ヲ行先ノ檢疫委員ニ通知スヘ
シ

第十三條 吐瀉物ヲ河中ニ投棄シタルコトヲ認知シタルトキハ其下流ニ於テハ當
分其水ヲ飲料洗濯用トスルヲ止メ若シ已ムコトヲ得サレハ煮沸シテ用ヒシムヘ
シ

第三章 患者取扱

虎列刺病毒ヲ蔓延セシムルハ多クハ該病流行時ニ方リ前驅下利若クハ吐瀉ヲ發ス
ル者アルモ醫師ノ診察ヲ受ケサルヲ以テ虎列刺病タルヲ知ラス尋常ノ下利若クハ
吐瀉ト心得隨意ニ他人ト交通シ又僕婢雇人ニシテ下利若クハ吐瀉スル者アルトキ
ハ該主人ニ於テ虎列刺病ナラザカチ懸念シ請人ニ引渡シ又ハ實家ニ送ル等ヨリ免
角病毒ヲ散蔓セシムルコト比々之アリ且虎列刺病ト判明スルモ患者取扱ノ不注意
ヨリシテ亦傳播ヲ促スコト少カラサルヲ以テ左ノ各條ヲ施行セシムルコト緊要ナ

第十四條 虎列刺患者ハ勿論該病流行時ニ當リテハ吐瀉若シハ下利アル患者ノ吐瀉物汚染物等ハ之ヲ一所ニ集メ置キ散亂セシメス且醫師若シハ掛官ノ出張スル迄該患者ヲ他ニ移サシメス又家族親族タリトモ看病者ノ外妄リニ室内ニ立入ラシメサルヲ要ス

第十五條 虎列刺患者アルトキ左ノ各項ニ該當セサル者ハ患者ヲシテ避病院ニ移シ治療ヲ受ケシムルヲ要ス但其該當スル者モ掛官ニ於テ特ニ病海傳播ノ虞アリト認ムル場合ニ於テハ避病院ニ入ラシムルヲ可トス
一 家族ノ居間及臺所ヲ通行セシメテ至リ得ヘキ病室ヲ有スル者
二 特別ノ看病人アル者
三 特別ノ家具什器ヲ有スル者
四 充分ノ消毒法ヲ實施シ得ル者
五 主治醫アル者

第十六條 避病院ニ送ルヘキ患者ハ釣臺又ハ戸板等ニ布圍チ敷キ風通シ善キ日除ヲ備ヘテ之ニ載セ吐瀉物ヲ受クルモノ及氷若シハ冷水ヲ備フヘシ且此際付添看病人ヲ爲ナサントスル者アラハ之ヲ許スモ妨ナシ

第十七條 第十五條ニ依リ自宅治療セシムルトキハ豫防消毒チ一層周密ニシ衛生官吏警察官又ハ檢疫委員ノ設ケアルトキハ該委員時々之ヲ見廻ルヲ要ス

第十八條 患者アリシ家ノ家族及看病人等ノ如キ患者同家ノ者若シハ該家ニ交通シタル者ニシテ下利若シハ吐瀉シタルトキハ其吐瀉物及汚染物ニハ虎列刺患者ノモノト同様ノ消毒ヲ爲スヲ要ス

第十九條 吐瀉物及汚染物ヲ取扱ヒ若シハ患者ニ觸レタル者ハ直ニ他ノ物品ニ觸ルヘカラス豫メ鉢又ハ桶ノ類ニ弱石炭酸水ヲ入レ置之ニテ手ヲ洗フヘシ又患者ヲ取扱フ際自己ノ衣服ヲ患者ノ吐瀉物ニ觸レサル様注意スルヲ要ス

第二十條 吐瀉物ヲ拭フニハ燒藥シテ妨ナキモノヲ用フヘシ而シテ其使用シタルモノハ吐瀉物受器ニ入レ稀硫酸ヲ注シヘシ

第廿一條 該患者アリタルトキ病毒汚染ノ疑ナリ且患者ニ必要ナラサル物品ハ給テ他室ニ移サシメ消毒施行ノ際無益ノ手数を煩サ、ルヲ要ス

第廿二條 該患者必要ノ器具藥用品食用品等ハ其室内ニ於テ使用シ他ニ出サシメサルヲ要ス

第廿三條 患者ノ室内ニアリタル飲食物ニシテ吐瀉物ニ汚染セシモノハ勿論其疑アルモノモ吐瀉物同様ニ處置スルヲ要ス且患者ノ食膳ニ上リタル殘餘食物モ亦同様處置スルヲ要ス

第廿四條 吐瀉物受器ハ二通り備ヘ置豫メ稀硫酸ヲ容レ甲器ノ吐瀉物満ツルニ先チ乙器ト交代シ室内ニ置クヘシ但此受器ハ金屬類ヲ用ユヘカラス
其吐瀉物ハ別ニ室外ニ備ヘアル吐瀉物溜瓶桶、明キ樽等ニシテニ移シ尙稀硫酸ヲ注キテ燒却ノ手續ヲ爲スヘシ但吐瀉物溜ニハ必ス蓋ヲ爲シ置蚊ヲ防クヘシ且下水井戸ノ近傍ニ置クヘカラス

第四章 檢疫委員

虎列刺病ノ豫防撲滅ヲ圖ルニハ專務者ヲ置キ之ニ從事セシムルニアテカレハ到底其目的ヲ達シ得ヘカラス是レ檢疫委員ノ設置ヲ必要トスル所以ナリ

第廿五條 檢疫委員ハ第六條該病傳播ノ兆アル場合ハ勿論隣府縣及交通アル府縣ニ該病流行シ傳播ノ恐アル場合ニ於テ之ヲ設クヘシ

第廿六條 檢疫委員チテ取扱ハシムヘキ重ナル事項左ノ如シ

- 一 該病ノ傳染ナルヤ否ヲ探知スルコト
- 一 傳染ト特發トヲ問ハス第五條ニ依リ速ニ充分ノ處置ヲ爲スコト
- 一 消毒藥及其要具ヲ準備スルコト
- 一 消毒藥ノ種類、配合、用量ニ注意スルコト
- 一 消毒法ヲ實地ニ就キ監督スルコト
- 一 必要ノ場合ニ於テ毎病家ニ就キテ交通遮斷ノ取締ハ勿論一局部限リ遮斷シ得ヘキヤ否ノ鑑別及其實施ヲ監督スルコト
- 一 遮斷地内救助ニ注意スルコト

用要原本ノマ

- 一 遮斷地内清潔法ヲ監督スルコト
 - 一 避病院ヲ巡視スルコト
 - 一 醫員巡診法ヲ經營スルコト
 - 一 患者ヲ隔離シ又ハ同室者ヲ患者ヨリ隔離スルコト
 - 一 攝生法、飲料水、飲食物及清潔法ノ豫防上用要ナル件ヲ諭示スルコト
 - 一 特ニ寄宿舍、旅人宿、下宿屋、人足部屋、貧院、囚獄等ニ注意スルコト
- 第廿七條 檢疫委員及其他豫防ニ從事スル者ハ成ルヘク特別ノ消毒衣ヲ着用シ病毒汚染ノ虞アル毎ニ之ヲ脱シ充分消毒法ヲ行フヘシ

第五章 避病院 附 隔離所

避病院ハ患者ヲ治療スルト病毒ヲ他ニ散發セシメス一所ニ隔離シテ豫防スルトノ二ツノ目的ヲ達スルカ爲メニ設クルモノナリ然ルニ動モスレハ避病院ヲ嫌忌スルノ感ヲ慝クモノ間々之アルカ故ニ患者取扱方ニハ殊ニ親切ナルヲ要ス

隔離所ハ患者ト同家ニアリタル者又ハ病毒ニ傳染シヨルヤノ疑アル者ヲ隔離シ

伏ノ有無ヲ試ルノ所トス

第廿八條 人口稠密ノ市街ニ於テハ何時ニテモ開院シ得ヘキ避病院ヲ成ルヘク市外ニ準備シ置クヲ要ス且村落ニ於テモ第五條第六條ノ如キ場合ニハ新ニ避病院ヲ設ケ又ハ相當ノ家屋寺院等ヲ避病院トシ若クハ隔離所トスヘシ其距離ハ道路ノ便ヲ計リ餘リ僻遠ニ過キサルヲ可トス又偏僻ノ村落ニ在テ一家ニ數名ノ患者ヲ發シ又ハ連擔ニ患者發生シタルトキハ土地家屋ノ狀況ニ依リ健康者ヲ他ニ隔離スル便方アルヘシ

第廿九條 入院患者ノ家族等ニシテ面會ヲ申出テ若クハ付添看護ヲ乞フ者アルトキハ醫員其他ニテ其心得方ヲ諭示シ之レヲ許スヘシ

第三十條 市街ニ屬スル避病院掛員ハ當直醫、調藥生、世話掛、各一員以上ヲ置キ且看護者、小使、排泄物取扱人ヲ分科シテ置カサルヘカラス又賄人ハ一切病室ニ立入ラシムヘカラス村落ニ於テハ之ニ準シ簡易ニスルモ妨ナシ但掛員看護者等ノ身体疲勞シタル者ハ休息セシムルヲ要ス

第三十一條 私ニ避病舎ヲ設ケ該患者ヲ入室治療セシムルハ妨ナシト雖モ其場所及消毒其他ノ方法ハ府縣長官ノ認可ヲ受クヘシ

第六章 交通遮斷

交通遮斷トハ醫師檢疫委員看護人神佛教師等職務上必要ノ者ノ外交通ヲ許サ、ルヲ云フ抑虎列刺病毒ハ患者僅少ナル時期ニ於テ撲滅セス一旦散蔓セシムルトキハ之ヲ防遏スルコト極メテ難シ故ニ初獲ニ在テ之ニ一人ニ於テ撲滅シ若シ一人ニ於テ撲滅シ能ハサルトキハ一家ニ於テ撲滅シ一家尙能ハサルトキハ一村一部落ニ於テ撲滅スルチカトムヘシ是交通遮斷ノ止ムヘカラサル所以ナリ然ルニ此方法ハ該病發生ノ最初ニ於テ之ヲ實施シ病毒ヲ撲滅スルニ最モ効アリト雖モ該患者各所ニ散蔓シ若クハ其流行數町村ニ亘リ已ニ蔓延セル時ニ及テハ局部遮斷ヲ施行スルハ極メテ困難ナルノミナラス利害相償ハサルモノアルカ故ニ遮斷ハ實務者ニ於テ極メテ精細ナル注意ヲ要ス

第三十二條 虎列刺病發生ノ初ニ於テハ左ノ標準ニ依リ交通遮斷ヲ施行スルヲ要ス

ス

家原本ノマ、

一該患者アリタル家一軒立ニ係ルトキハ家ヲ遮斷ス但一家内ト雖モ別棟等判然區別スルチ得ヘキトキハ其部分ノミヲ遮斷シ又極メテ病家ニ接近シタル家屋不潔狹隘ニシテ病毒ヲ傳播スルノ虞アルトキハ其狀況ニ依リ隣家ヲ遮斷スルコトアルヘシ

二市街村落ノ一部ニ於テ該患者陸續發生シ漸次他ニ傳播スルノ恐アルコ方り地方長官ハ交通遮斷施行ヲ以テ病毒ノ蔓延ヲ防キ得ヘキト認ムル場合ニ於テハ土地ノ狀況ニ依リ傳染病豫防規則第十五條ニ從ヒ經伺ノ上其局部ヲ遮斷ス

第三十三條 交通遮斷ヲ施行シタル場合ニ於テハ其見易キ標記ヲ貼シ遮斷ノ區域ヲ明示スルヲ要ス

第三十四條 遮斷ヲ實施シタルトキハ郵便物日用品ノ類ハ相當ノ取扱人ヲ設ケテ其用ヲ辨セシムヘシ

第三十五條 遮斷部内ニ在ル者ハ常ニ身体ヲ清潔ナラシメ衣類夜具ハ日光大氣ニ

曝シ垢レタル衣類ハ屢々洗濯セシムヘシ若シ着換ナキ者アレハ相當ノ方法ヲ設ケテ之ヲ爲サシムルヲ要ス

第三十六條 遮斷部内ノ家屋ハ戸障子ヲ開キテ室内常ニ日光大氣ヲ通セシムルヲ要ス

第三十七條 遮斷部内ハ時々醫員ヲシテ患者ノ有無ニ注意セシメ下利若クハ吐瀉ノ患者アリタルトキハ其吐瀉物汚染物ハ虎列刺患者ノモノト同様ノ消毒ヲ爲シ又殊ニ飲食物ニ注意セシムルヲ要ス

第三十八條 患者ノ吐瀉止ミ或ハ死亡シ或ハ之ヲ他ニ移シタル日ヨリ計算シ五日ヲ經過シテ異常ナキトキハ遮斷ヲ解クヘシ

記算原本ノマ

第七章 消毒藥ノ種類及消毒ノ方法

消毒法ハ消毒藥ノ種類、用量配伍等其當ヲ得サルトキハ消毒ノ効ナキノミナラス消毒濟ノ安心ヨリシテ其後ノ注意ヲ缺キ却テ病毒ノ蕃殖ヲ逞ツセシムルノ憂ナシトセス故ニ主務吏員ニ於テハ其藥力ノ病毒ヲ殲滅シ得ヘキ適當ノ種類用量ニ依ヒ

決シテ石炭酸ノ臭氣硫酸ノ沸騰等其現像ヲ皮相シテ消毒ノ濟否ヲ斷定スルノ不注意ナキヲ要ス

第二十九條 消毒藥ノ種類及消毒ノ方法左ノ如シ

- 一 強石炭酸水 石炭酸五分水百分 ハ消毒後使用スル衣類器具等ニシテ變色毀損ヲ忌ムモノ、消毒ニ用ヒ又稀硫酸缺乏シタル場合ニ於テハ吐瀉物、糞池及其周邊ノ消毒ニ用ニ

石炭酸ヲ溶解スルニハ先ツ石炭酸十分ニ水一分ヲ加ヘ振蕩シテ澄明ノ液ト爲シ徐々ニ水ヲ注キツ、攪拌スレハ一時濁濁ヲ生シ遂ニ其水量二百分ニ達スルニ至リ全ク溶解シテ澄明ノ液ト爲ル是即チ強石炭酸水ナリ但温湯ヲ用フレハ其溶解殊ニ速カナリ

- 一 弱石炭酸水 石炭酸二分水百分 ハ手足等ノ拭淨「スプレー」等ニ用フ此液ハ強石炭酸水一分ニ水一分五厘ヲ加ヘテ之ヲ製ス

一 稀硫酸 硫酸二十分水百分 ハ吐瀉物、糞池及其周邊下水其他總テ變色毀損ノ憂ナキモノ、

消毒ニ用フ其價廉ニシテ消毒ノ効較著ナルモノトス

稀硫酸ヲ製スルニハ百分ノ水ヲ取り絶ヘス其水ヲ攪拌シツ、注意シテ徐々ニ硫酸二十分ヲ注加シ製スヘシ決シテ硫酸中ニ水ヲ注加スヘカラス

稀硫酸ヲ糞池ニ入ルレハ洩騰ヲ起シ糞便溢スルノ恐アリ依テ糞便多量ナルトキハ其半量ヲ他ノ器ニ移シ各別ニ消毒スヘシ

一格魯兒石灰水(即チ鹽化石灰水) 格魯兒石灰 四分水百分 芥溜、下水、床下、土間ノ消毒ニ用フ本品ハ用ニ臨テ製スルヲ可トス

一昇水昇水一分乃至二分ハ吐瀉物ニ汚染シタル物品ニシテ燒却スヘキモノ床下及屍体ニ係ル消毒ニ用フ但糞池及吐瀉物ニ用フヘカラス本品ハ猛毒ニシテ且無色無臭ナルヲ以テ使用者ノ不注意ニ由リテハ大害ヲ醸スコトアリ此故ニ使用ノ際殊ニ注意スヘシ但飲料水ニ滲透スヘキ場所ニ決シテ撒注スヘカラス

本品百分ニ硫酸銅一分ヲ加フレハ藍色ノ水ト爲リ一見シテ昇水ナルヲ知ルヲ得テ安全ナルヘシ尙此他昇水ノ効力ヲ失ハサル色素ヲ用ヒ着色スルモ妨

ナシ

本品ハ磁器又ハ桶ニ貯フヘシ金屬ノ器ニ貯フヘカラス

以上ノ各消毒藥ニハ劇シキ藥ナリ飲ムヘカラスト票記スヘシ

一濕熱消毒ハ消毒スヘキ物品ヲ一時間以上熱湯ニ浸漬シテ密蓋シ又ハ熱湯ニテ三十分時間以上煮沸シ又ハ攝氏百度以上ノ蒸氣ニテ三十分時間以上蒸騰スヘシ

乾熱消毒ハ消毒スヘキ物品ヲ攝氏百度以上ノ熱ニ觸レシムルコト四十分時間以上ナルヘシ

本法ハ消毒ノ上使用スヘキ物品ニシテ熱ニ堪ヘ能フモノ、消毒ニ用フ

一亞硫酸蒸氣ハ室内ノ消毒及色ノ變セサル衣類器具等ノ消毒ニ用フ

第四十條 虎列刺患者ノ吐瀉物汚染物ハ左ノ方法ニ基キ消毒法ヲ行フヘシ

第一 患者ノ吐瀉物ニハ其四分一ノ稀硫酸ヲ混シテ攪拌スヘシ又汚染物ニシテ消毒後使用スヘキモノニハ強石炭酸水ヲ注シヘシ其用量ハ物品ニ浸潤スルヲ

度トス

第二 患者ノ通ヒタル便所ニハ糞便四分一ノ稀硫酸ヲ灌キ攪拌シ糞便ハ汲取ラシメ燒却埋却ノ手續ヲ爲スヘシ但汲取ノ後糞池及其周邊ニハ尙充分ニ消毒藥ヲ灌クヘシ

第三 大糞池若クハ肥料溜等多量ノ糞便ヲ貯フル場所ニ患者吐瀉シ若クハ吐瀉物ヲ投棄シタルトキハ凡其糞量四分一ノ稀硫酸ヲ混シテ能ク攪拌シ尙其内面及周圍ニ普ク稀硫酸ヲ撒注スヘシ

第四 該病家及近傍ノ下水亦溜又ハ土間線先キ等吐瀉物ヲ放下シ又ハ吐瀉シタルノ懸念アル場所ニハ稀硫酸、格魯兒石灰水等ヲ灌注シテ攪拌シ若クハ撒布シ塵芥等ハ燒却スヘシ

第五 吐瀉物受器及運搬器ハ昇永水又ハ強石炭酸水等ヲ灌注シテ洗淨シ該運搬人夫ノ衣類ハ之ヲ貸與シ其衣類ハ乾濕熱又ハ強石炭酸水消毒ヲ行ヒ其手足ヲ弱石炭酸水ニテ拭淨シ自己ノ衣類ト更ヘシムルヲ要ス

第六 吐瀉物ニ汚染シタルモノニシテ其燒却スヘキ物品大畧左ノ如シ

- 一 患者ニ被覆シタル衣類臥具蚊帳蔭及其平臥シタル場所ノ疊等吐瀉物ニ汚染シタルモノ
 - 二 看病人及同室者ノ衣類等ニシテ吐瀉物ニ汚染シタルモノ
- 右ノ物品ト雖モ真正ノ裝置ナル乾濕熱消毒ヲ行ヒ又ハ一時間以上煮沸シタルモノハ之ヲ使用スルモ妨ナシ

第七 家屋ノ消毒手續左ノ如シ

- 一 患者ノ居室及其他消毒ヲ必要ト認ムル室ハ之ヲ密閉シ疊ヲ上ケ亞硫酸消毒蒸八疊間ニ硫黃三百目ノ割合ヲ以テ三ヶ處ニ分チ燒燒シ少クモ二時間ヲ放置スヘシ
- 二 行ヒ若シ床及床下ニ吐瀉物滲漏シタルトキハ昇永水又ハ格魯兒石灰水等ヲ充分ニ灌クヘシ但同室内ニアリタル疊其外諸物品器具ハ同時ニ該消毒藥ヲ以テ其消毒ヲ了スヘシト雖モ鐵屬製器及時計類并ニ色ノ變スヘキ物品器具ハ之ヲ取除キ強石炭酸水ヲ以テ消毒スヘシ
- 三 消毒後室内ヲ掃除シ塵芥ハ皆燒却シ諸物品器具疊建具等ハ室外ニ出シテ日

光大氣ニ曝シ而シテ弱石炭酸水ヲ以テ各所ヲ拭淨スルヲ要ス以上ノ事
トキハ各室開放シ日光大氣ヲ通セシムヘシ

三室内ノ構造裝飾等亞硫酸蒸氣ノ爲メ損傷ヲ來スヘキ虞アル場合ニ於テハ丁
寧ニ強石炭酸水ヲ以テ拭淨シ且同室内ニアリタル物品器具ハ強石炭酸水ヲ
以テ消毒シ數日開放シテ日光大氣ヲ通シ家人ノ起居ヲナサシメタルヲ要ス

第八 病家ニ出張シタル主務吏員人夫等ノ足袋、靴、草履等ハ相當ノ消毒ヲ爲ス
ニ怠ラサルヲ要ス

第九 患者發病前交通シタル家又ハ病家ニ交通シタル者ノ家ニシテ消毒ヲ必要
ト認メタル場合ニ於テハ左ノ消毒ヲ爲スヲ要ス但五日以上ヲ經過シ傳染ノ懸
念ナシト認ムルトキハ之ヲ行ハサルモ妨ナシ

一 便所ニハ稀硫酸等ヲ撒布スルコト

二 家族ニハ悉ク入浴若クハ行水ヲ爲サシメ居タル衣類ハ之ヲ着更ヘ洗濯
セシムルコト

第十 患者ト同家屋ニアリタル者ハ該患者ヲ避病院離隔スルカ若クハ死亡シテ
屍体ヲ取方付ケ若クハ全治シタルトキハ各自ノ衣類ニシテ病毒付着ノ疑アル
モノハ之ヲ消毒シ入浴若クハ行水ヲ爲シテ身体ヲ清潔ナラシムヘシ

第十一 日本形船舶ニ於テ患者死者アリタルトキハ其吐瀉ヲ爲シタル場所ニ昇
汞水又ハ強石炭酸水ヲ注キテ充分消毒ヲ爲シタル上吐瀉物ニ汚染シタル物品
ハ本條第六項ニ據リ處置シ船体ハ一般ニ水若クハ海水ヲ以テ丁寧ニ洗滌スヘ
シ

第十二 瀛車ニ於テ患者死者アリタルトキハ其吐瀉物ニ強石炭酸水ヲ注キ灰、
砂ノ類ヲ其上ニ撒キテ之ヲ器物ニ移シ取り焼却シ其場所ニハ昇汞水又ハ強石
炭酸水ヲ注シヘシ

第十三 死者取扱ハ其死体ニ被ヒテ蒲團又ハ衣類ニ昇汞水ヲ充分ニ撒キ次ニ
其蒲團等ヲ除ケ着衣ノ上ヨリ尙充分ニ昇汞水ヲ注キ之ヲ棺ニ入ル、コハ焼却
スヘキ衣類或ハ襪等ニ昇汞水ヲ浸シタルモノヲ死者ノ肛門部ニ敷クヘシ又

棺ト死体トノ間隙アル所ニハ成ルヘク昇水ヲ浸シタル襦袢等襦袢等ヲ用フルハ尚
等ヲ用フルハ尚可^レ以テ詰メ物ト爲スヘシ

第四十一條 消毒藥ハ病毒ヲ消滅スルニ緊要ノモノナレハ流行時ニ方リ該患者ナ
キ家ニ徒ラニ石炭酸水ヲ撒布シ又ハ亞硫酸蒸氣ヲ爲シ又ハ通行人ニ石炭酸水ヲ
撒注スルカ如キハ空ク消毒藥ヲ徒費スルノミニテ更ニ其効ナキモノナリ寧ロ其
消毒藥ヲ備置下利若クハ吐瀉スル者アル場合ニ於テ直ニ便所ニ之ヲ注キテ消毒
スルコト極メテ必要ナリトス

第八章 消毒の清潔方

一 局部ニ數人ノ患者ヲ續發シ傳播ノ景況著キトキハ其部分ヲ儘シテ消毒の清潔方
ヲ施行スルヲ可トス

第四十二條 下水ハ稀硫酸又ハ格魯兒石灰水ヲ灌キ消毒シタル後水或ハ海水ヲ以
テ洗滌シ其疏通ニ注意シ汚泥ヲ阻滯セシメサルヲ要ス

第四十三條 芥油ニハ先ツ格魯兒石灰水等ヲ撒布シテ之ヲ取除キ他ノ安全ナル場

所ニ運搬シ其跡ニ又格魯兒石灰水等ヲ撒布シ置クヲ要ス

第四十四條 糞便ハ稀硫酸ヲ加ヘテ之ヲ汲取リ他ノ安全ナル場所ニ運搬シ糞池及
其周邊ニハ稀硫酸ヲ注キ置キ爾後時々消毒藥ヲ撒布スルヲ要ス

第四十五條 不潔ノ家屋ハ大掃除ヲ爲シ器具ヲ出シ疊ヲ揚ケ日光ニ曝シ床下ノ不
潔物ヲ除去スヘシ其跡ニ乾キタル土砂又ハ石灰等ヲ撒布スルヲ可トス且戸障子
ヲ開キテ空氣ヲ流通セシメ衣服臥具等ハ日光ニ曝シ其垢ヲ除クモノハ洗濯シ且
室内ヲ拭淨スルヲ要ス

前數章ノ外特ニ開港場ノ主務者ニ必要ノ條項

第一條 直接ノ交通アル外國港ニ虎列刺病流行スルヤ否ヤニ常ニ注意シ若シ該病
流行スルコトヲ偵知シ得タルトキハ直ニ内務省ヘ申報シ入港ノ船舶ニ注意シ内
地ヘ病毒ヲ輸入セシメサルヲ要ス且何時ニテモ檢疫ヲ執行シ得ヘキ準備ヲ爲シ
置クヘシ

第二條 未タ海港檢疫ノ告示ナキニ先チ自縣ヘ入港シタル外國船該病ニアルト

明カナートキ若クハ該病アル疑アルノ場合ニ於テハ船長若クハ領事ト協議シ其承諾ヲ經テ相當ノ手續ヲ爲シ外務内務兩省ヘ電報スヘシ且一般ノ豫防ニ付テハ其船舶ニ交通スル者ニ注意シ之カ取締ヲ爲シ又ハ上陸ノ者ニ注意シテ其交通セル人家ヲ取調置患者ノ有無ヲ偵知スヘシ但内國船ハ無論尋問シテ該病ノ有無ヲ知り規則ニ據リ之ヲ處置スヘシ

第三條 該病アルコト明ナル船舶若クハ該病アルノ疑アル船舶他府縣ヘ向ケ進航シタルトキハ其進航先キテ取調其府縣ヘ事情ヲ悉シテ電報シ以テ豫防ノ便ヲ與フヘシ

第七百四條 虎列刺又ハ吐瀉ノ二症ヲ兼備フル患者ニシテ醫藥受ケ難キ貧困者取扱方

○明治十九年六月三日滋賀縣乙第六十四號達(六月五日發布) 按本部同支部役所戸長役場ヘ

虎列刺又ハ吐瀉ノ二症ヲ兼備フル患者ニシテ醫藥相受ケ難キ貧困者ハ左ノ手續ニ據リ開業醫チシテ施療セシメ相當ノ藥價可下渡候條部内人民及ヒ各開業醫ヘ至急

二十二年四月
ヨリ町制實
施ニ付戸長役
場ハ町役場
ニ改マル

相達スヘシ

一 虎列刺又ハ吐瀉ノ二症ヲ兼備フル患者ニシテ貧困ノ爲メ醫藥ヲ受ケ難キモノハ所轄戸長役場ヘ申出テ施療券ヲ受クヘシ

一 戸長役場ニ於テハ豫メ左ノ雛形ニ依リ施療券ヲ製シ置クヘシ

表

何那何町番地
割印 施療券
氏名
年齢

裏

明治十九年何月
何日
戸長役場印

一 第一項ニ依リ施療券ノ下付ヲ請求シタルモノアルキハ戸長役場ニ於テ速ニ調査シ貧困者ニ限リ之ヲ付與シ各自望ノ開業醫ニ該券ヲ差出シ治療ヲ受クヘキ旨示スヘシ

一 醫師ハ十日毎トニ施療券ヲ取廻メ藥價仕譯書ヲ添ヘ檢疫支部設置ノ郡ハ該支

衛生

部へ其他ハ所轄郡役所へ差出スヘシ

一 檢疫支部又ハ郡役所ニ於テハ前項施療券及ヒ藥價請求書ヲ受取リタルトキハ調
査ノ上受取方檢疫本部へ申出ツヘシ

第七百五條 不全發疹室扶私道遙腸室扶私ノ類ヲ診斷シタル處分方

○明治十九年八月四日滋賀縣令甲第六號公報(八月七日)

不全發疹室扶私又ハ道遙腸室扶私不全腸室扶私ノ類醫師ニ於テ之ヲ診斷スルトキ
ハ發疹室扶私腸室扶私ト同ク傳染病豫防規則第二條ニ據リ届出ヘキハ勿論給テ同
規則ニ據リ豫防法ヲ施行スル儀ト心得ヘシ

第七百六條 傳染病豫防救治ノ爲メ感染シ又ハ死亡シタル者手當金給與ノ内天然
痘檢疫ニ從事ノ者取扱方

痘檢疫ニ從事ノ者取扱方

○明治二十年二月二十八日滋賀縣訓令第十五號(公報三月二日)郡役所戸長役
場縣立病院へ

傳染病豫防救治ニ從事シ爲メニ感染シ又ハ死亡シタル者手當金給與方ノ儀ハ官吏
准官吏ハ昨年七月第二十三號閣令ニ依リ其他俯醫師檢疫掛看護夫人夫等ハ総テ明

傳染病豫防規
則ハ十三年七
月九日太政官
第三十四號布
告ニシテ滋賀
縣ノ布令ニア
ラス故ニ登載
セズ

第八十九號公
達ハ太政官ノ
達ニシテ滋賀
縣ノ布令ニ非
ズ故ニ登載セ
ズ

種痘規則ハ十
八年十一月九
日太政官第三
十四號布告ニ
シテ滋賀縣ノ
布令ニアラス
故ニ登載セズ

治十年十二月第八十九號公達ニヨリ支給相成候處右ノ内天然痘ノ如キハ種痘ヲ以
テ豫防スルノ良法モ有之且種痘規則ヲ以テ一般ニ接種セシムル方法モ相立居候儀
ニ付天然痘檢疫ニ從事ノ者ハ必ス天然痘濟又ハ規則ノ種痘ヲ行ヒタルモノニ限ル
ヘシ

○第八款 諸病

第七百七條 瘋癲人取締規則

○明治二十年一月十三日滋賀縣令第十號(公報一月十五日)

瘋癲人取締規則左ノ通相定ム

但明治十八年二月第二十號布達ヲ廢ス

○

瘋癲人取締規則

- 第一條 瘋癲症ニ罹リタル者アルトキハ速ニ醫師ノ治療ヲ受ケシメ自他傷害ノ虞ナキ様相當看護シ其患者ノ氏名年齢等ヲ詳記シタル書面ニ醫案ヲ添ヘ所轄警察署又ハ分署ヘ届出ヘシ快癒シタルトキ亦同シ
- 第二條 患者ノ症候狂暴ニシテ自他ノ傷害ヲ防ク爲メ家宅ニ鎖鑰セントスルモノハ其患者ノ氏名年齢及ヒ狂暴ノ狀況等ヲ詳記シタル書面ニ患者至親ノ親屬二名以上ノ連署及ヒ戶長ノ奥印ヲ受ケ醫按并ニ鎖鑰室ノ圖面等ヲ添ヘ所轄警察署ヘ

十八年甲第二
十號布達ハ第
四編第二百五
十三條(下卷
百八丁)ニ出

二十年一月十
三日滋賀縣令
第十一號ヲ以
テ從前鎖鑰シ
タルモノニ付
附令アリ其縣
令ハ後ニ出

二十二年三月
八日滋賀縣令
第二十九號ヲ
以テ第二條中
ヲ加除ス其縣
令ハ後ニ出

願出認可ヲ受クヘシ

- 第三條 鎖鑰室ハ三疊敷以上ニシテ少クモ二方ニ空氣ノ流通ニ適當ナル窓一個以上ヲ設ケ衛生上妨害ナキ様構造シ警察官ノ検査ヲ受ジヘシ變更シタルトキ亦同シ

- 第四條 患者ヲ鎖鑰シタルトキハ家族ニ於テ常ニ本人ノ舉動ニ注意シ必要ノ衣食ヲ與フルハ勿論醫療ヲ加ヘ且ツ室内ヲ清潔ニシ其他衛生上保護ノ手續ヲ怠ルヘカラス

- 第五條 患者ノ病症快癒スルカ又ハ危篤ニ瀕シタルトキハ速ニ解鎖シ醫按ヲ添ヘ戶長ノ奥印ヲ受ケ所轄警察署ヘ届出ヘシ
- 第六條 本則ニ據ル願届ハ患者ノ父兄若シナキトキハ患者至親ノ親屬ヨリ之ヲ爲スヘシ

- 第七條 瘋癲人アル家宅ヘハ時々警察官臨檢シ又ハ醫師ヲ引奉患者ヲ檢診スルコトアルヘシ

二十二年三月
八日滋賀縣令
第二十九號ヲ
以テ第五條中
ヲ加除ス其縣
令ハ後ニ出

瘋癲人取締規則
前二出

永式ニ非スト
雖モ參看ノタ
メ編入ス
縣令第十號ハ
前ニ出

○明治二十二年三月八日滋賀縣令第二十九號ノ内(全文ハ第五頁十七條ニ出)
瘋癲人取締規則

第二條中(及ヒ戶長ノ與印ヲ受ケ)トアルヲ(ヲ以テ)ト改正シ警察署トアル下へ
又ハ分署)ノ四字ヲ挿入ス
第五條中(戶長ノ與印ヲ受ケ)トアル八字ヲ刪除シ警察署ノ下へ(又ハ分署)ノ四字
ヲ挿入ス

○明治二十年一月十三日滋賀縣令第十一號(公報一月十五日)

今般縣令第十號ヲ以テ瘋癲人取締規則發行候ニ付テハ從前警察署ノ認可ヲ受ケ領
綱シタルモノニテ規則第三條ニ抵觸スル鎖鑰室ハ本則ニ準據改造ノ上來ル二月二
十日迄ニ所轄警察署へ届出檢査ヲ受クヘシ

第七百八條 施治患者表式并進達期限

○明治二十一年三月六日滋賀縣令第五十四號

(本文第十七頁十九條ニ出)

第七百九條 脚氣患者届書式ノ布達廢止

○明治十九年九月十三日滋賀縣令甲第二十七號

(本文ハ第七頁二十條ニ出)

○第九款 獸疫 闕

○第十款 死体解剖 闕

○第十一款 有毒有害物排除并取締

第七百十條 下水溝渠便所芥溜ノ大清潔法施行

○明治十九年十二月十三日滋賀縣訓令第七十九號(公報十二月十五日)所^所役

今般別紙訓第八六九號ヲ以テ虎列刺病終熄後施行ノ條項內務大臣ヨリ訓令相成候
ニ付テハ今ヤ病毒蟄伏シテ其未^未萌動セザルニ先^先テ市街ハ勿論運糧橋比市街ノ
狀ナシタル人家稠密ノ町村ハ下水溝渠便所芥溜ノ一大清潔法ヲ施行シ且從前ノ
如キ系統ナキ下水溝又ハ構造極メテ粗惡ナル廁園芥溜ニ對シ一時ノ掃除ヲ施スコ
止ムル等ノ姑息手段ヲ用キスシテ斷然相當ノ改修ニ着手シ疎通掃除ノ方法ヲ取設
クヘシ

(別紙)

訓第八六九號

本年虎列刺病ノ發生スルヤ各地方官ハ海陸檢疫ノ法ヲ嚴^嚴ニ消毒撲滅ノ術ヲ盡
シ拮据^{拮据}屬^屬屬^屬ノト遺策ナカリシモ該病毒ハ全國ニ瀰漫シ今日ニ至ルマテ既ニ患
者拾五萬餘人死者拾萬餘人ノ多キニ升^升リ蓋シ人事交通ノ頻繁ナル全^全ク病毒ノ
竄入ヲ拒絶スルハ極メテ難^難ク既ニ其侵入スルニ及テハ當初ニ之ヲ撲滅スルチ力
トマ若シ撲滅シ能ハカレハ患者ノ數ヲ減^減シテ其禍害ヲ輕小ニ止ムルヲ以テ防禦
ノ目的トナサ、ルヲ得スト雖モ該病毒ノ性質タル傳ヘテ汚濁不潔ノ地ニ至レハ
其蕃殖ヲ盛^盛ニシ其慘毒ヲ逞^逞フスルハ疑ヒナキ事實ナルカ故ニ未^未發^發ノ時ニ於テ土
地ヲ清潔ナラシムルハ豫防方中最モ緊要ナリトス然レトモ從前ノ如キ系統ナキ
下水溝又ハ其構造極メテ粗^粗ナル廁園芥溜ニ對シ一時姑息ノ清潔法ヲ施行スルノ
ミニテハ到底充分ノ効績ヲ收メ難キニ付今ヤ病毒蟄伏シテ其未^未萌動セザルニ
先^先テ市街^{市街}其管下市街ヲナシタル地及ヒ市街ヲナサスト雖モ行^行ト得ヘキト認ムル場
所ハ便宜相當ノ方法ヲ設ケテ先^先ツ左ノ三項ノ改修ニ着手シ以テ清潔除害法ノ端
緒ヲ啓キ豫防法ノ基礎ヲ固^固クシ本年ノ覆轍ヲ踐マサル様注意セラルヘシ

- 一 汚水疏通方ノヲ
 - 一 屎尿排除方ノヲ
 - 一 塵芥掃除方ノヲ
- 右訓令ス

明治十九年十二月三日

滋賀縣知事 中井弘殿

内務大臣 伯爵 山縣有朋

訓令第七十九號ハ前ニ出
 日) 明治十九年十二月十三日 滋賀縣第二部衛生第三二四號照會 所(公報十二月十五日)

今般訓令第七十九號ヲ以テ大清潔法施行之義訓令相成候ニ付テハ汚水疏通周圍芥溜改造方法ノ概要ヲ左ニ記載シ及御回候條密酌施行相成尙疏通掃除ノ方法ハ將來ノ便宜ヲ計リ平常清潔法ノ充分可行屆様計畫ノ上御取設相成來明治二十年三月十五日迄ニ右實況詳細御通報相成度此段及御照會候也

一 廁圖

追テ本文施行ヲ要スヘキ個所御取調ニ付テハ客年十二月十九日付丙第一五八號ヲ以テ衛生課ヨリ御照會及ヒタル地名御參考有之度此段申添候也 (丙第一五八號衛生課照會ハ附役所ヲ除クノ外入用ナキニ付之ヲ略ス)

一 下水溝

第一方 煉瓦ヲ以テ卵圓形ノ暗渠ヲ疊ミ吐口ニ至ル迄漸次ニ勾配ヲ付シ之ヲ無害ノ地若クハ河水ニ通シ此暗渠ヲ本幹トシ之ニ陶製又ハ煉瓦石材ヲ以テ構造シタル支管ヲ接続シ一切ノ汚水雨水ヲ排除スルモノ

第二方 溝底周圍ハ切石木板漆喰叩キ又ハ其他ノ材料ヲ以テ築造シ成ルヘシ覆蓋ヲ設ケ汚水雨水ヲ無害ノ地若クハ河海ニ排除スルモノ

上ノ二方ヲ施スコト能ハサル場合ニ於テハ止ムコトヲ得ヌ如何ナル構造ニ論ナシ一切ノ汚水雨水ヲ阻帶壅塞セシメスシテ之ヲ無害ノ地若クハ河海ニ排除スルノ方法ヲ設クルモ妨ナシ

第一方 厠窩ハ其質緻密ナル木材等ヲ以テ移動スヘキ厠桶ヲ作り之ヲ厠窩ニ代用シ尿管ノ漏レルニ先タナ同様ナル他ノ受器ト交代シテ之ヲ送去スルモ

第二方 厠窩ハ塗衣ナ有スル陶器ヲ用テ之ヲ地中ニ埋メ其周圍ノ表面ハ漆喰叩キ等ヲ以テ漏斗狀ニ築造シテ厠窩ニ達スルノモノ上ノ二方ヲ施ス可能ハサル場合ニ於テハ止ムコトヲ得ス如何ナル築造ニ論ナシ厠窩及其周圍ノ尿管ヲシテ地中ニ滲透セシメサル構造ニ爲スモ妨ナシ

一 芥溜

第一方 芥溜ハ蓋ヲ有シ塵芥ヲ掃除スルニ便ナル箱若シハ直ニ運搬スルヲ得ヘキ受器ヲ設置スルモノ

上ノ方ヲ施ス可能ハサル場合ニ於テハ止ムコトヲ得ス如何ナル構造ニ論ナシ汚汁ヲシテ地中ニ滲透セシメサル設置ヲ爲スモ妨ナシ

第七百一十一條 路傍ニ租造ノ便所等設置ノ儀禁止

○明治二十年一月三十一日滋賀縣令第五十三號(公報二月二日) 大津長濱八幡津根市街

近北國海道御代參街道西近江路各驛 西淺井郡瀬津濱村栗太郡山田村へ

糞尿ヲ溜メンガ爲メ路傍(人家軒)へ擔桶ノ類ヲ出シ或ハ鑄釜等ヲ以テ圍フタル租造ノ便所設置ヲ禁止ス

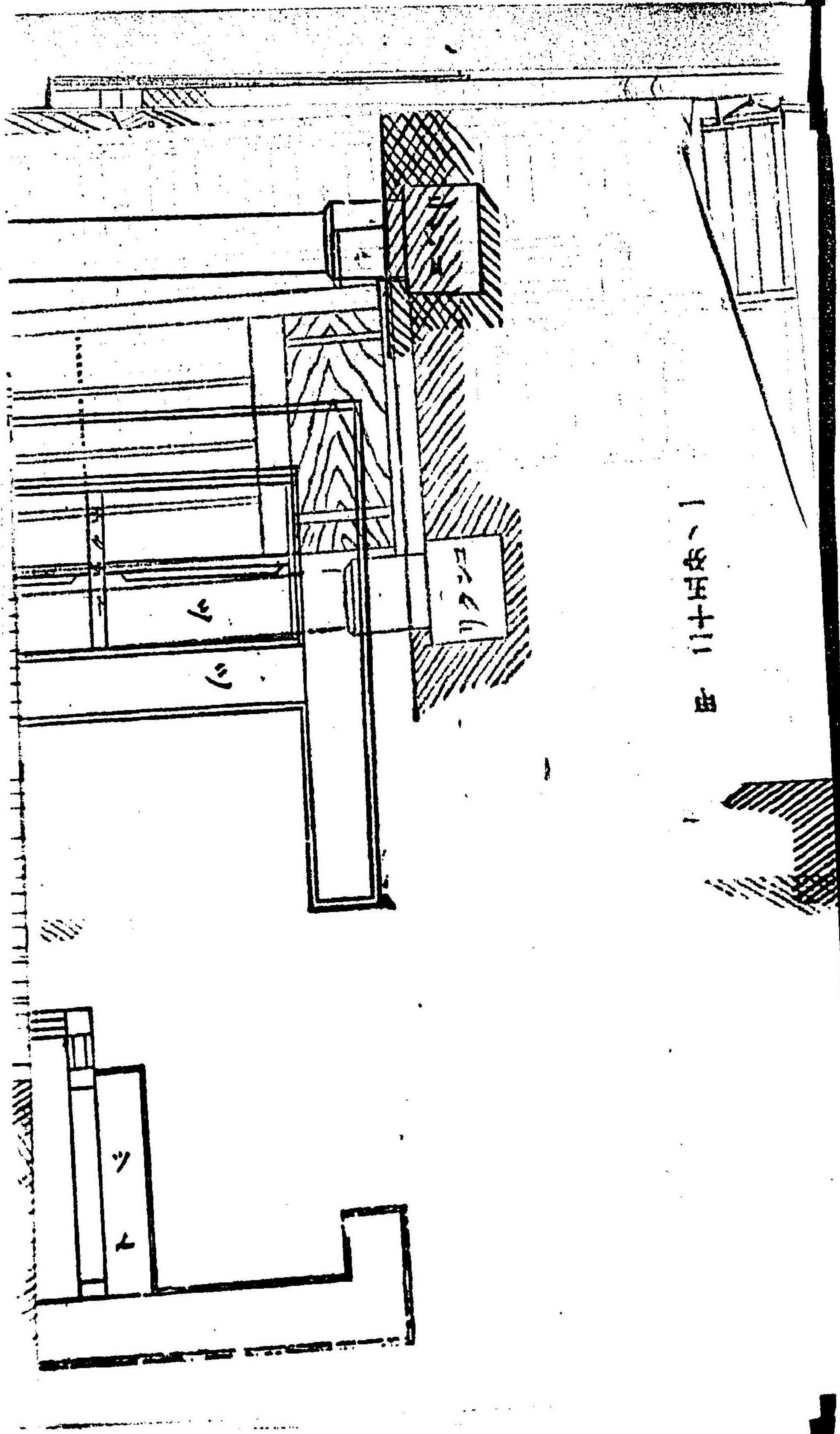
第七百一十二條 街頭及各驛路傍船着場等ノ便所改修方等ノ事

○明治二十年一月三十一日滋賀縣達第二十六號(公報二月二日) 郡役所大津長濱八幡津根市街東海道中仙北

國船往還北國各道御代參街道西近江路各驛 西淺井郡瀬津濱村栗太郡山田村戸長役場へ

街頭及ヒ各驛路傍船着場等ノ便所之數多キニ過キ候場所モ有之且從來ノ構造ハ醜惡ニシテ不潔ニ流レ候ニ付往來ノ障碍トナラサル路傍ニアリテ存置或ハ設置ヲ要スルモノハ其個所所管警察署ト協議ノ上本年中ニ左ノ構造心得書及ヒ別冊圖面ニ據リ改修セシメ其他ハ速ニ廢撤セシムヘシ

○ 便所構造心得

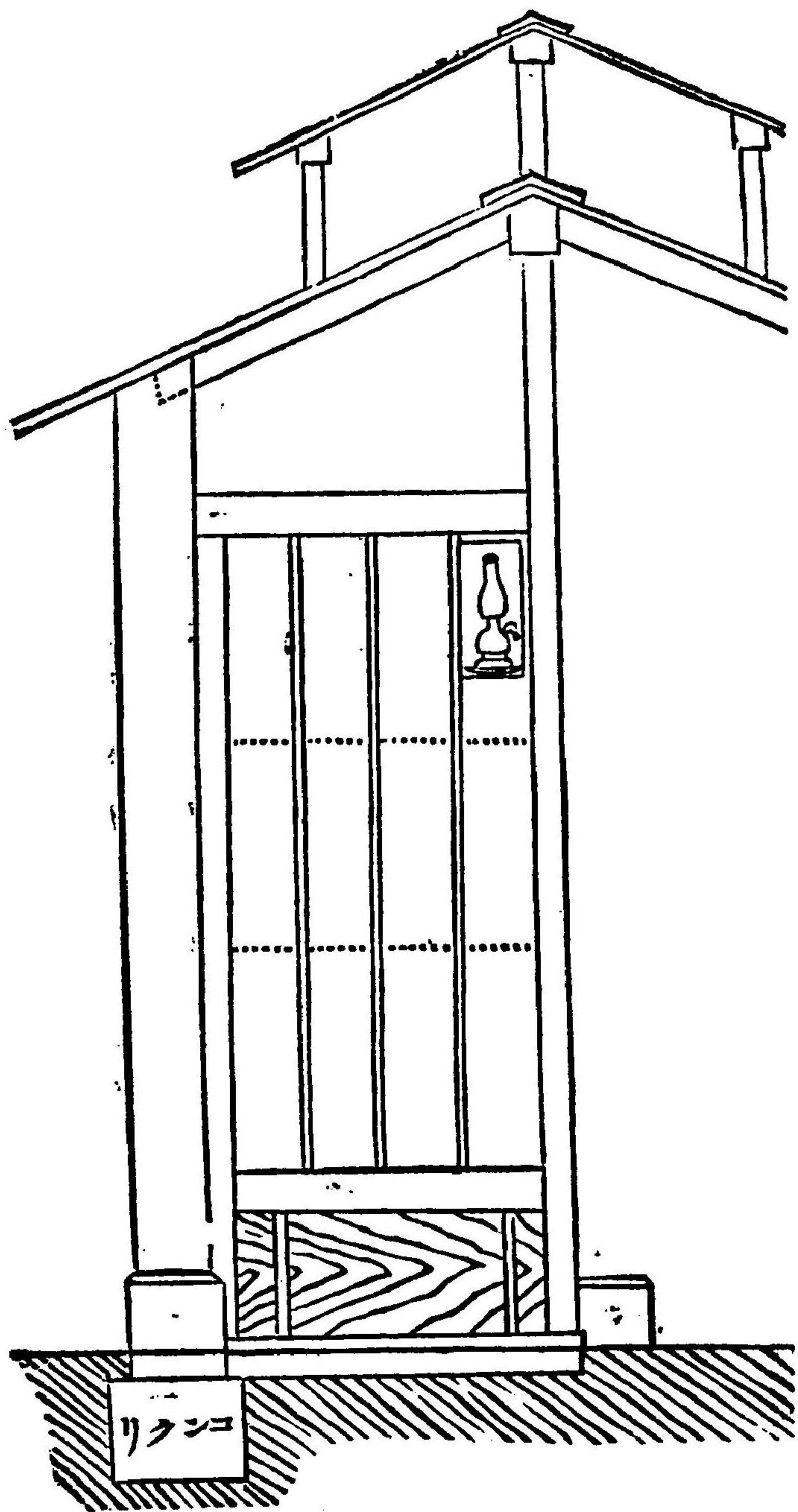


一 圖面ハ何レモ貳個並立ノ構造ナルモ其地方ノ便宜ニ由リ壹個立ニ建設スルハ固
 ヨリ妨ケナシ

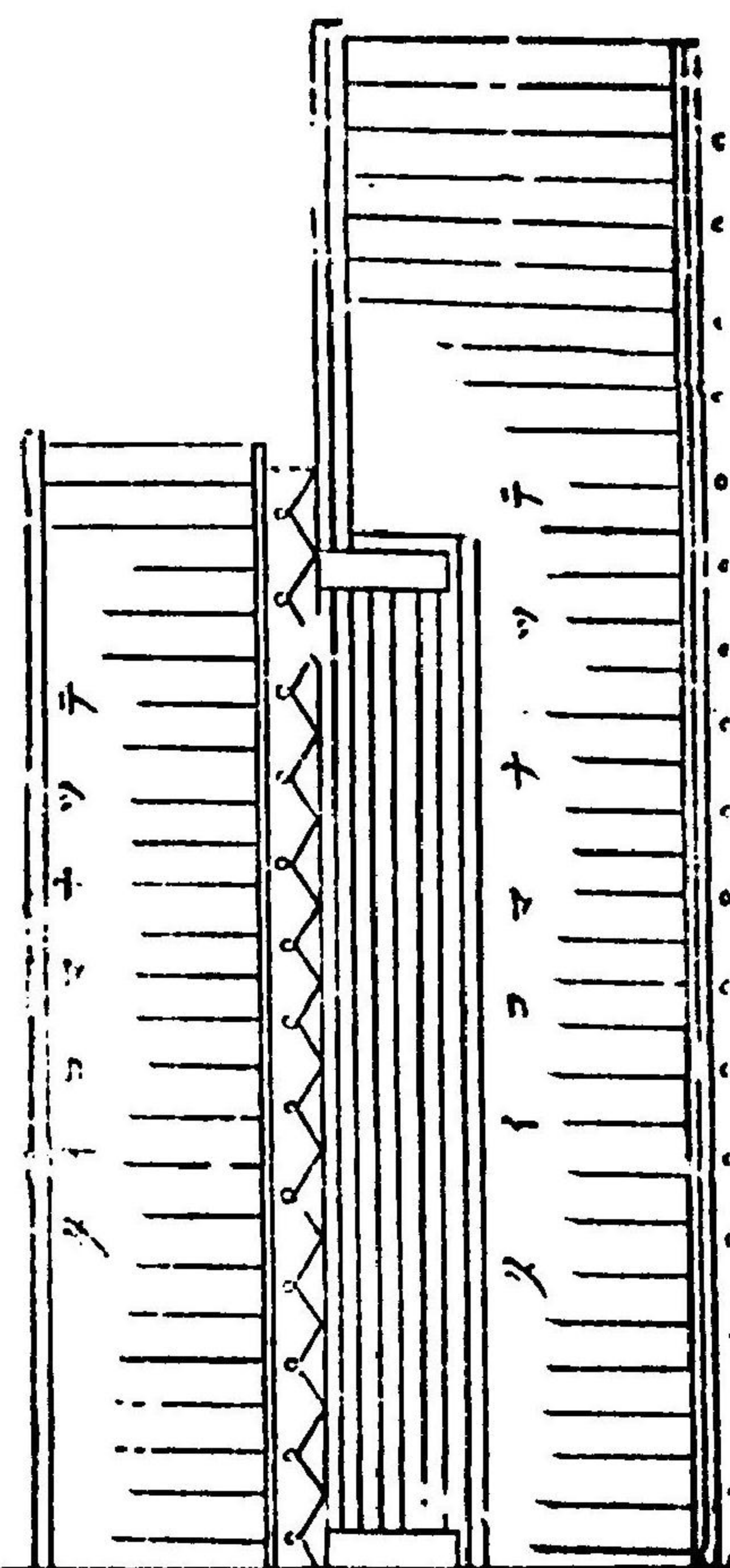
一 市街ハ圖面甲乙丙丁共ニ適用シ「ペンキ」塗ロシ其他ハ丙丁圖ニ據リ澁波ハ「コ
 ーナル」塗ニスヘシ又甲乙ノ家根ハ「鐵ナマコ板」ヲ用ヒ其他ハ通常ノ瓦ヲ用ニ
 ルモ便宜タルヘシ

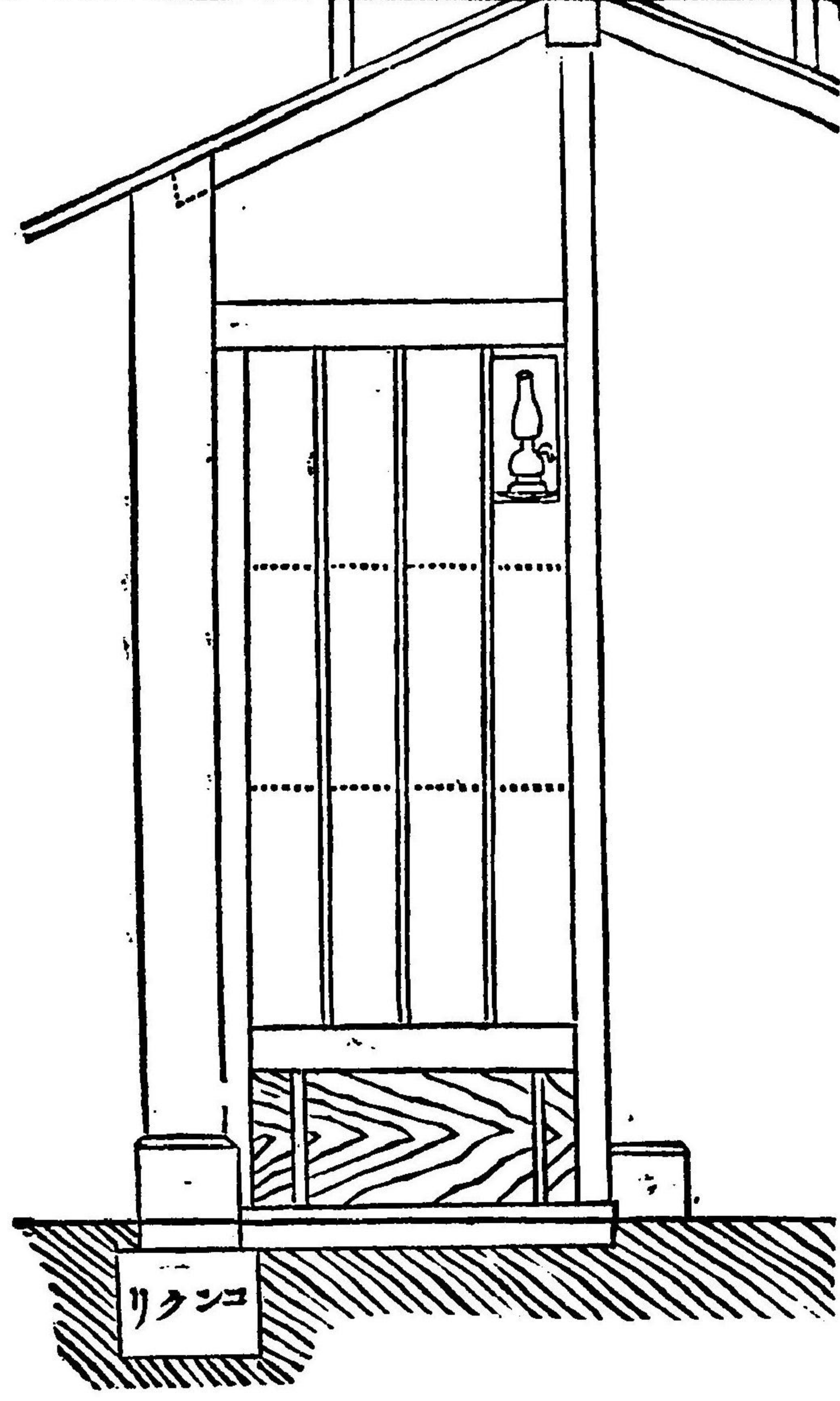
一 圖面ノ便壺ハ煉化石或ハ漆喰叩ノ構造ナルモ其都合ニ由リ陶器素焼ト唱ルヲ使用
 スルモ妨ナシ尤其周圍ハ必ラス漆喰叩ヲ施スモノトス

別冊

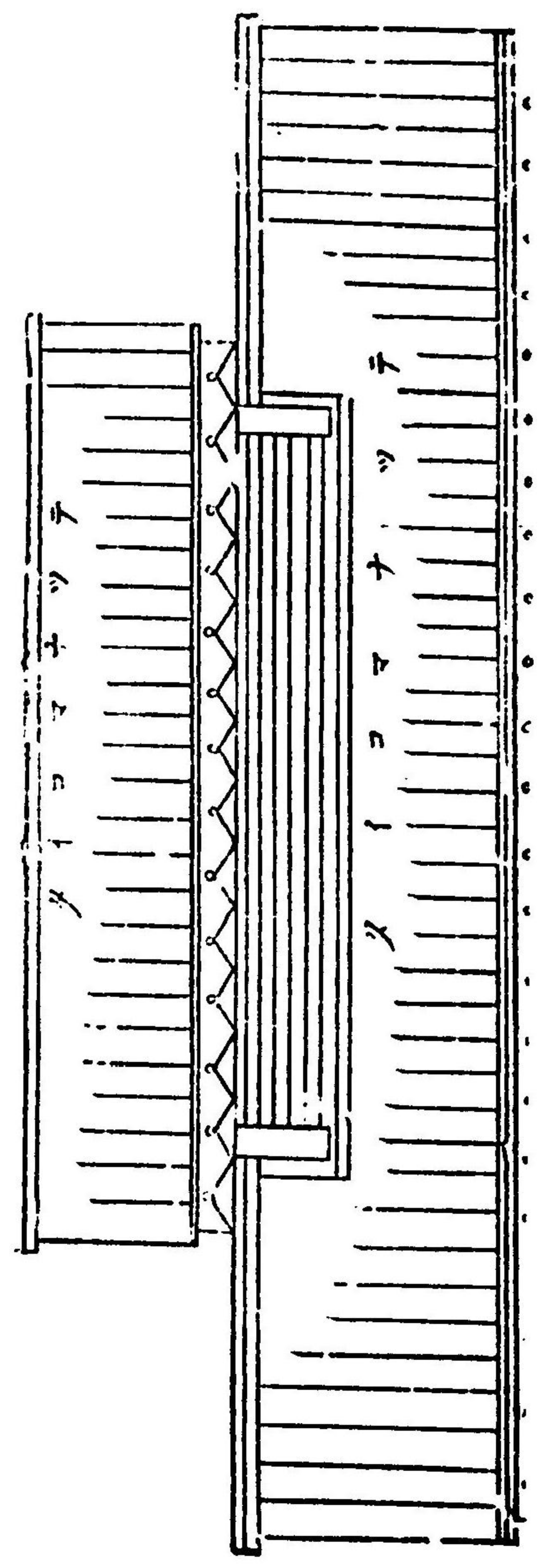


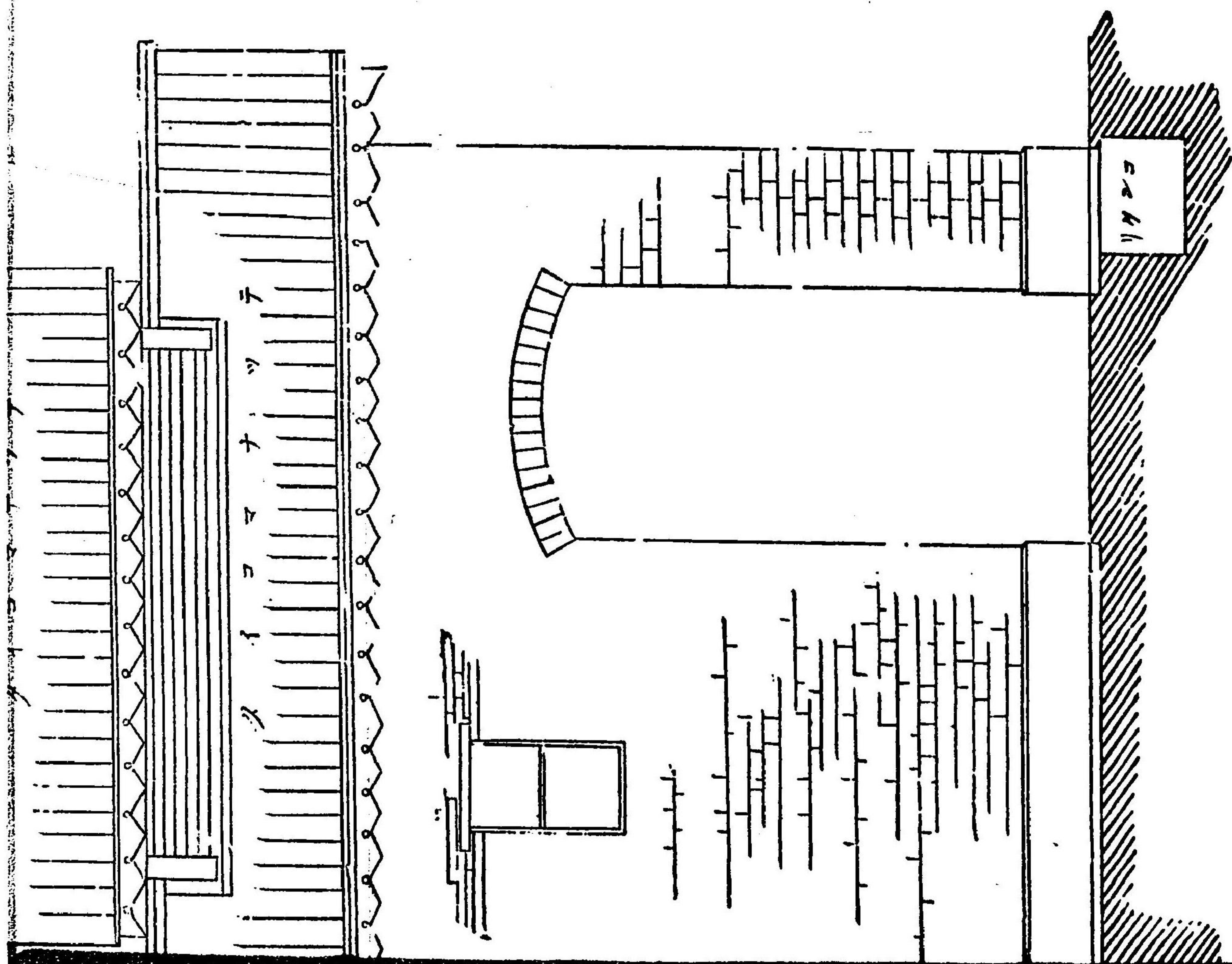
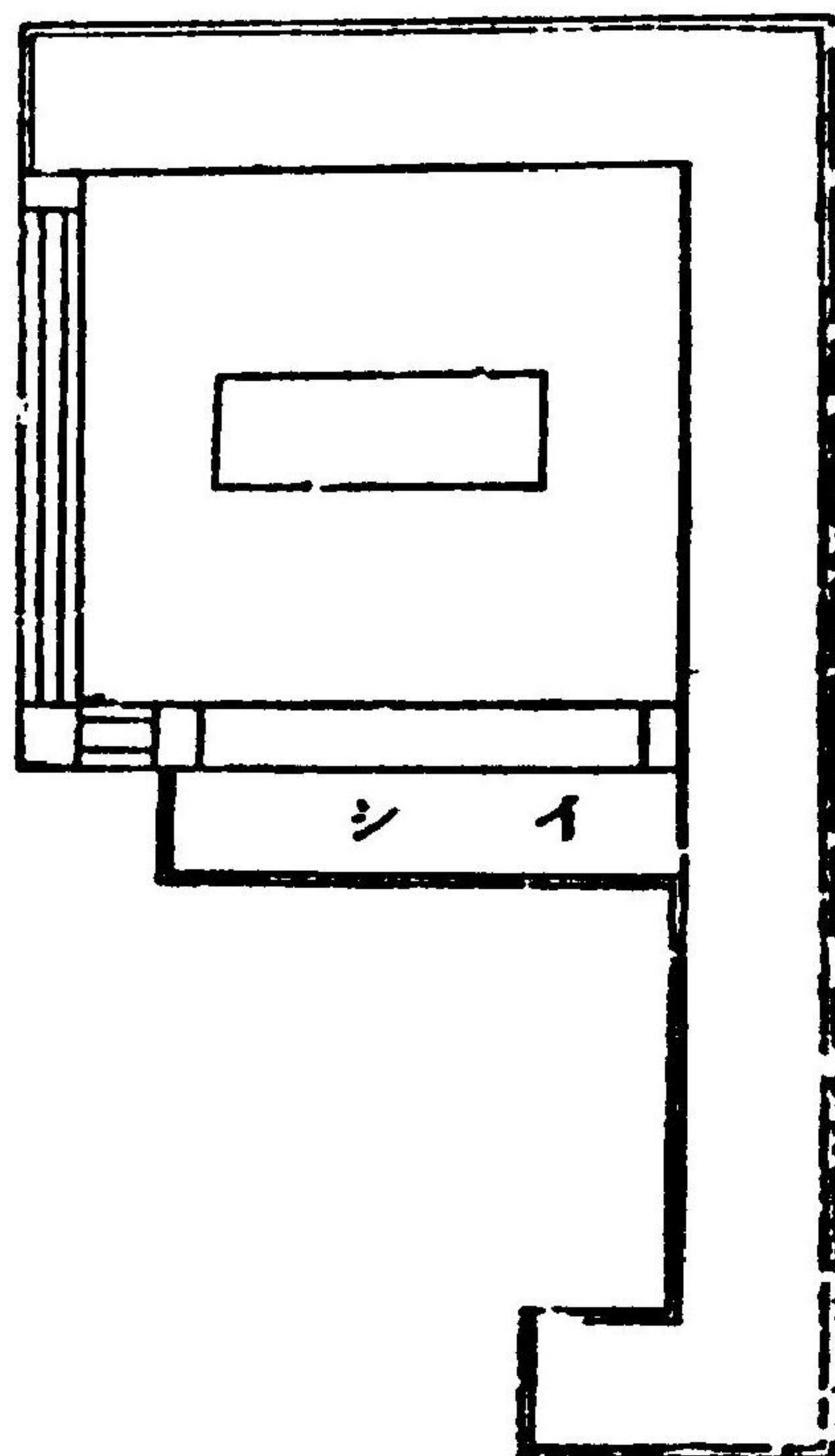
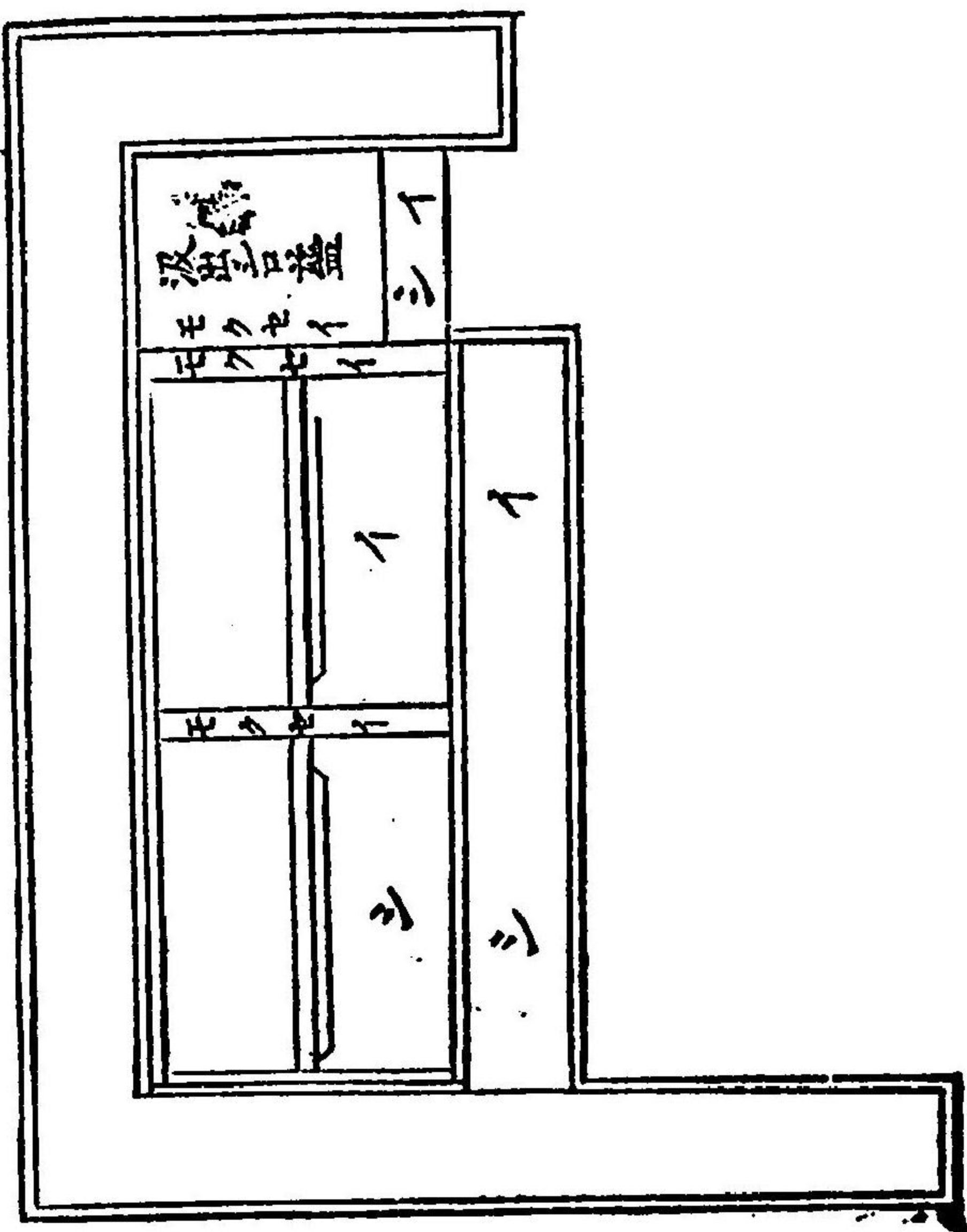
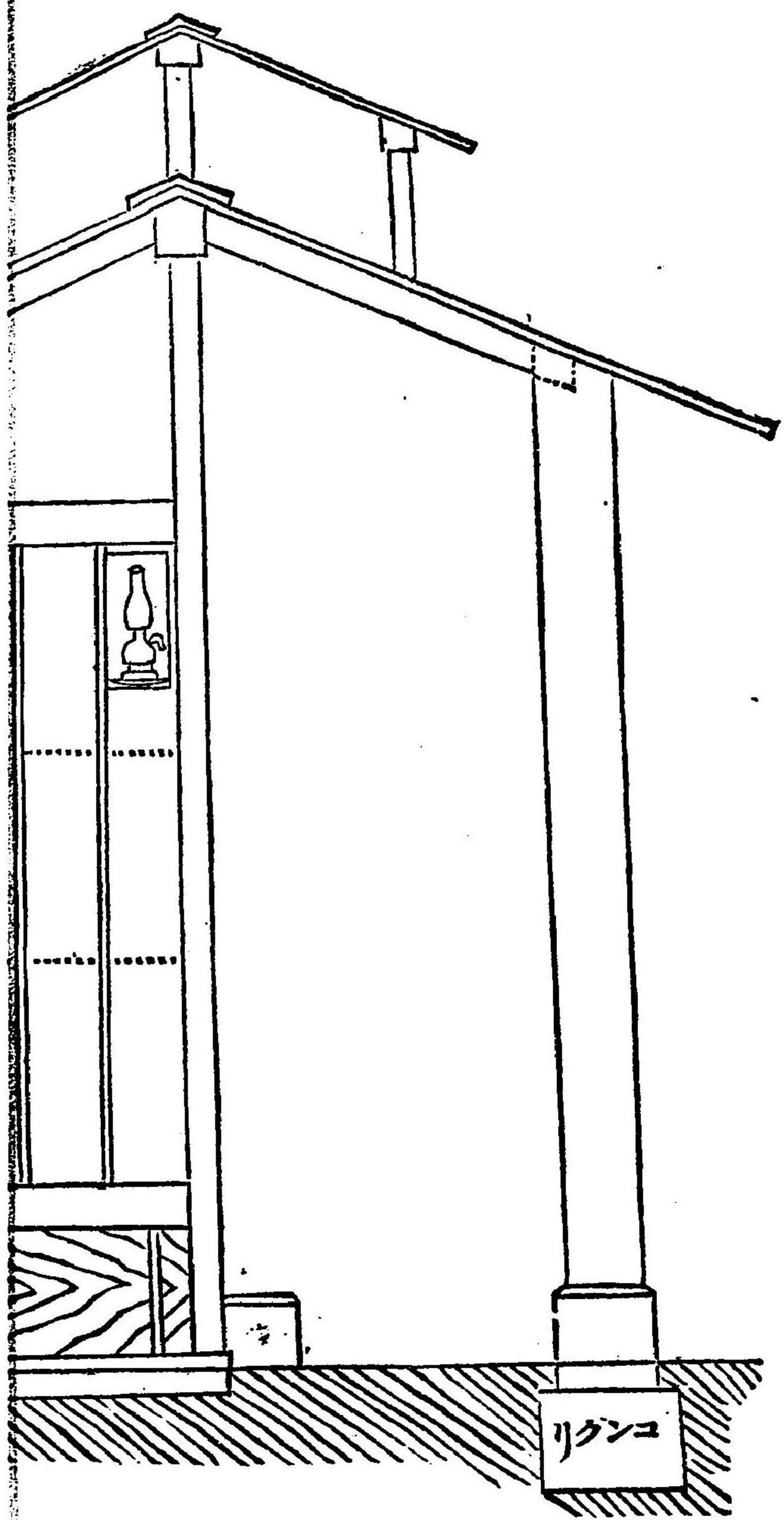
甲 二十五分ノ一

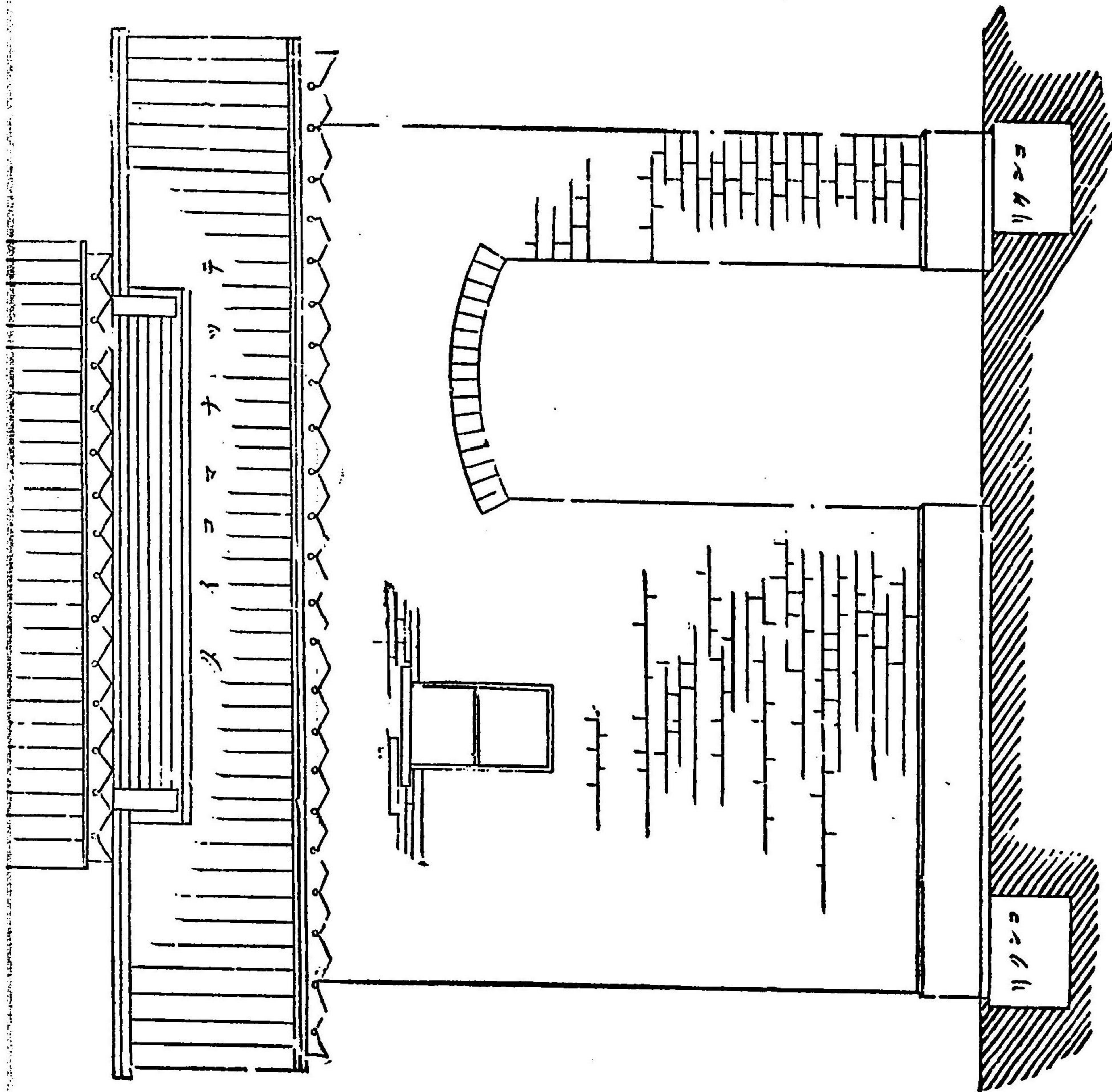
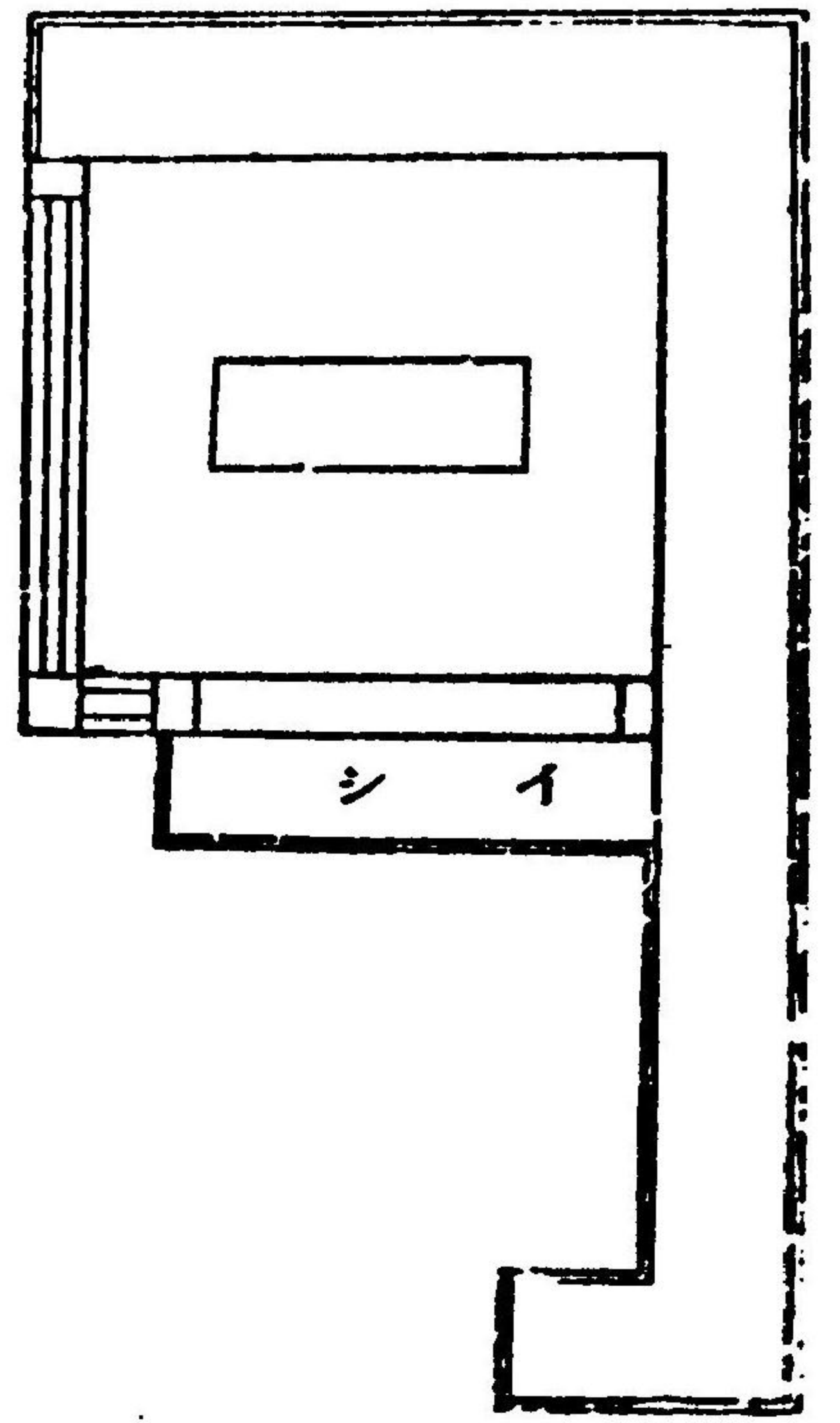
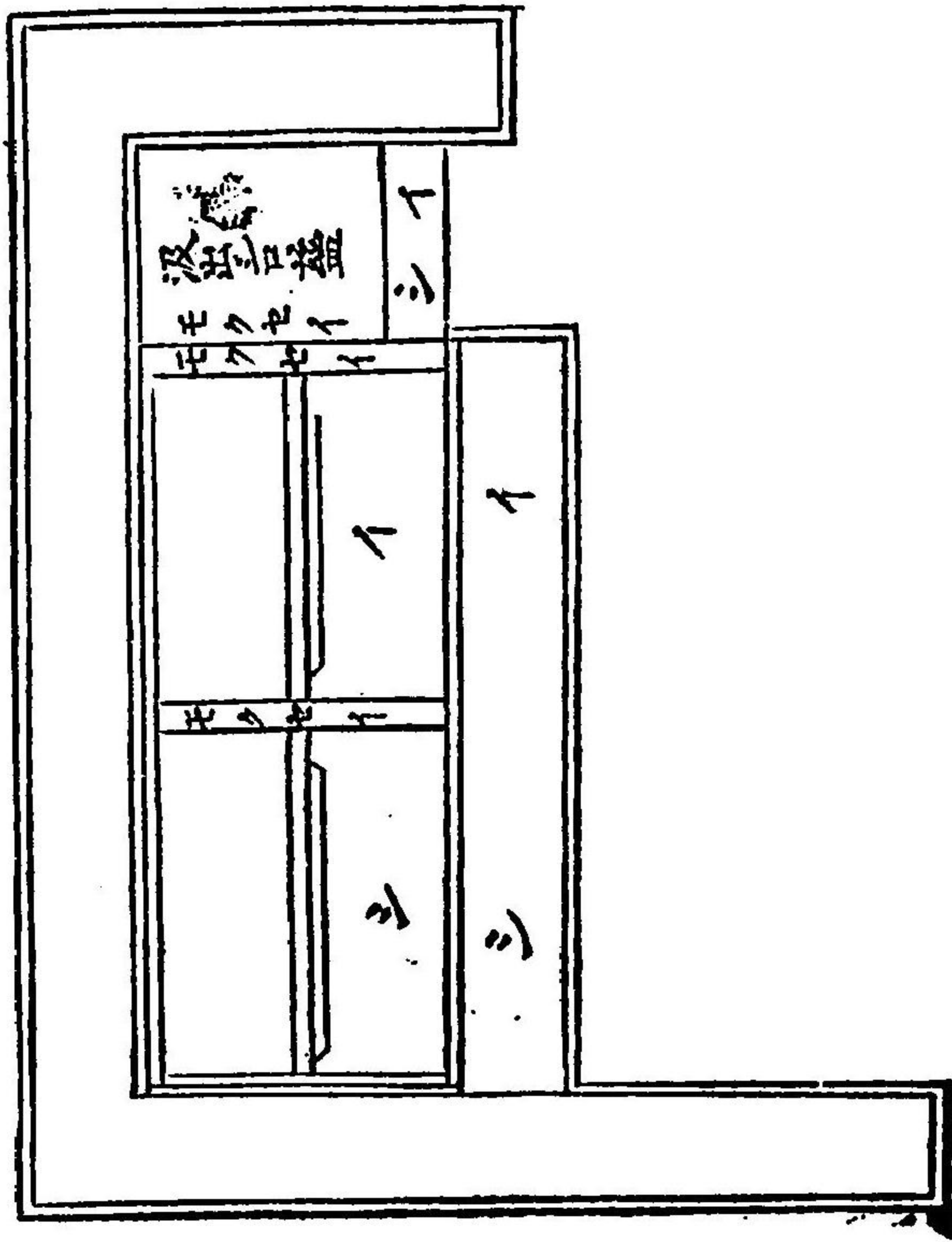
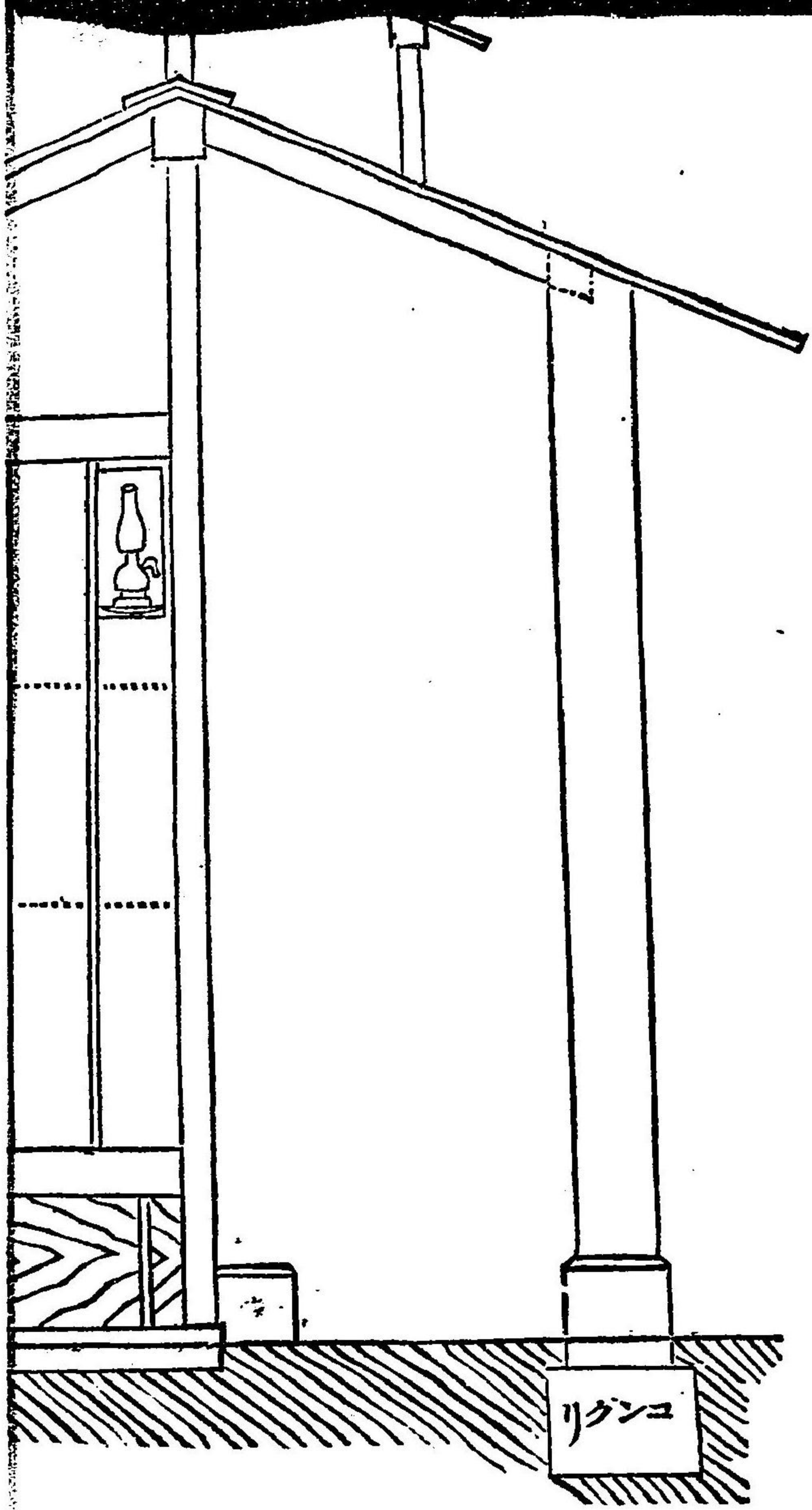




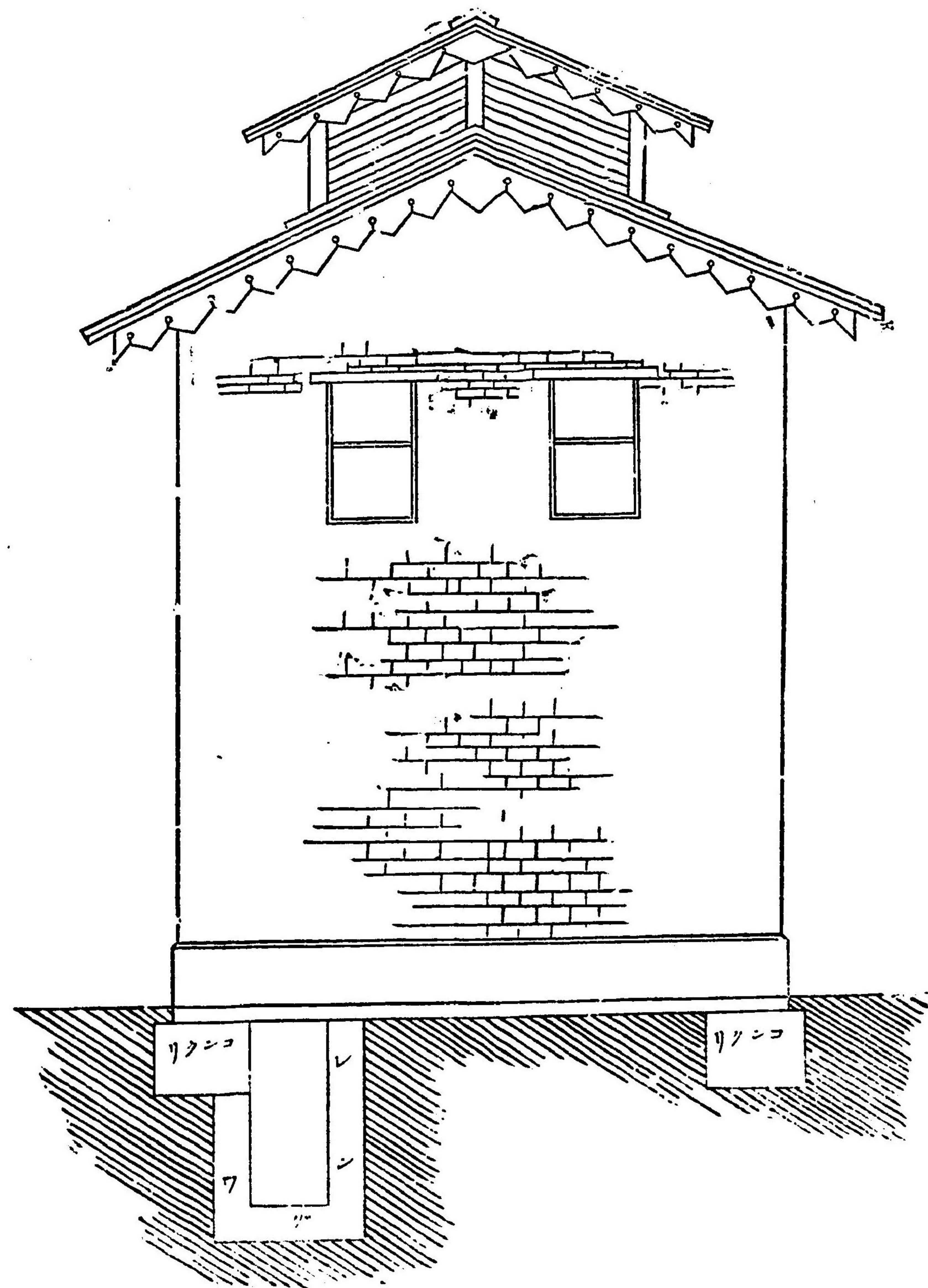
甲 一十号ホ、一



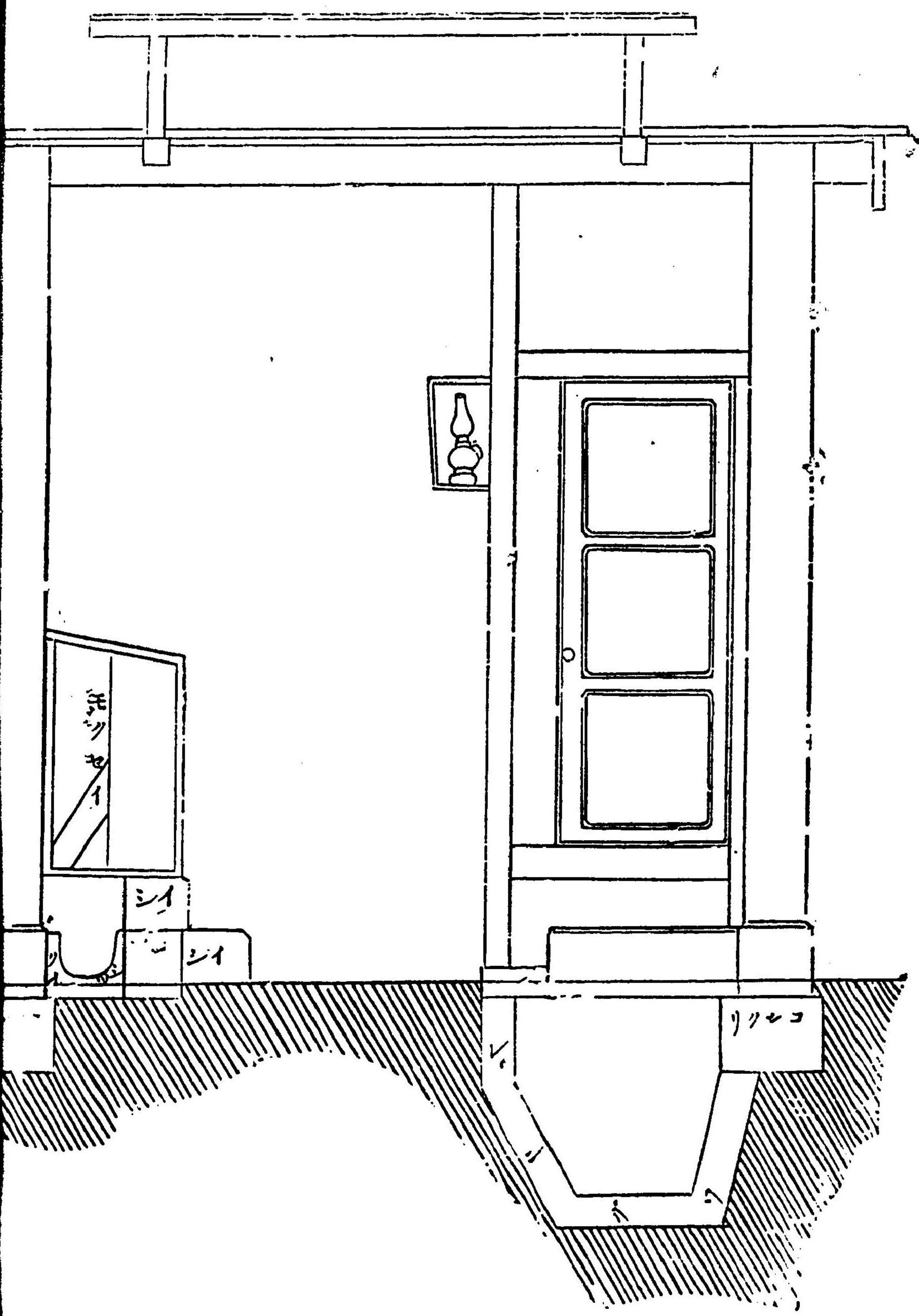


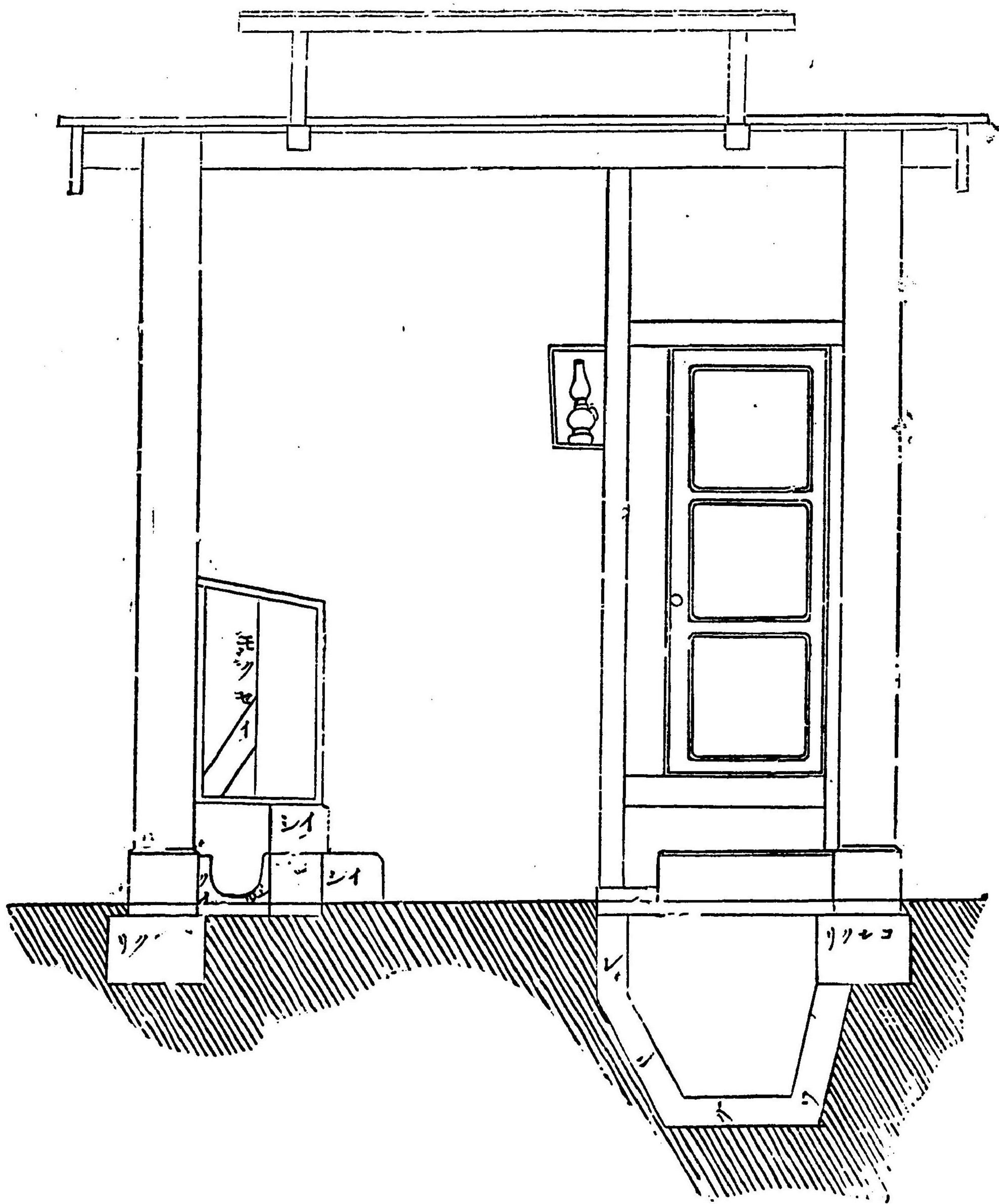
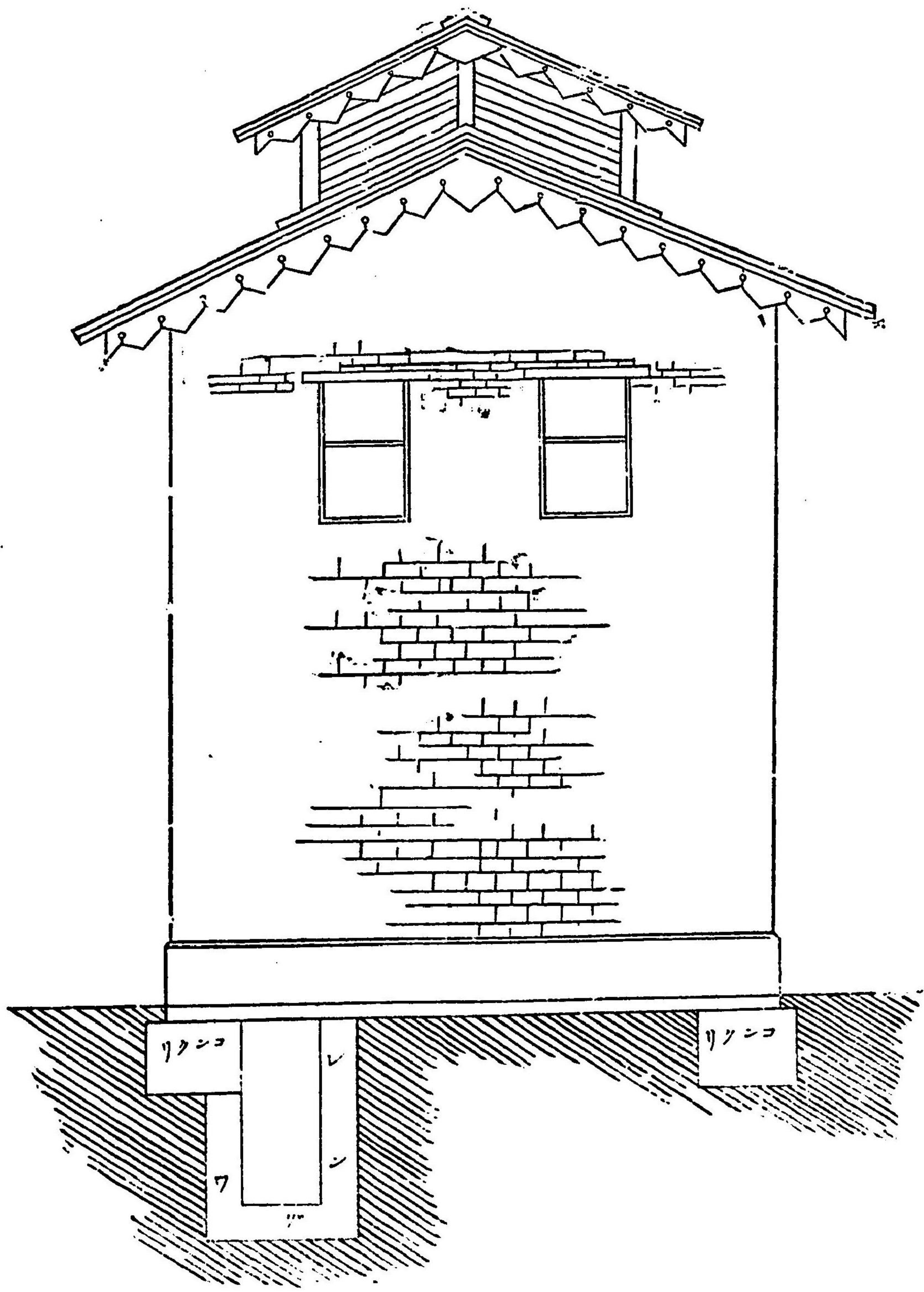


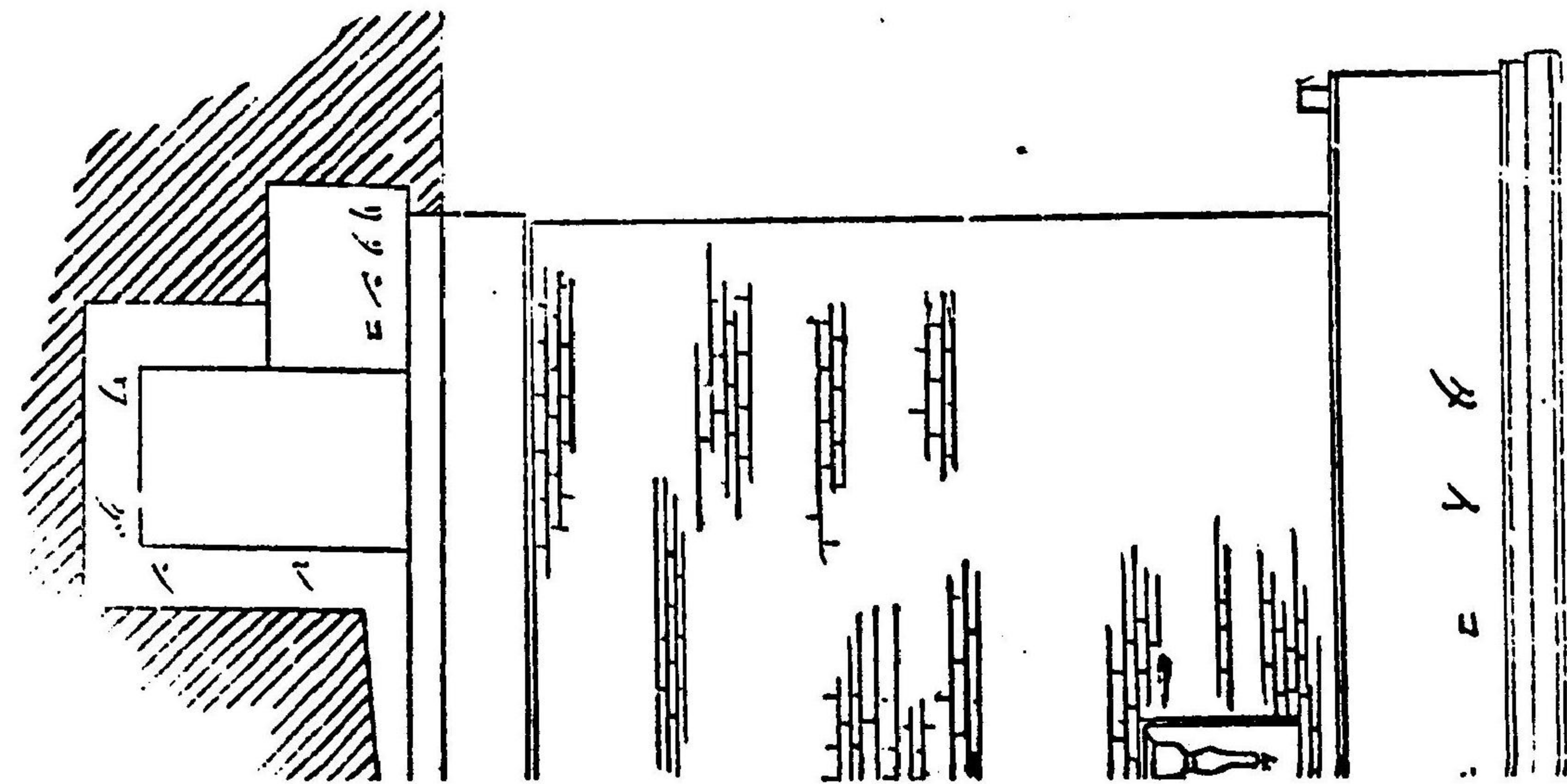
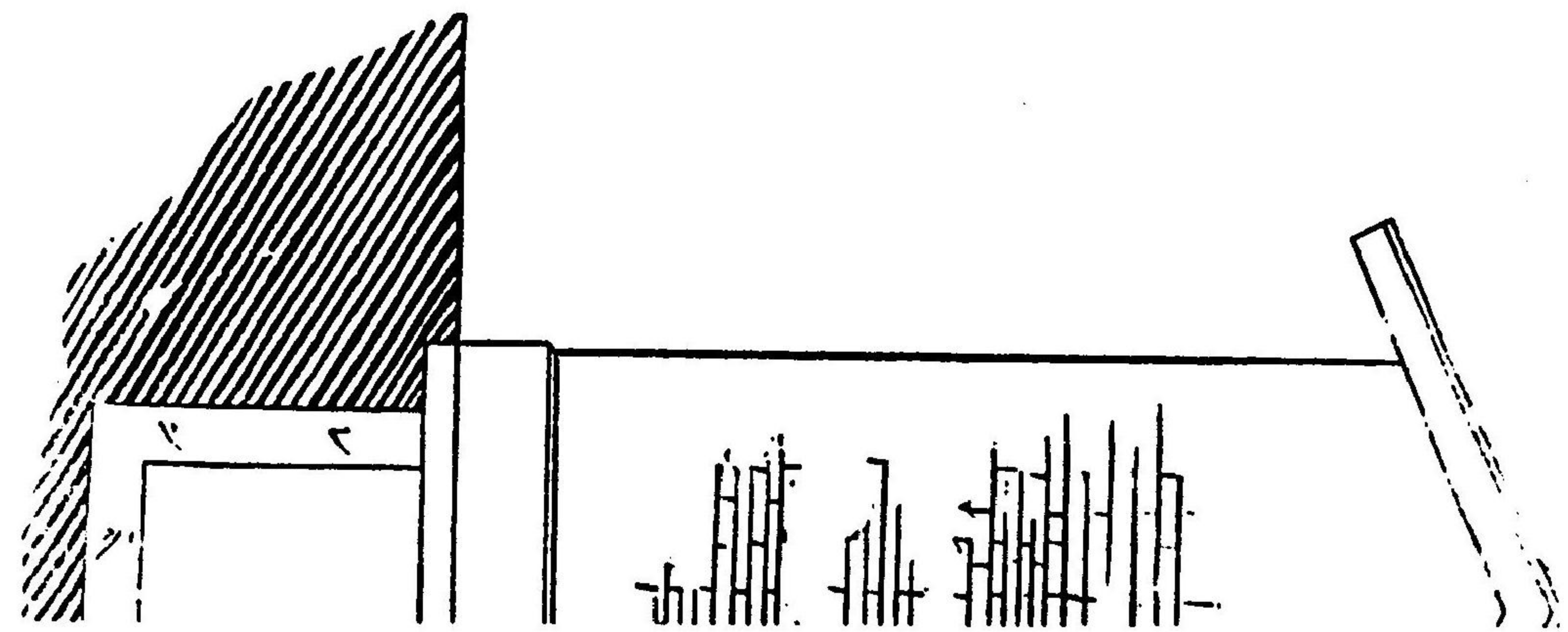
甲 二十五分ノ一

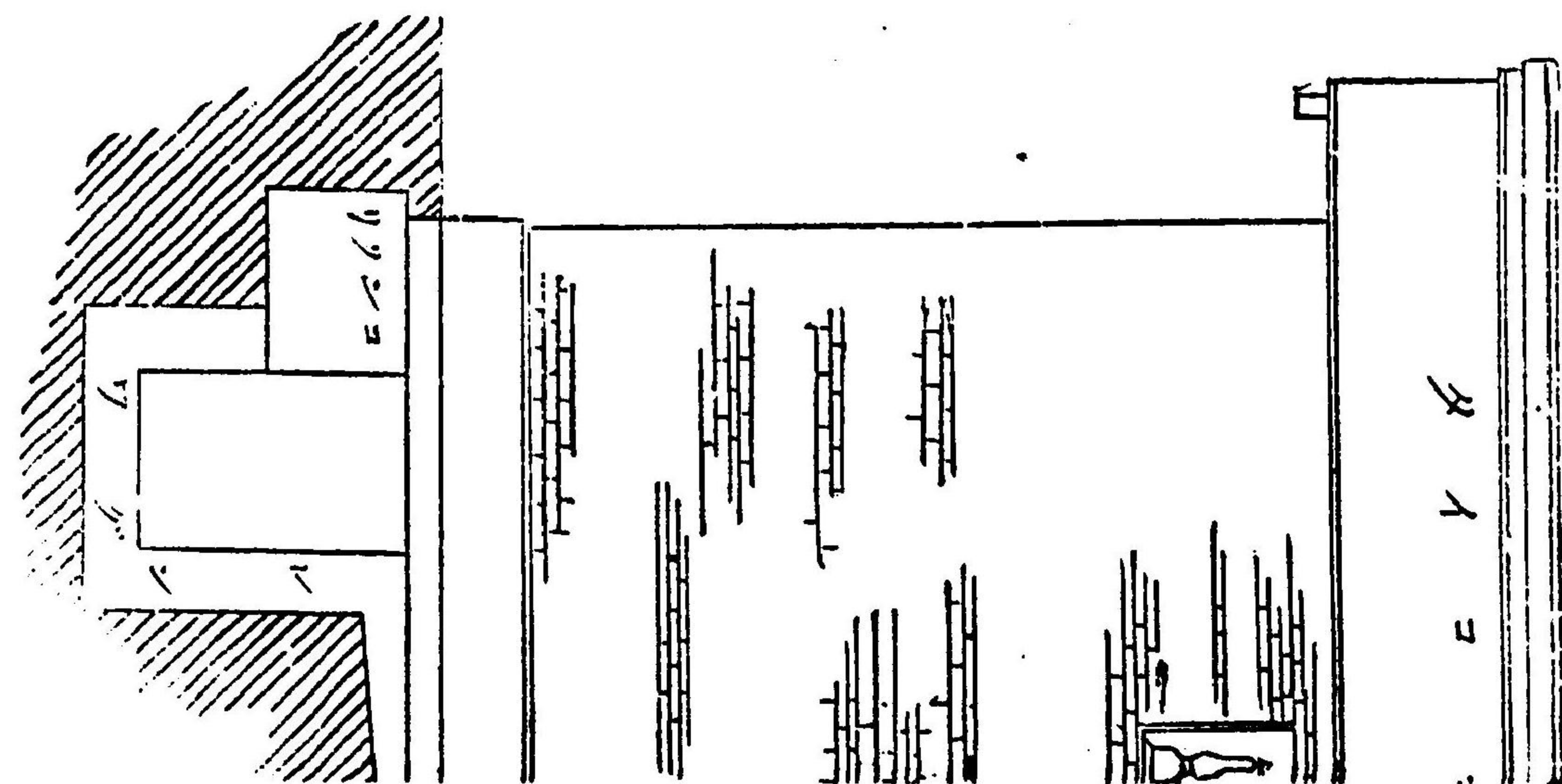
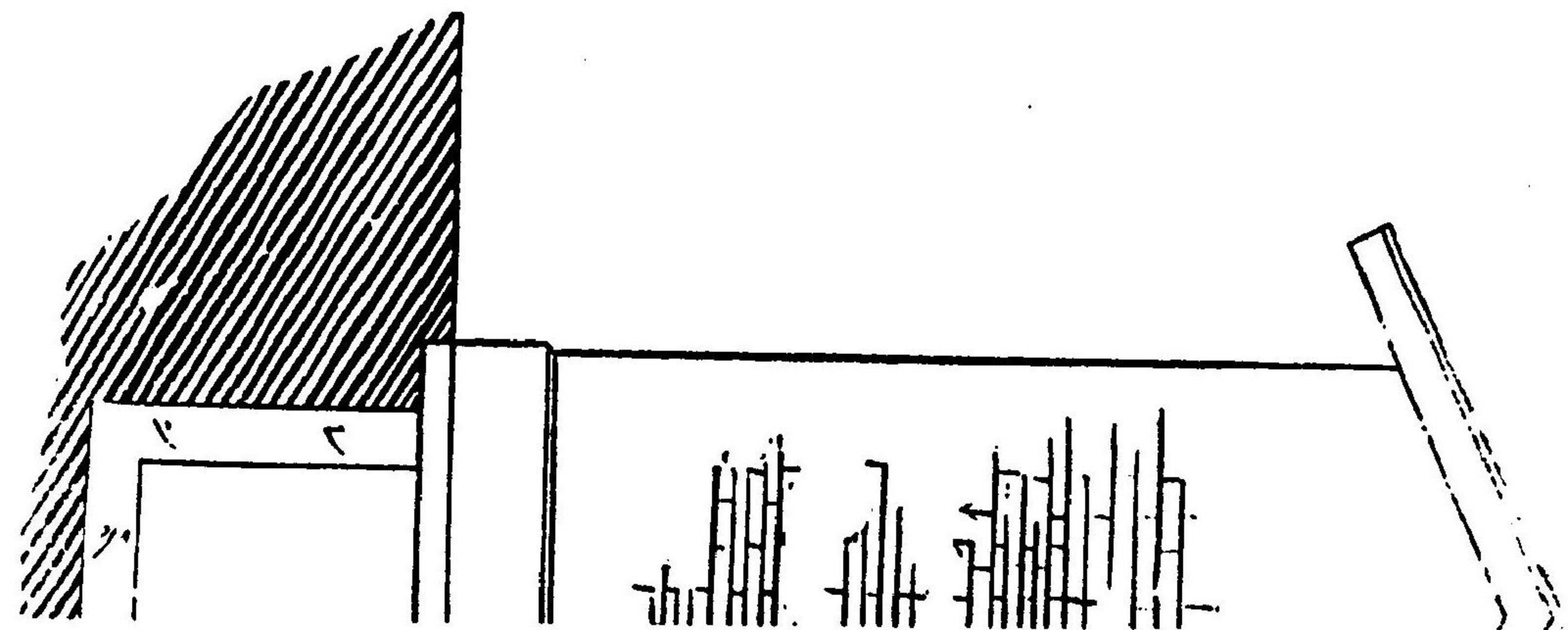


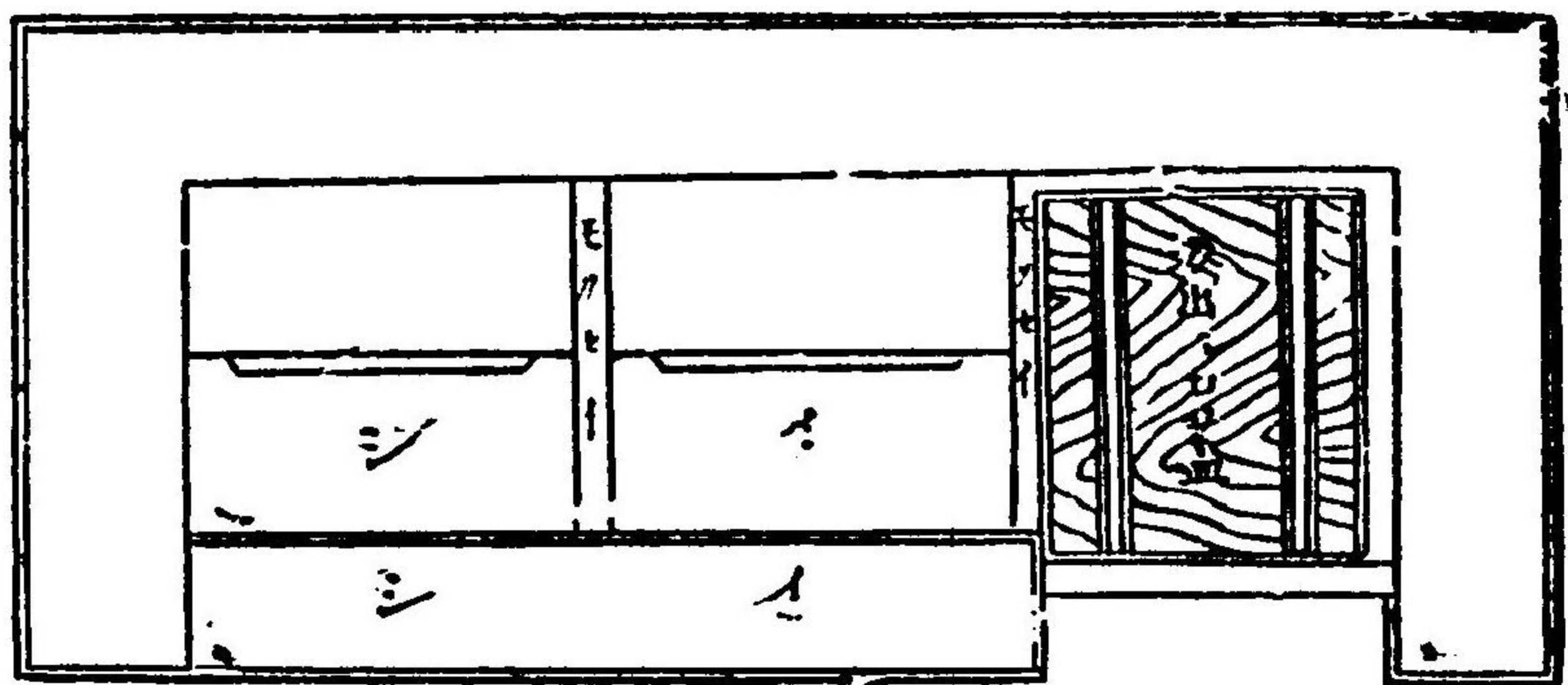
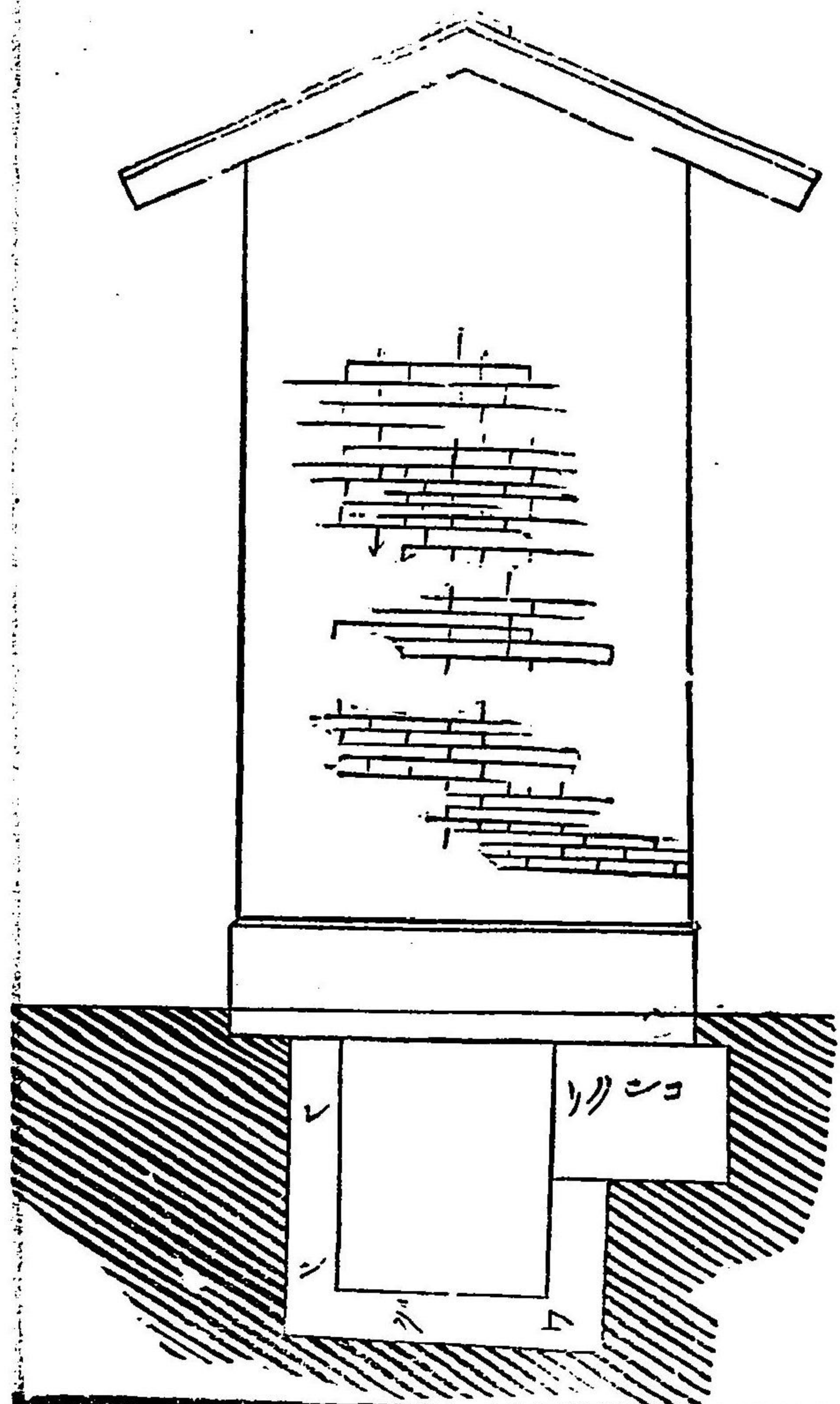
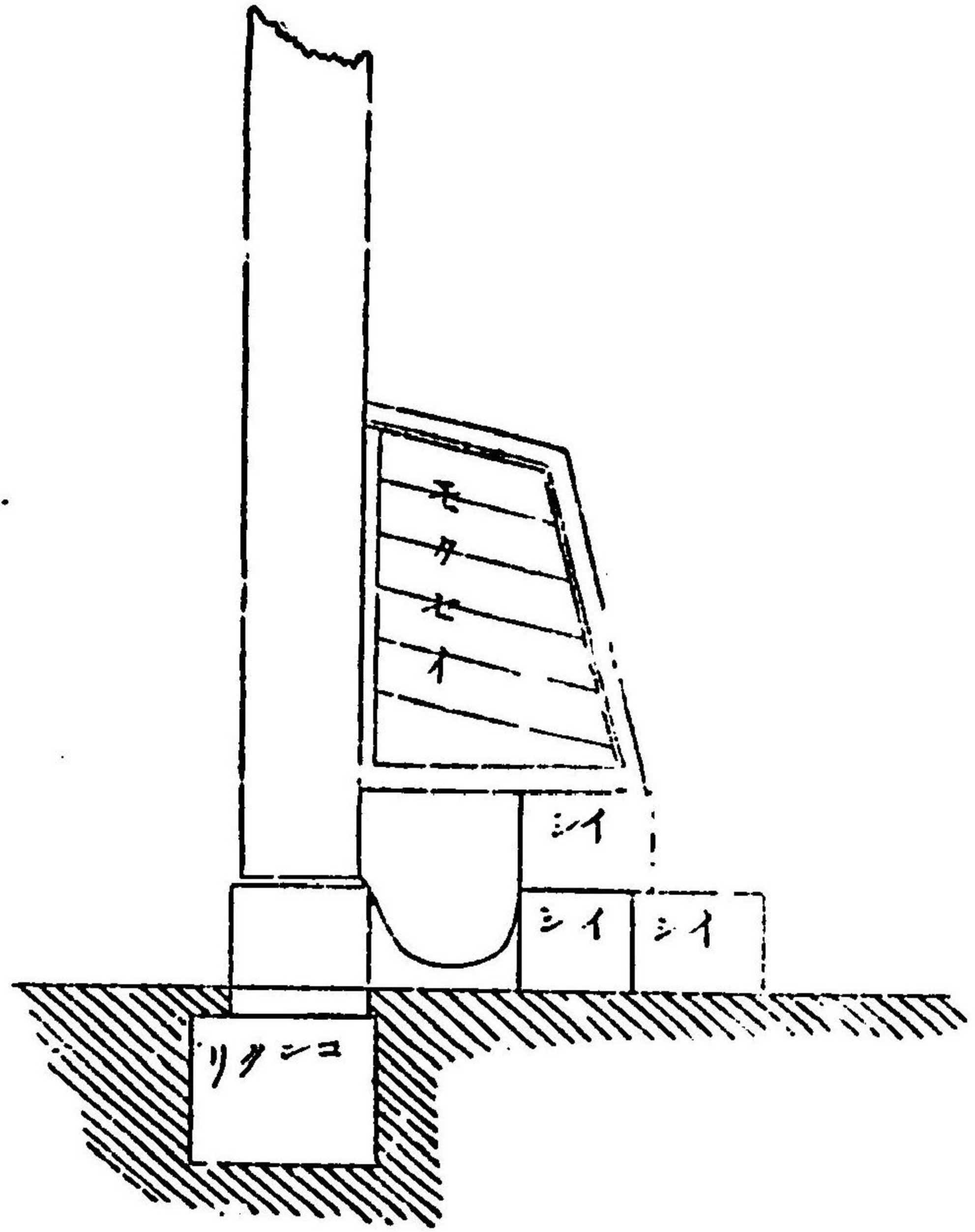
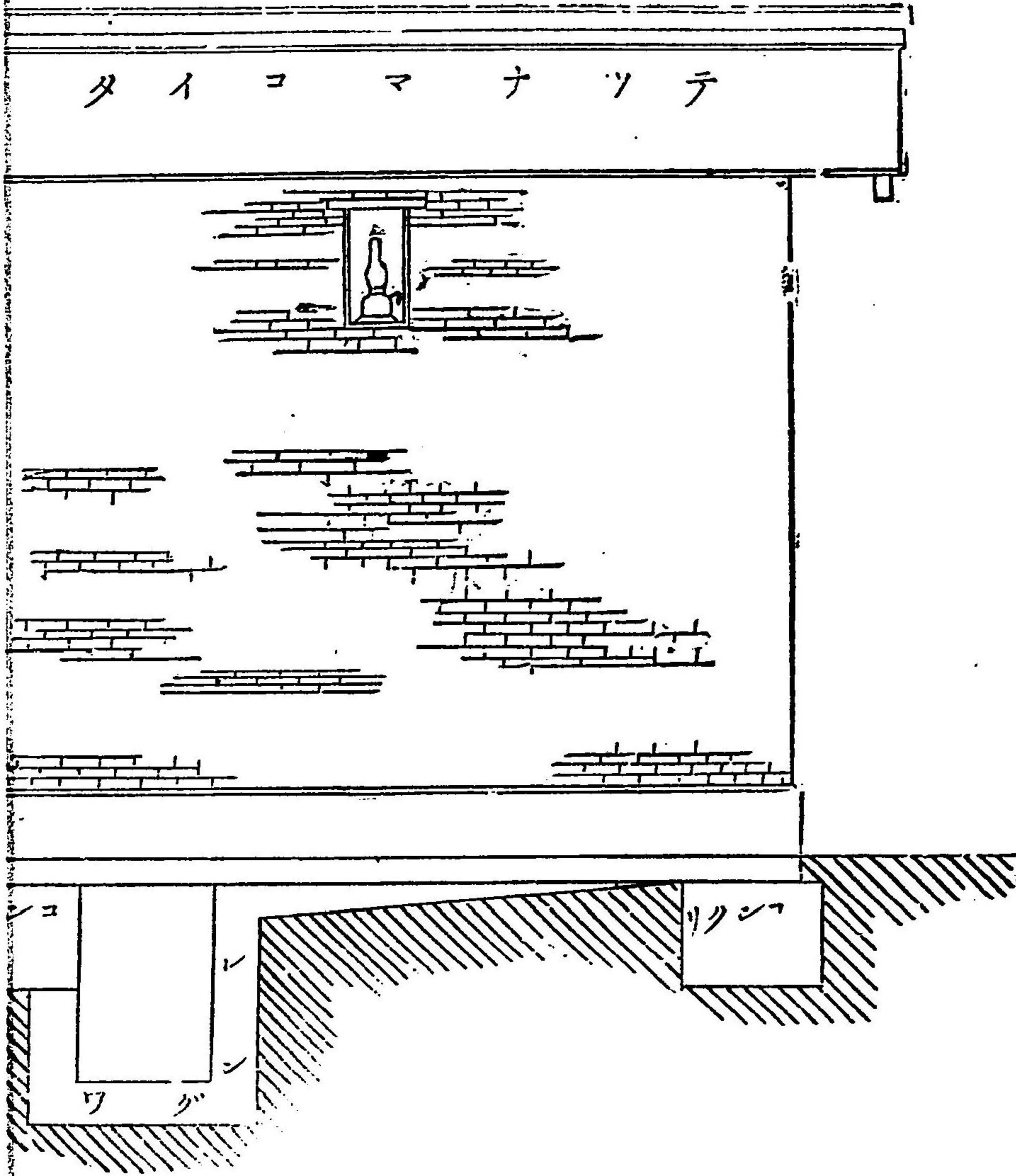
甲 二十五分ノ一

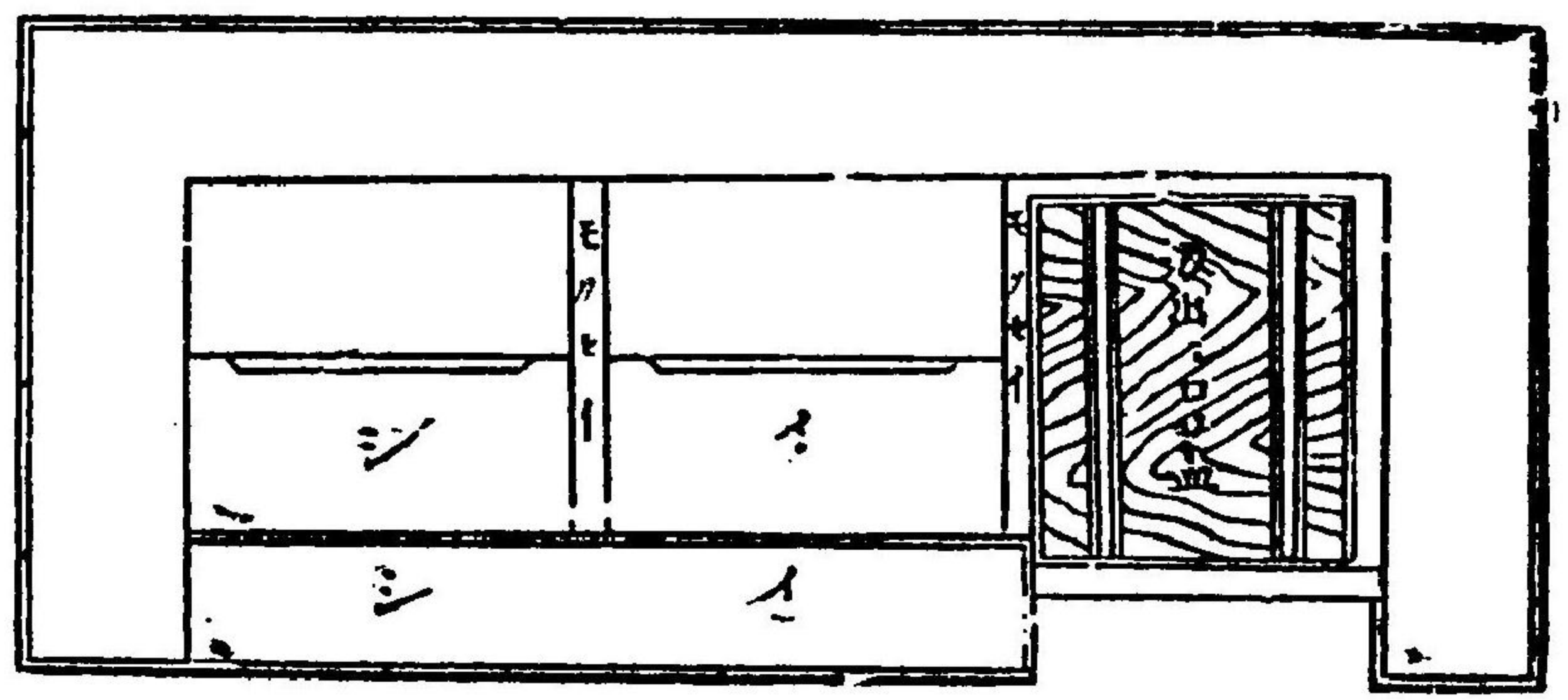
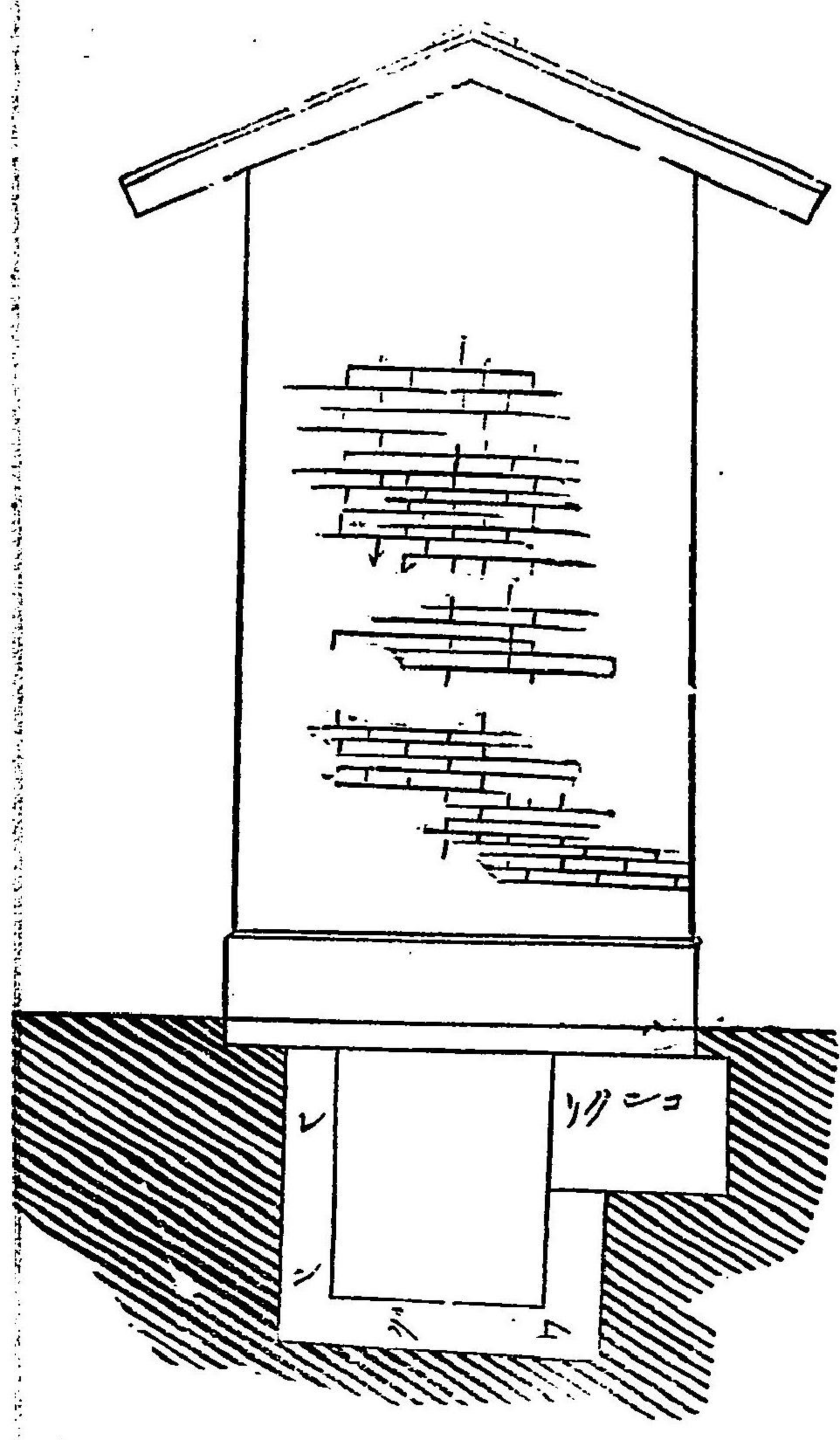
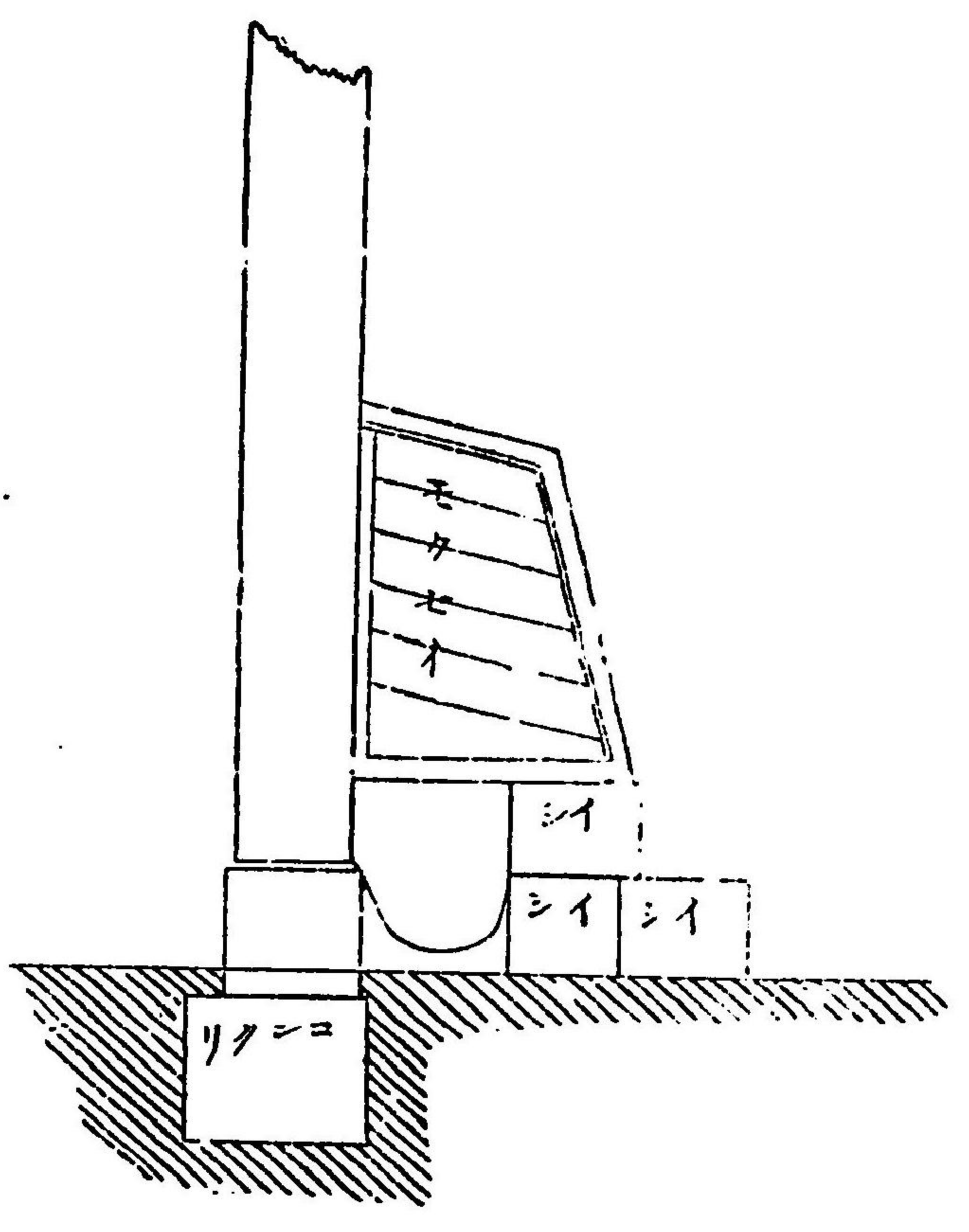
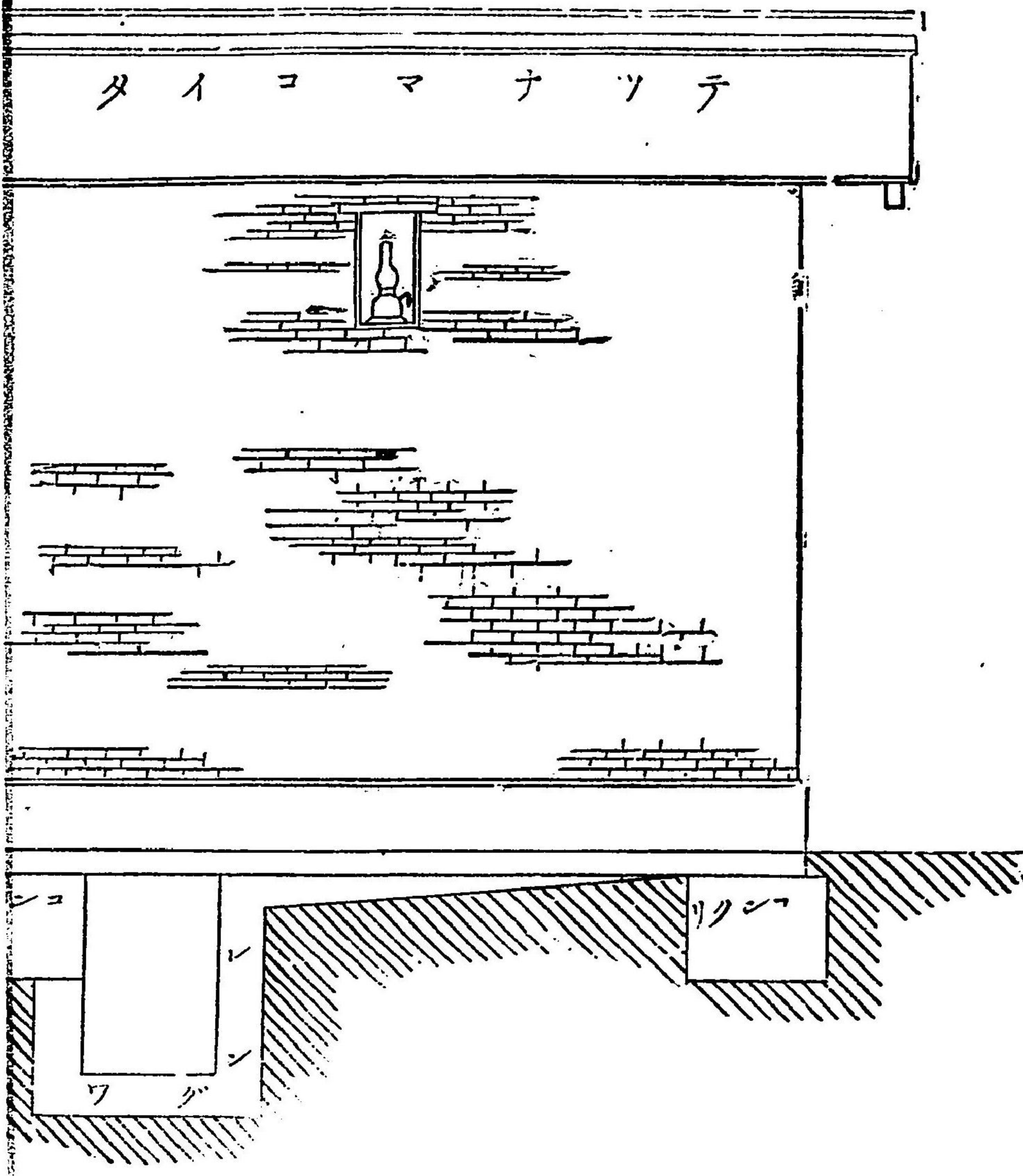






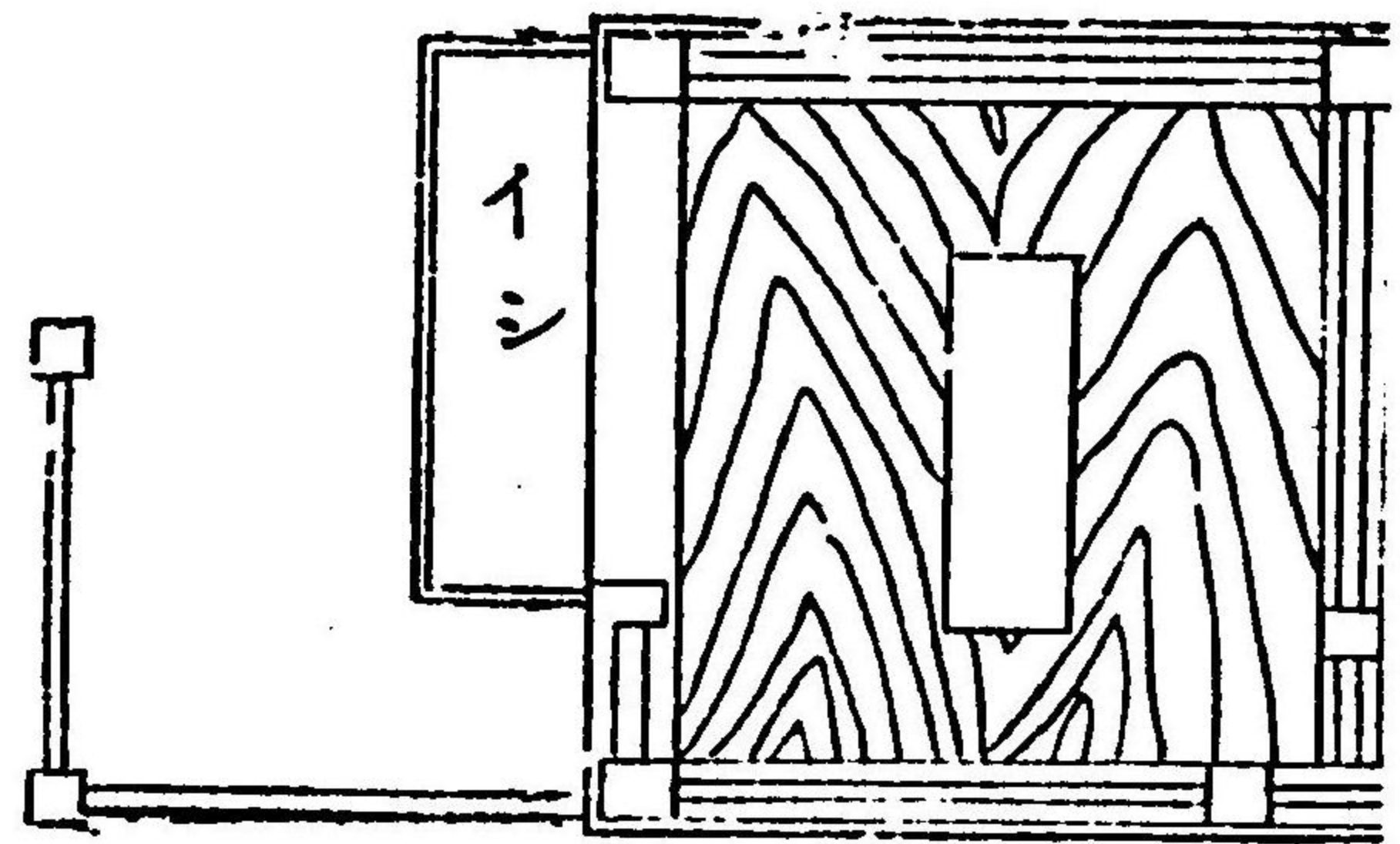


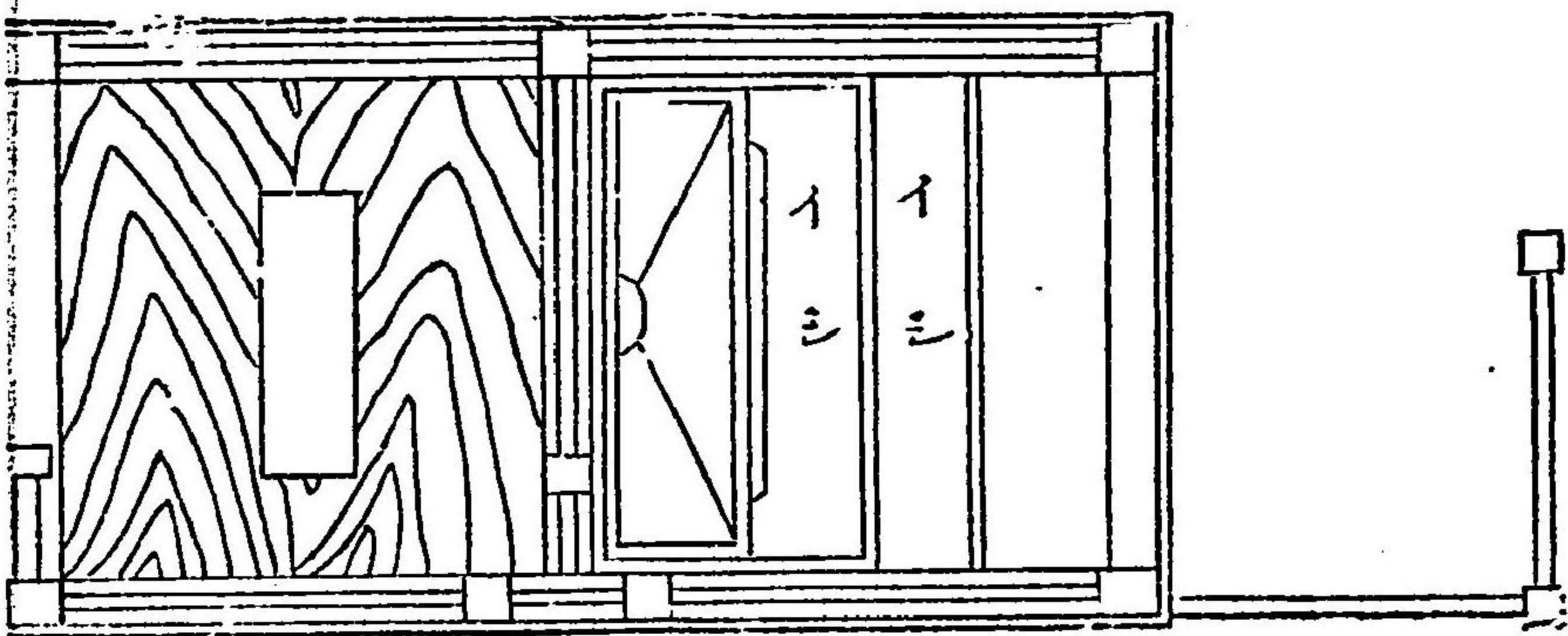
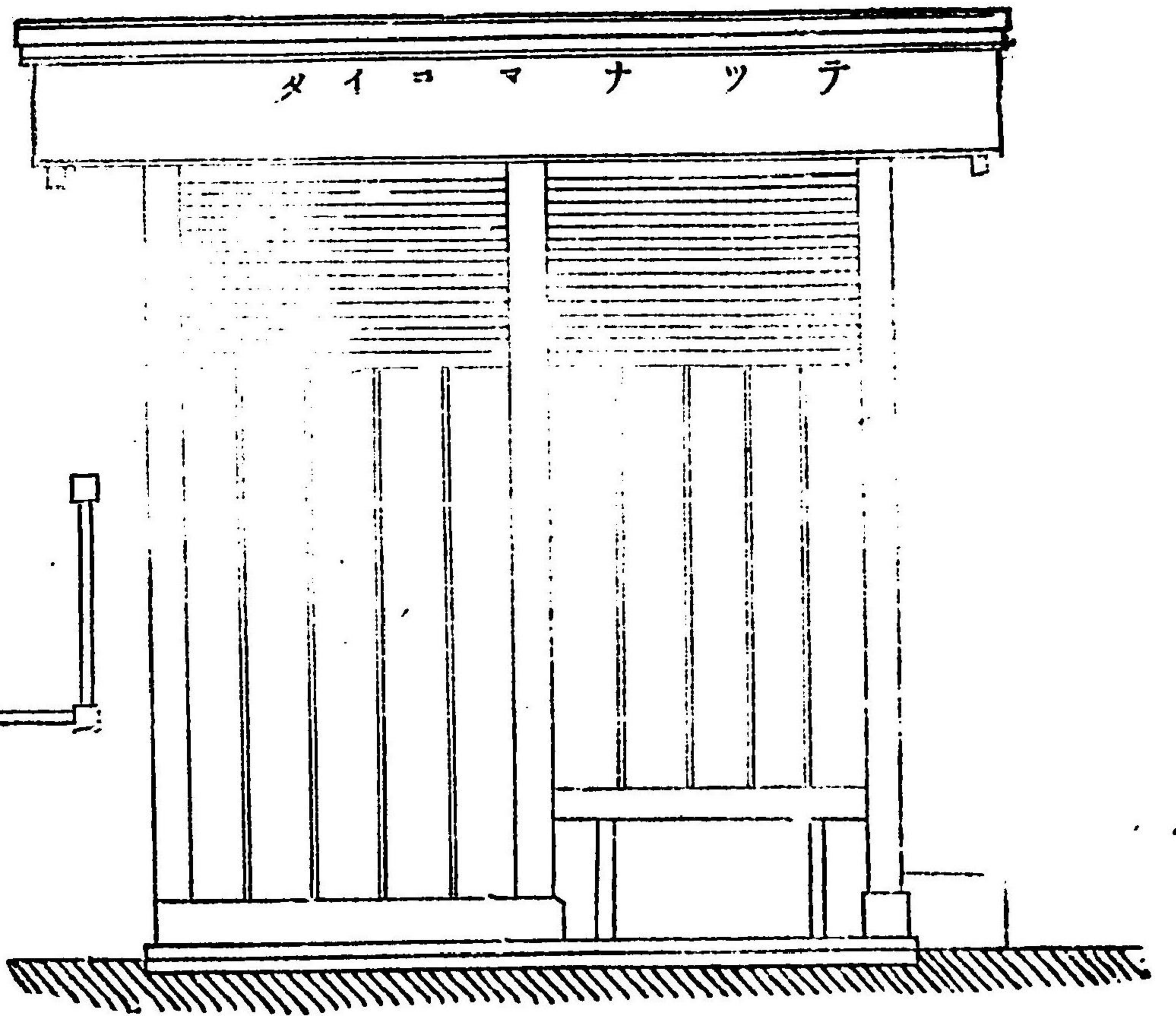
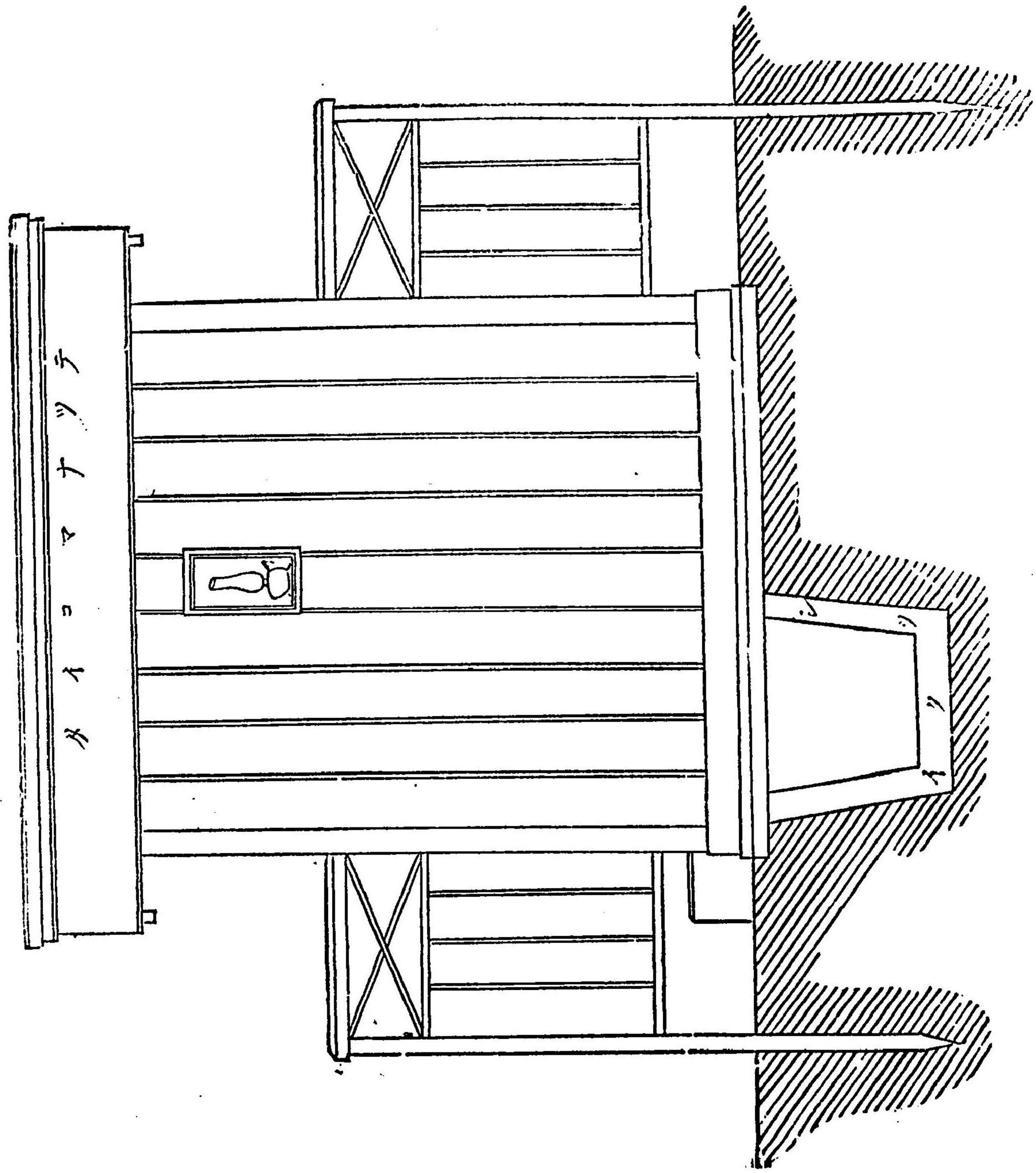


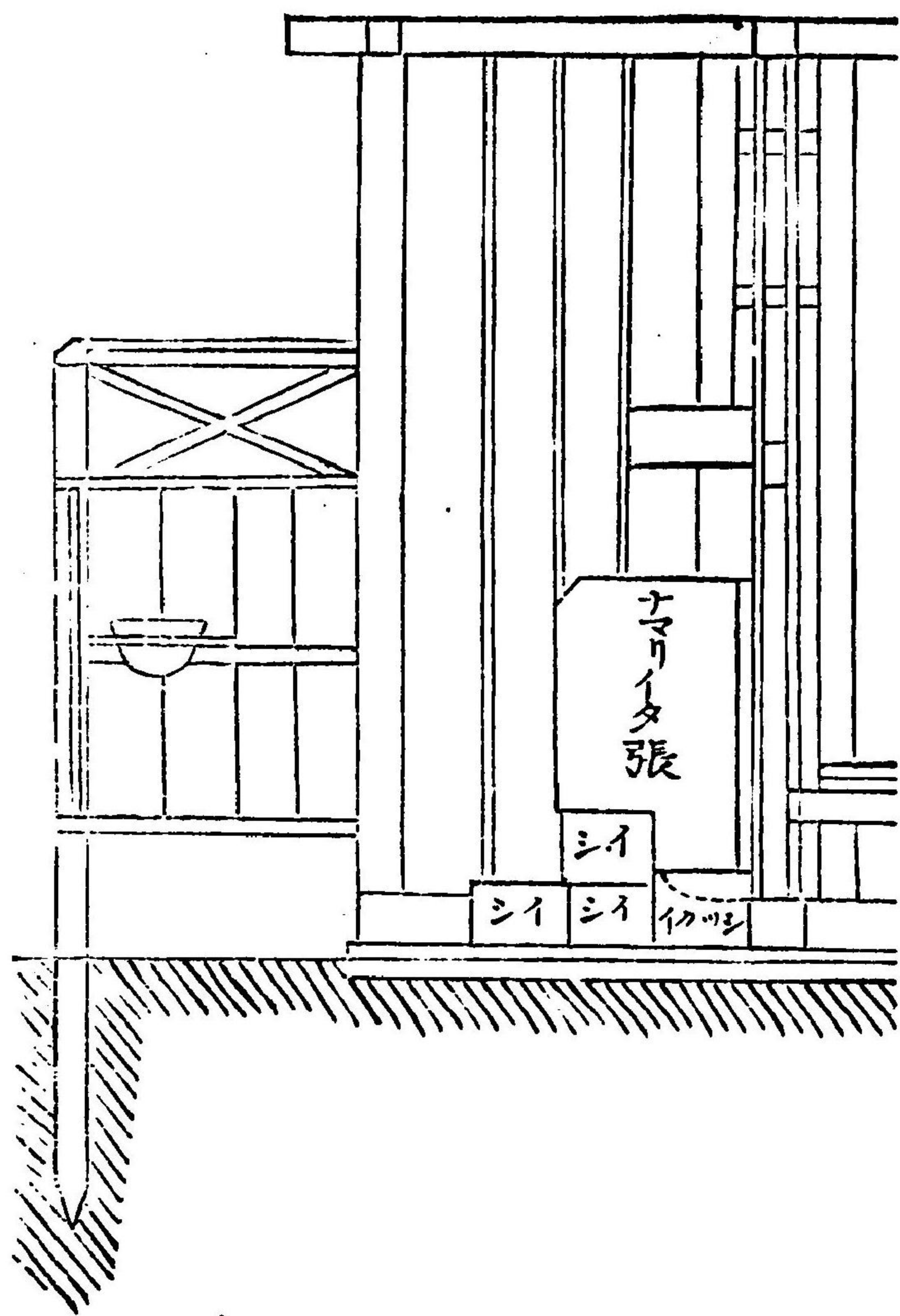




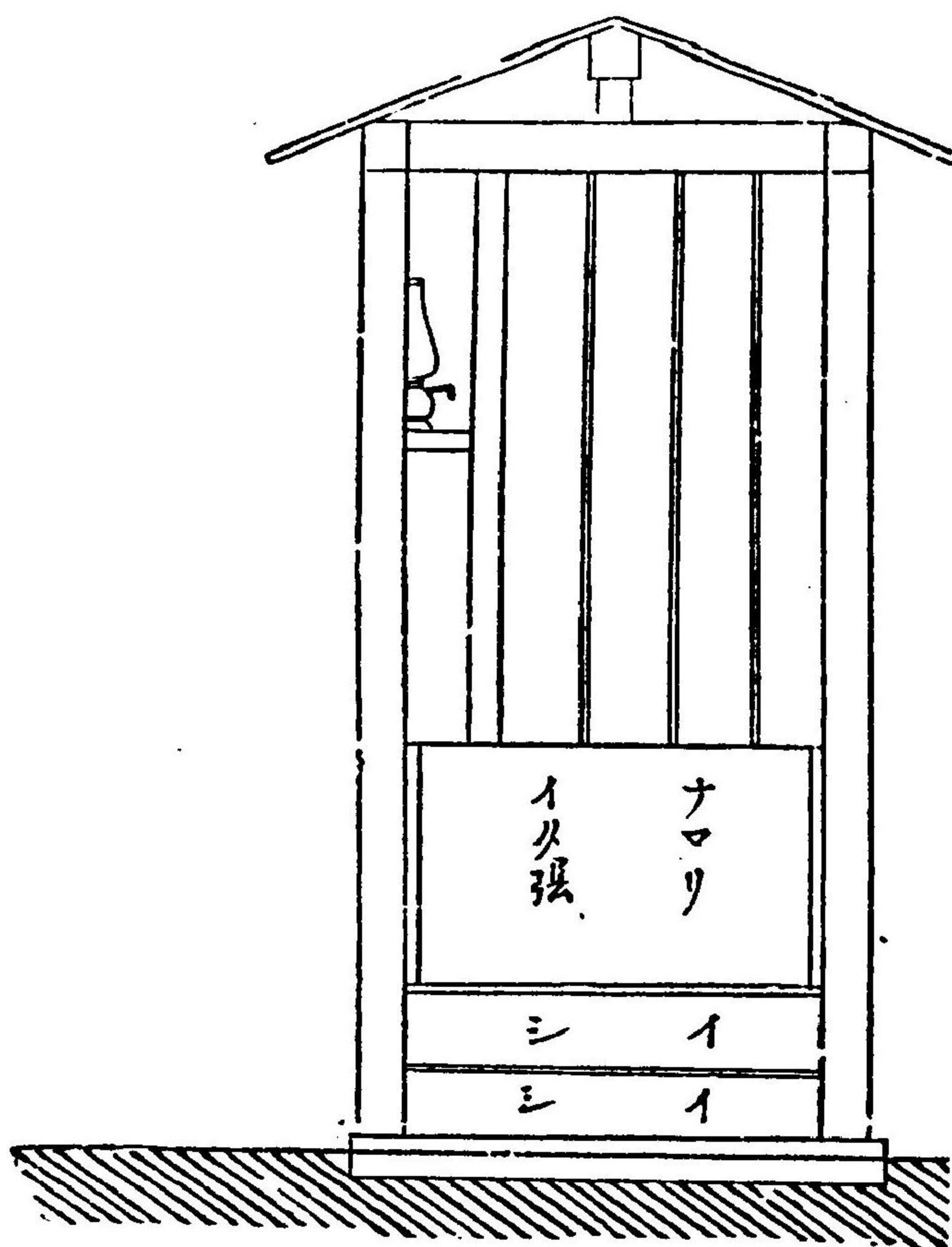
丙 二十五分ノ一

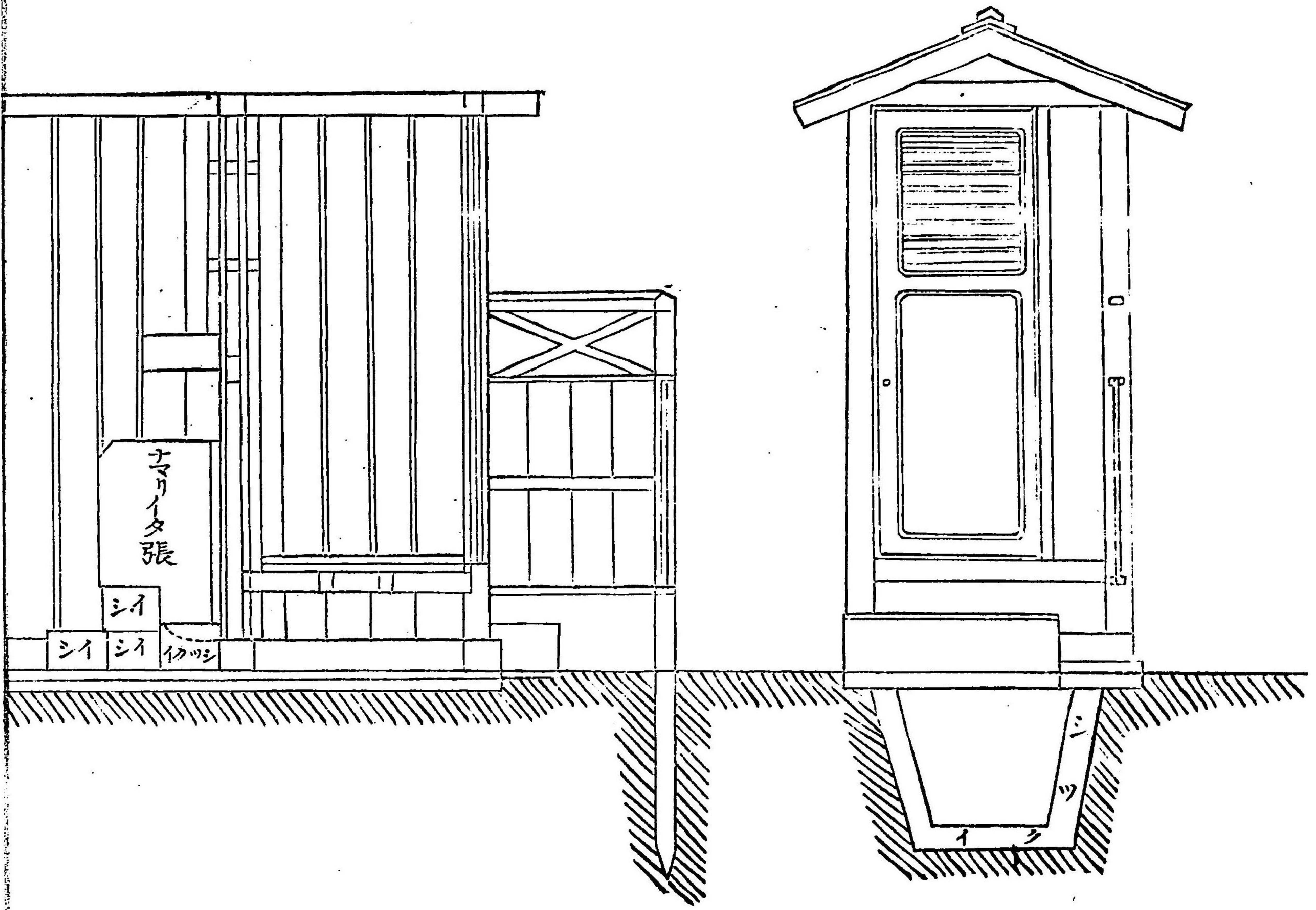




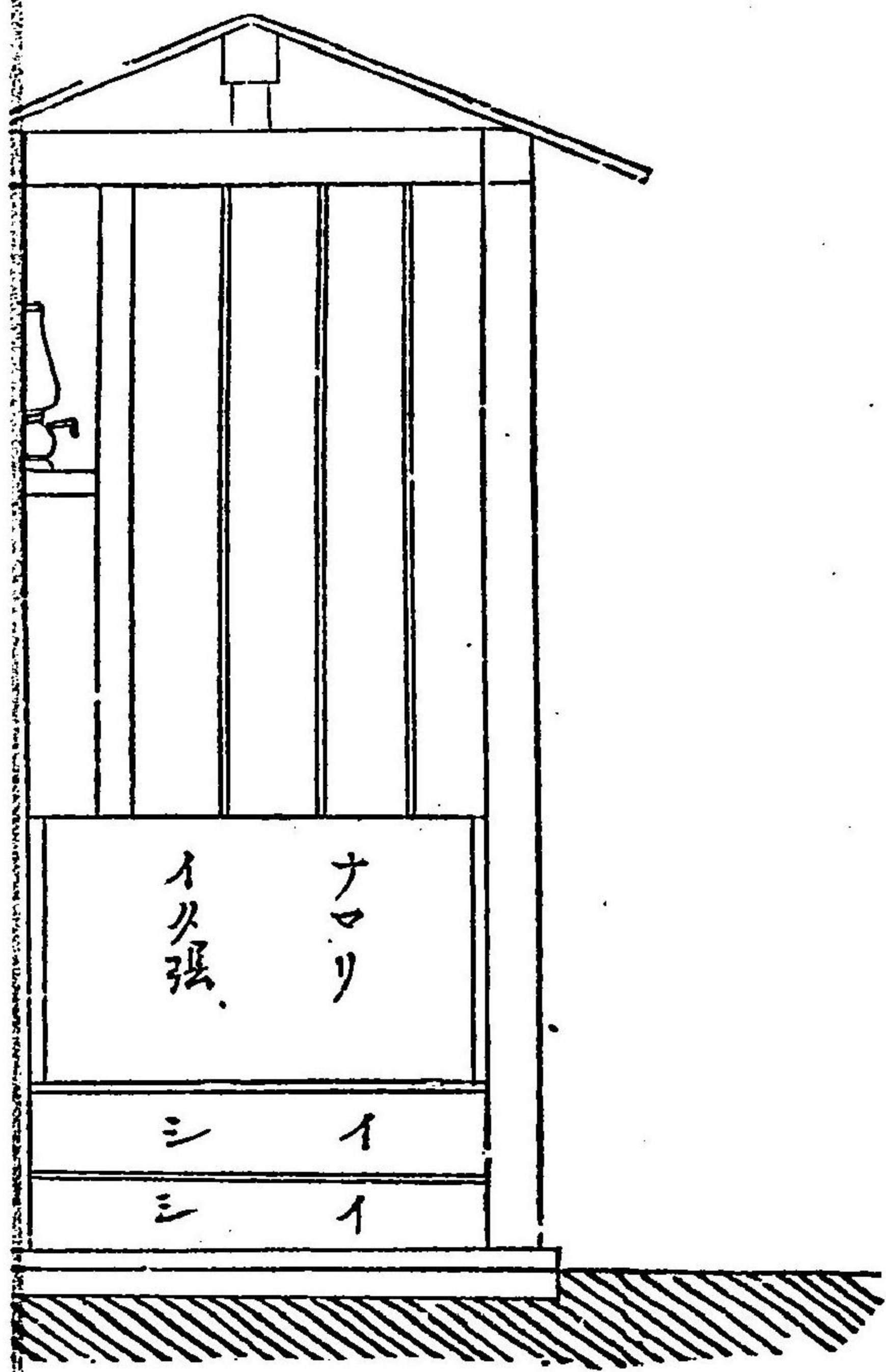


一ノ分五十二 丙

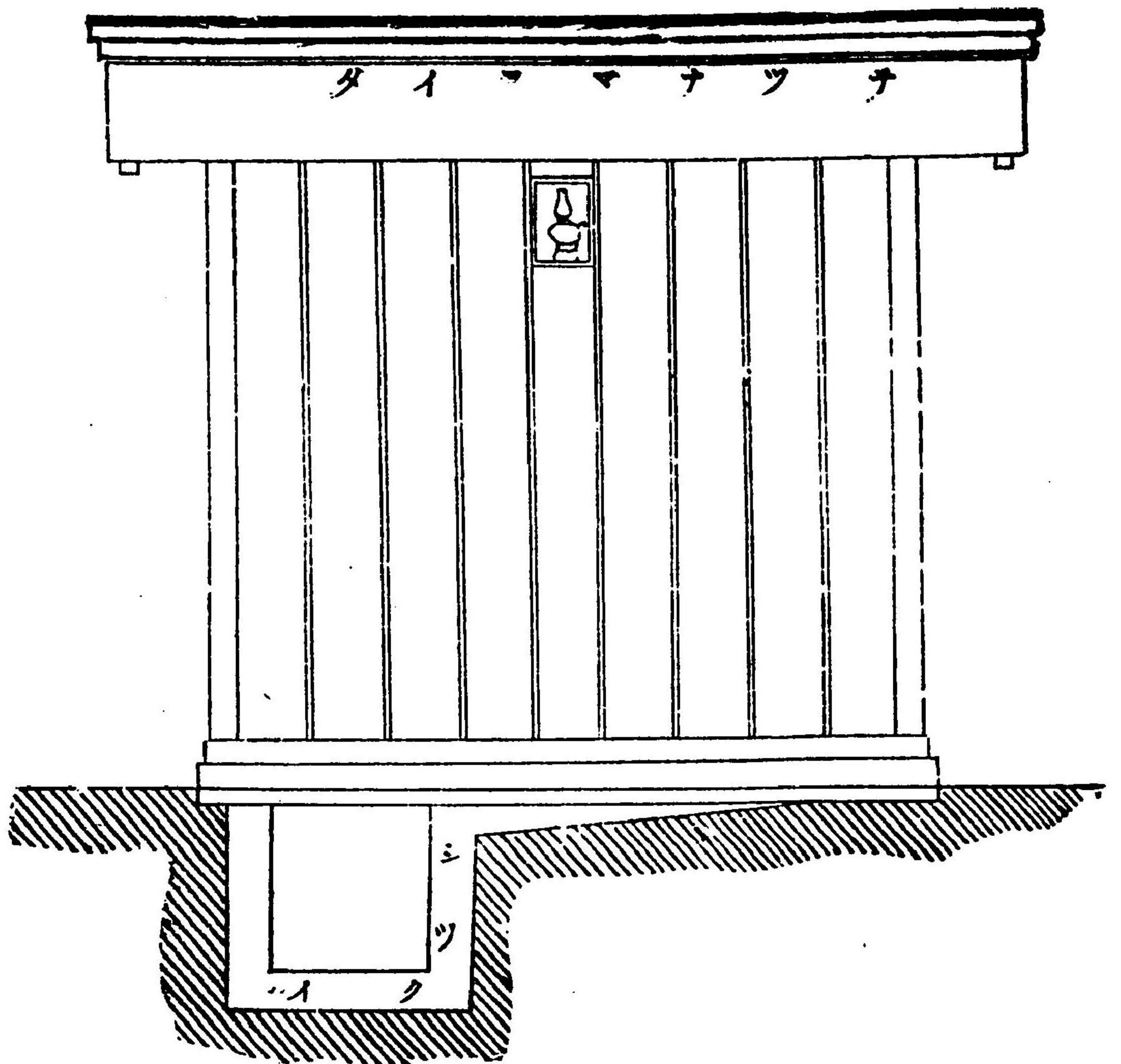


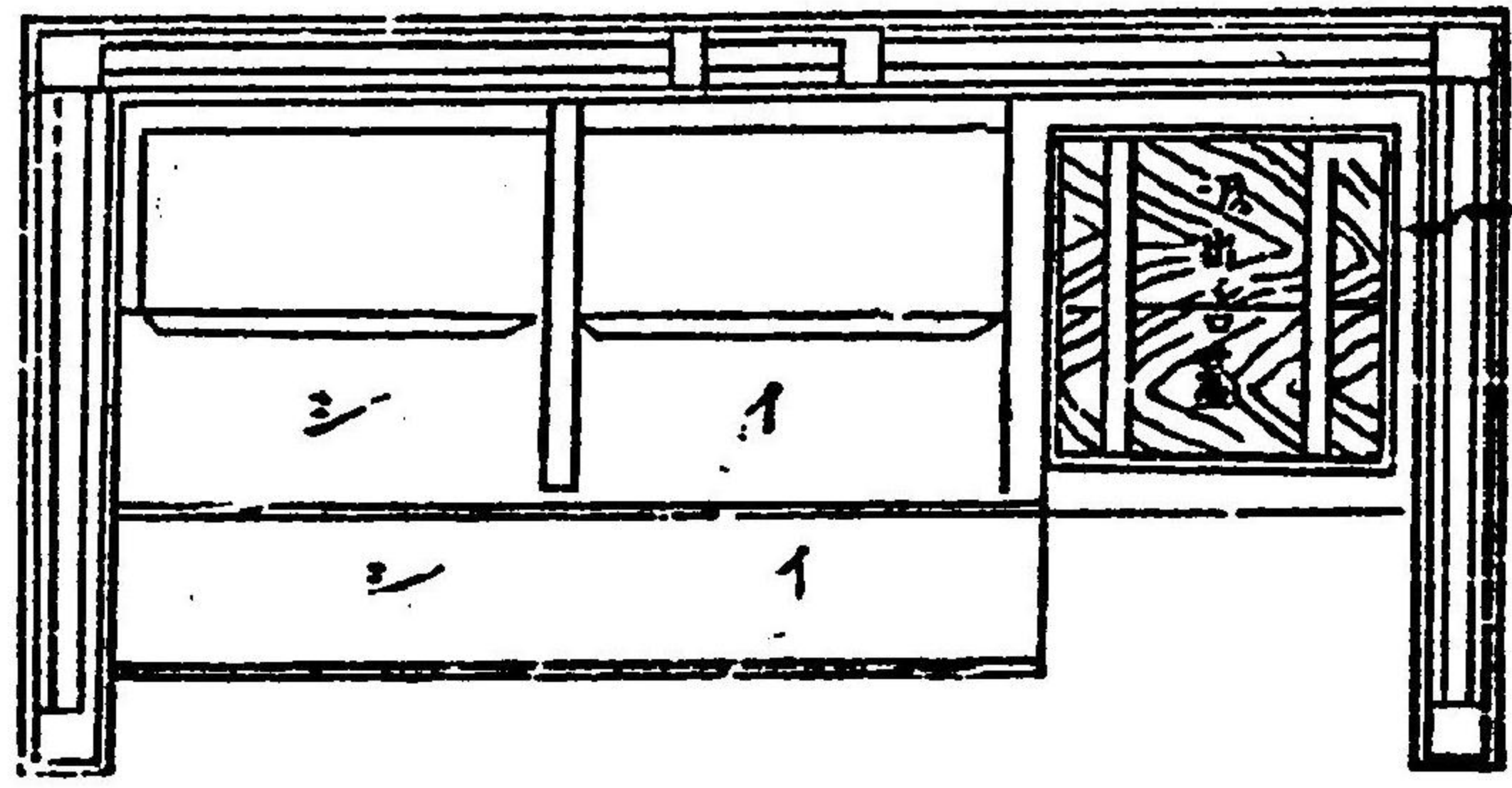


一ノ分五十二 丙

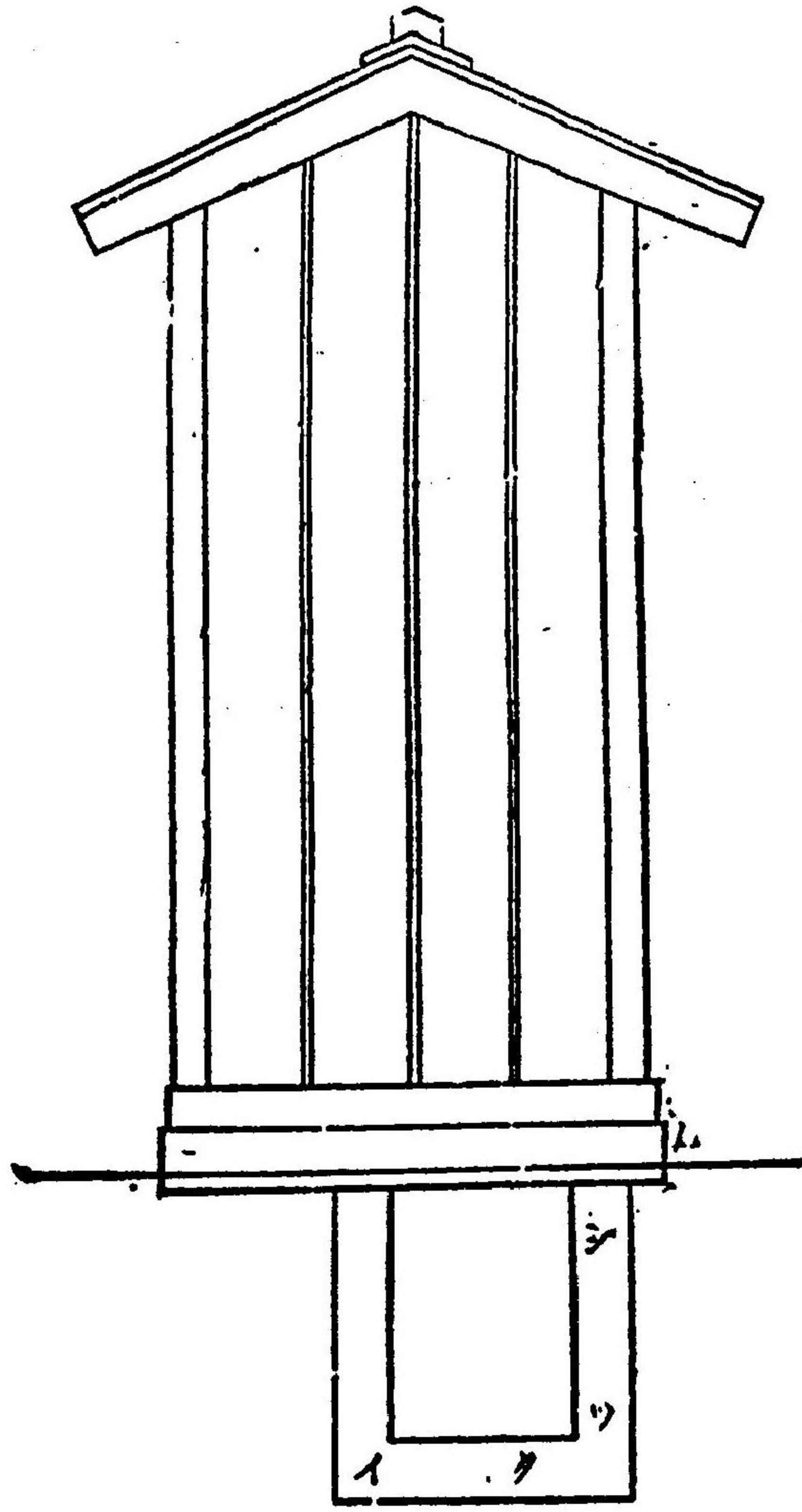


一ノ分五十二 丁

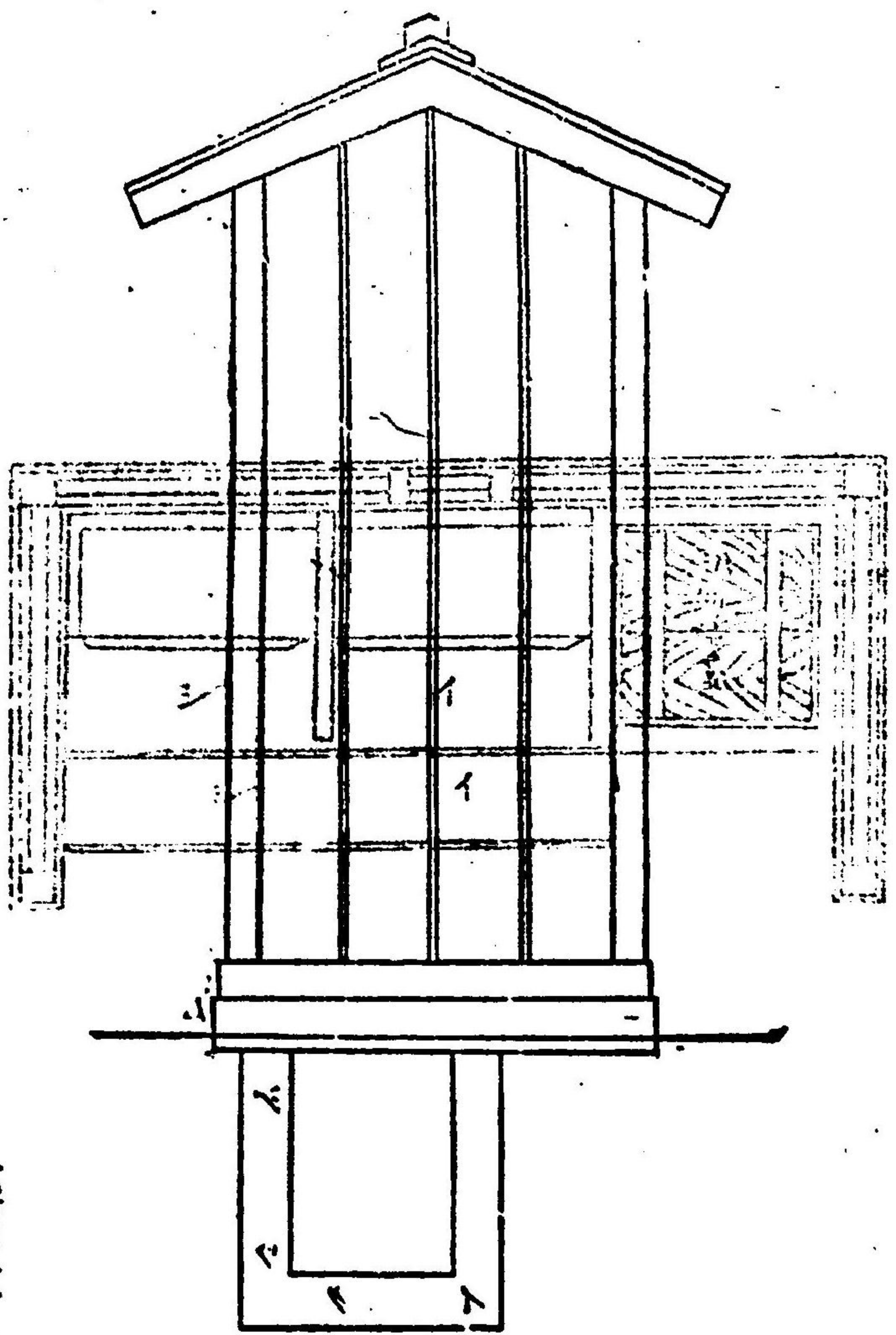




木戸三十一ノ六



丁二十五分ノ一



丁 二十正六ノ一

六百三十一ノ六

縣令第五十三
號ハ第七十三
一號ニ出達第
二十六號ハ第
七百十二條ニ
出

○明治二十年五月九日滋賀縣訓令第四十五號(公報五月十一日) (郡役所月長役場へ)
市街各驛等ノ路傍ニ粗造ノ便所設置スルヲ禁止并各驛路傍船着場等ノ便所構造方
改良ノ義本年一月縣令第五十三號全月達第二十六號ヲ以テ及令達當候次第有之處
右ハ元來國縣道及著名ノ里道ニ沿フ各村ニモ及ホスヘキ素意ナルモ姑シ民度ヲ樹
酌シ單ニ市街各驛船着場而已ニ止メタル義ニ付其意ヲ体シ成ヘシ市街各驛ニ連擔
接續シ自ラ其市驛ノ体裁ヲ爲ス村落ハ該令達ニ倣ハシメ候様注意獎勵スヘシ

第七百十三條 大津市街并接續各村糞尿汲取及運搬時間

○明治二十年八月二十三日滋賀縣令第八十四號(公報八月二十四日)
大津市街並ニ接續各村人家稠密ノ往還筋ニ係ル路傍ノ便所ハ勿論各戸ノ分トモ糞
尿汲取並ニ運搬時間ハ五月一日ヨリ十月三十一日マテノ六ヶ月間ニ限リ午前第十
時迄トシ來ル九月十日ヨリ實施ス

但當該官吏ノ指揮アルトキハ此限ニアラス

第七百十四條 湖邊又ハ入江等ニ於テ糞尿ヲ船積シ糞尿船ヲ繫置スルヲ禁スル場

衛生

六百三十一

所

○明治二十年一月十三日滋賀縣令第九號(公報一月十五日)

大津川口町ヨリ阪本町迄ノ湖邊又ハ入江等ニ於テ糞尿ヲ船積シ又ハ糞尿ヲ積置シタル船ヲ繫キ置クコトヲ禁ス

第七百十五條 出產ノ胞衣並汚穢物焼埋却方

○明治二十年八月十六日滋賀縣令第七十五號(公報八月十七日)

出產ノ胞衣ヲ宅地又ハ園圃等ニ埋藏シ其汚穢物ヲ河溝山野等ニ投棄候儀自今禁止候條一定ノ場所ニ於テ燒却若クハ埋却スヘシ

但燒埋却ノ場所ハ戶長役場ニ於テ撰定シ郡役所ニ届出ヘシ

(二十年十二月六日滋賀縣令第二百三十二號ヲ以テ罰例ヲ定ム其縣令ハ第四百四十四條ニ出)

第七百十六條 飲食物ヲ販賣スル者蠅類塵埃等ノ附着セサル様取締

○明治十九年七月十五日滋賀縣甲第百九號布達

(本文ハ第八百二十條ニ出)

二十二年二月
令第九日滋賀縣
以テ第九號ヲ
施行付戸長役場
ニ改メル其縣令
ハ第三十七條
ニ出

第七百十七條 大阪府下虎列刺病流行ノ節古着襪履紙屑古綿等輸出入手續

○明治十九年十一月一日滋賀縣告示第四百十七號

(本文ハ第八百七十八條ニ出)

○明治二十年四月二十五日滋賀縣告示第六十九號

(本文ハ第八百七十八條ニ出)

○第十二款 出產流產及死亡ノ報告戶籍加除ノ爲メ生死届ニ係ル
布令ハ第十三章第一款ニ載ス
第七百十八條 死亡届規則中改正刪除

○明治二十年三月十四日滋賀縣令第九十號(公報三月十六日)

十八年本縣甲
第百四十九號
布達ハ第四編
第百五十七
條(下卷百十
一丁)ニ出

明治十八年十月本縣甲第百四十九號布達死亡届規則中届書式及届書解釋左ノ通改正
刪除ス

書式

死亡届(死亡檢案証書)	
死者住所	何郡何町(村)何番地居住(寄留) 何某何父母幾男女或ハ何 何 (止宿ノモノハ止宿地ヲモ記入スヘシ)
病名	第何類何々病 何々病(症候經過云々)
死亡日時	明治何年何月何日午前(后)何時何十分

職業	何々業
生年月	年號何年何月 何郡何町(村)何番地 醫師 何 某 印
明治何年何月何日	

届書解釋第四項

一生年月ノ詳カナラサル者アルトキハ其大畧ヲ記スヘシ

第五項刪除ス

○明治二十一年十二月七日滋賀縣令第六十五號(公報十二月八日)

明治十八年十月本縣甲第百四十九號布達死亡届規則中届書式及書式解釋更ニ左ノ通
改正來ル二十二年一月一日ヨリ施行ス

死者住	死亡届 (死亡檢案証書) 何郡何町(村)何番地居住(寄留) 何某何父母幾男女或ハ何 何 某
-----	--

十八年本縣甲
第百四十九號
布達ハ第四編
第百五十七
條(下卷百十
一丁)ニ出

衛生

所氏名	止宿ノ者ハ止宿地ヲモ記入スヘシ		
病類	第何類何々病		
病名	何々病(症候經過云々)		
死亡ノ年月日時	明治何年何月何日午前(后)何時何十分		
職業	何々業		
年齢	何年何ヶ月	何那何町村何番屋敷	何
明治何年何月何日	醫師 何 某印		

届書解釋第四項

一年齡ハ總テ何年幾月ト記シ一年未滿ノモノハ何ヶ月ト記スヘシ若年齡詳カナラ
 カルモノハ其大畧ヲ記スヘシ

第十三款 衛生ニ係ル雜則並報告諸表

第七百十九條 施治患者表書式並進達期限

十八年本縣甲
 第百四十九號
 布達ハ第四編
 第百五十七
 條(下卷百十
 一丁)ニ出

○明治二十一年三月六日滋賀縣令第五十四號(公報三月七日)

各開業醫師ニ於テ施治ノ患者ハ本年七月以降別紙表式ニ據リ患者表ヲ製シ毎年前
 半期分ハ七月三十一日後半期分ハ一月三十一日迄ニ其組合長ニ差出ヘシ組合長ニ
 於テハ調査ノ上取纏メ翌月五日限郡役所ヲ經テ當廳ヘ進達スヘシ

但病類記載方ハ明治十八年^十本縣甲第百四十九號布達死亡届規則ニ據ケタル病
 類細目要領ニ據ルヘシ

別紙

施治患者表	明治何年自七月至十二月上半年期分	郡村町
病類	五 年十 年十五 年廿五 年四十 年六十 年六十 以上合計	醫師 氏名印
傳染性病	男 女	

衛生

廿一年十二月
廿八日
第八百八十八號
以テ參照ス
下ニ編入ス
タメ第七百七
十九條ニ出

ハス毎一年別紙様式ニ照準調製シ翌年一月三十日限當廳へ差出スヘシ
但昨十九年分モ本文ニ準シ取調本月三十一日限差出スヘシ
○明治二十一年十二月八日滋賀縣達第二百八十三號（郵務ノ内第十二表）

（本文ハ第七百七十九條ニ出）

○第十一章 寄附褒賞及賑恤備荒

○第一款 寄附

第七百二十二條 地方税及町村費ヲ以テ施行スル土木事業ノ爲メニ要スル潰地寄

附ノ事

○明治二十年五月十二日滋賀縣訓令第五十一號（郵務所ノ長役場へ）

（本文ハ第五百四十一條ニ出）

○明治二十年七月十二日滋賀縣訓令第七十一號（郵務所ノ長役場へ）

（本文ハ第五百四十一條ニ出）

○明治二十一年四月十七日滋賀縣訓令第四十二號（郵務所ノ長役場へ）

（本文ハ第五百四十一條ニ出）

○明治二十二年一月八日滋賀縣訓令第二號（郵務所ノ長役場へ）

（本文ハ第五百四十一條ニ出）

第七百二十三條 書入ニ係ル民有地ヲ官有道路堤塘溝渠敷等ニ寄附スル手續

寄附褒賞及賑恤備荒

明治廿年六月十三日滋賀縣第一部庶務第七五三號通牒（郡役所戸長役場へ）（公報六月十五日）

書入ニ係ル民有地チ官有道路堤塘溝渠敷等ニ寄附スルモノ往々有之登記請求ニ差支候間自今右書入ノ土地チ官有ニ寄附セントスルトキハ登記法ニ依リ其契約ノ全部若クハ一部分解除ノ手續ヲ了シ然ル后寄附ノ議出願スヘシ様御取計可有之此段及御通牒候也

第七百二十四條 町村費ニ對シ寄附スル金穀物件處分方

明治二十年二月十七日滋賀縣達第六十二號（公報二月十九日）（郡役所戸長役場へ）

町村費ヲ以テ施行スヘキ事業ニ對シ寄附スル金穀物件ハ町村費ノ豫算ニ編入セス直ニ寄附者指定ノ費途ニ仕拂及使用スヘシ

明治廿年十二月十六日滋賀縣達第三百九十四號（公報十二月十七日）（郡役所戸長役場へ）

一、町村費ヲ以テ支辨スヘキ事業ニ關シ寄附スル金穀物件ハ町村會ノ議決ヲ經テ寄附者ノ指定シタル費途又ハ使用ニ充ツヘシ

一、町村費ヲ以テ支辨スヘキ事業ニ關スル寄附金ノ支出豫算議決及精算報告書式ハ

二十年十二月十六日滋賀縣達第三百九十四號ニ依テ消滅スルモノニシテ其後ニ出スルモノハ後ニ

十八年乙第七號達ハ第四編上卷百六十九丁ニ出

寄附者指定ノ費目ニ於テ町村費ト寄附金ト内譯ヲ爲ス可シ

一、物件ノ寄附又ハ年賦寄附等ニシテ通常豫算ニ編入シ難キモノハ便宜別議案ヲ以テ議定ニ付スコトヲ得

一、明治十八年乙第七號達町村費收入豫算議決並精算報告書式ハ地方稅補助金ノ次ニ「寄附金」ノ一項ヲ增加ス

○明治二十二年四月十二日滋賀縣訓令第三十二號（公報四月十三日）（郡役所戸長役場へ）

町村費ニ對シ金穀物件ヲ寄付シタルモノ其寄付者指定ノ事業又ハ費途ノ廢絶シタル場合ニ於テ其金穀物件處分方左ノ通之ヲ定ム

第一條 一旦使用ノ後寄付者指定ノ事業又ハ費途ノ廢絶シタル場合ニ於テハ町村會ノ議決ニ依リ其事業又ハ費途ニ最モ近似ノ事業ニ充用シ若クハ寄付者ニ還付スルコトヲ得

同上ノ金穀物件ニシテ未ダ使用スルニ至ラズシテ寄付者指定ノ事業又ハ費途ノ

廢絶シタル場合ニ於テハ之ヲ寄付者ニ還付スヘシ

第二條 元金又ハ原物ヲ委托シ其收得ヲ寄付シタルモノ若シハ元金又ハ原物ヲ据置トナシ其收得ヲ使用スルノ方法ヲ以テ元金又ハ原物ヲ寄付シタルモノ其事業又ハ費途ノ廢絶シタル場合ニ於テハ其元金又ハ原物ハ之ヲ寄付者ニ還付シ其現存ノ收得又ハ之ヲ以テ支辨シタル物件ハ前條ニ依リ處分スヘシ

第三條 寄付ノ金穀物件ニシテ其處分方ニ付特別ノ約束ヲ付セルモノハ各其約束ニ依ル

○第貳款

褒賞及恩給 軍人軍屬ノ恩給ニ係ル布令ハ第四章第五款ニ載ス

第七百貳拾五條

孝子順孫節婦義僕等褒賞上申方

（通稱）明治十七年十月三日滋賀縣庶務課通牒各郡役所へ

孝子順孫節婦義僕等褒賞ノ義御上申ノ際本人所轄警察署ニ移シ探偵ノ向モ有之候處右ハ戸長上申ニ依リ明治十六年一丙第八號達ニ基キ夫々調査ノ上御上申相成可然義ニ付以來其時々探偵ニハ及ハス候條此段及御通牒候也

第七百二十六條

金穀財産等寄附者褒賞上申方

（參考）明治二十一年一月二十四日滋賀縣第一部庶務第二二五號通牒郡役所へ（公報一月二十五日）

金穀財産等寄付者褒賞方御上申ノ節ハ自今別表ニ照準御取調有之度此段及御通牒候也

○ 追テ華族、勅委任官、從六位以上、勳六等以上、並ニ寄付金額、寄付物品價格、寄付

寄附褒賞及賑恤備荒

二十二年四月
ヨリ町村制實
施ニ付戸長ハ
町村長ニ改マ
ル
十六年丙第八
號ハ第二編第
二百八十六條
（下巻三百十
二丁）ニ出

勞力賃金ノ五百圓以上ニ係ル分ト否ラサルモノトヲ區別シ御申出有之度此段申添候也
別表

寄付金取調表

寄付金額	學校病院道路橋梁堤塘等所在地名	費途ノ目的	經濟區別	寄付年月日	本籍住所	姓名籍
金、、、、	何郡何村	何々學校建築費	町	明治何年何月何日	何郡何村	華士族(平民) 何某
金、、、、	同上	何々病院建築費	地	明治何年何月何日	同上	右同人
金、、、、	同上	同上	同上	明治何年何月何日	何郡何村	華士族(平民) 何某
金、、、、	何郡何村	何々橋梁架設費	町	明治何年何月何日	何郡何村	村中

寄付物品 箇數(坪數)	價格	學校病院道路橋梁堤塘等所在地名	費途ノ目的	經濟區別	寄付年月日	本籍住所	姓名籍
人夫何十何人	金、、、、	何郡何村	堤塘修築費	地	明治何年何月何日	何郡何村	華士族(平民) 何某
人夫何十何人	金、、、、	何郡何村	土砂并止費	國	明治何年何月何日	何郡何村	何會社
何々何十何冊	金、、、、	何郡何村	何々學校備品	町	明治何年何月何日	同上	右同社
何々幾箇金、、、	何郡何村	何町外何ヶ村 戸長役場備品	町	明治何年何月何日	何郡何村	華士族(平民) 何某	
米何石何斗金、、、	何郡何村	年月日何郡何村水害罹災ノ貧民氏名外何戸此人員何人救助	町	明治何年何月何日	同上	右同人	

凡例

一 寄付年月日ハ金數物品ヲ納入セシ年月日ヲ記入シ又年賦寄付ハ初年ノ月日、完納ノ年月日ヲ記入スヘシ
一 勞力ヲ寄付セシ者ハ其延人員寄付物品ノ欄ニ記入シ賃金ハ合算シテ價格ノ欄ニ記

寄附褒賞及賑恤備荒

入スヘシ

- 但全一ノ事件ハ金員ト物品若シクハ金員ト努力ヲ寄付セシモノアルトキハ寄付金額欄ニ其金員及物品若シクハ延人員并ニ其價格又ハ賞金ヲ併記スヘシ
- 一寄留者ハ其住所ノ郡町村名ヲ本籍住所ノ欄ニ併記スヘシ
- 一經濟區別ノ欄ニハ其事件ノ國庫地方稅町村費支辨ノ區別ヲ記入スヘシ
- 一官位勳爵アル者ハ族籍ノ下ニ記載スヘシ
- 一本表ハ具申書ノ餘白ヘ記載スルモ苦シカラス又事項煩雜ニシテ一行中ニ記載シ盡ス能ハサルモノハ次行ニ記スルモ妨ナシ
- 一小學校等ノ建築費若シクハ建築ニ際シ敷地買入代金等ノ寄付者ニシテ全建築等ニ付功勞アルモノアルトキハ表中寄付金額欄ニ朱圈ヲ付シ其成績並ニ履歷ヲ別紙ニ取調添付スヘシ
- 一寄付者ノ内重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタルコトアル者ハ表中氏名欄ニ朱圈ヲ付シ刑ノ要領ヲ別紙ニ記載添付スヘシ

〔考〕明治二十一年二月九日滋賀縣第一部庶第四〇四號通牒郡役所ヘ(公報二月十日)
來ル二十一年度以後地方稅又ハ町村費ヲ以テ支辨スヘキ事業ニ關シ金穀物件ヲ寄附シタル者ノ賞與ハ該寄附金穀物件ニ付縣會又ハ町村會ノ議決ヲ經タル上申請可相成等ニ候此段及御通牒置候也

〔考〕明治廿一年五月十五日滋賀縣第一部庶第一四五九號通牒郡役所ヘ(公報五月十六日)
公益ノ爲メ金穀等ノ寄付者賞與具申方ノ義ニ付テハ明治十六年五月本縣丙第四十四號達ノ次第モ候處自今地方稅經濟ニ屬スル事業ニ金品ヲ寄付候者ニ限リ賞與方御申請ヲ要セス行賞可相成ニ付右等篤志者ノ義ハ別段御上申ニ不及候條其旨御承知有之度此段及御通牒候也

第七百二十七條 褒狀ノミ與ヘラルヘキ者具申并褒詞方

〔補〕明治十六年五月九日滋賀縣本局附屬通達各部役所ヘ

今般丙第四十四號ノ通達相成候ニ就テハ右具申方ノ義ハ本年丙第八號達ニ據ルヘキ義ニ候ヘ共褒狀ノミ與ヘラルヘキ者ハ自ラ詳細ノ取調ヲ不要モノモ有之候間右

寄附褒賞及賑恤備荒

十六年本縣丙第四十四號第八十五條(下卷三百九丁)ニ出

丙第四十四號第八十五條(下卷三百九丁)ニ出
丙第四十四號第八十五條(下卷三百九丁)ニ出
丙第四十四號第八十五條(下卷三百九丁)ニ出
丙第四十四號第八十五條(下卷三百九丁)ニ出

ノ部分ハ寄付ノ金額並ニ族籍氏名重罪ノ刑ヲ受ケシヤ否等ノ邊分明スレハ右ノヲ具申相成可然候間兼テ御心得置相成度此段申進候也

二十二年四月
ヨリ町村制實
施ニ付戸長ハ
町村長ニ改マ
ル

○明治十九年九月十八日滋賀縣第一部庶第一五〇號照會部役所（公報九月二十二日）
學校道路等ノ費途ヘ金穀ヲ寄付。或ハ貧民ヲ救助セシ者其金高壹圓以下ノ分ヘハ褒詞ヲ賜ヒ候成規ノ處僅々數錢ヲ寄付スル者ヘ一々辭令書ヲ下付セラハ、トキハ官民ノ費用ト手數不抄候ニ付自今壹圓以下ノ寄付者ヘハ褒詞狀ヲ下付セス所轄戸長ヲシテ褒詞傳達セシムル事ニ相成候就テハ自今主務部ヨリ褒詞方通牒有之候節ハ所轄戸長ヲシテ傳達方取計候様御通達有之度此段豫メ及御照會候也

第七百二十八條 社寺ノ名目ヲ以テ寄附出金等致シタル者賞與方

○明治十九年六月九日滋賀縣庶務課庶地第八八二號通牒甲賀郡役所

學校病院其他道路橋梁濟貧恤窮等ノ費途ヘ一町一村或ハ一會社等ノ名目ヲ以テ出金セシモノハ其町村會社ヘ賞與相成有之然ルニ一神社一寺院ノ名目ヲ以テ寄付出金等致シ其寄付ノ性質神官住職又ハ氏子檀家等引分ケ難キモノハ其社寺號ヲ以テ

二十二年四月
ヨリ町村制實
施ニ付戸長ハ
町村長ニ改マ
ル

賞與可相成義ニ付爲御心得此段及御通牒候也

但本文ノ趣ヘ便宜各戸長ヘモ御通示置相成可然義ニ付此段申進候也

第七百二十九條 判任官以下勤勞功績アル者賞與開申方

○明治十九年七月三十日滋賀縣訓令第二十三號郡役所

（本文ハ第百六條ニ出）

第七百三十條 年金渡方手續概則中改正増補

○明治十九年四月九日滋賀縣甲第五十九號布達（四月十三日發布）

今般大藏省令第十一號ヲ以テ年金渡方手續概則第九款別紙ノ通増補改正セラレ右年金拜受者ヘ布達ス

○

年金渡方手續概則

第九款 勳等年金拜受ノ者其年金授受ノ順序ハ左ノ如シ

一 受賞人ノ請願ニ依リ其本官廳又ハ寄留ノ地方廳ニ於テ渡方取計ヲヘシ因テ金票

前第九款ハ第
四編第百六
十一條（下卷
百三十四丁）
ニ出

拜受ノ際金額ノ受取場所ヲ賞勳局ヘ申立賞勳局ハ之ヲ大藏省ヘ通牒シ大藏省ハ之ヲ該廳ヘ達スヘシ

二年金受取場所ノ轉換ヲ要スルトキハ其旨本人ヨリ受取期月ノ前々月盡日迄ニ現交付ノ地方廳ヘ願出ツヘシ該廳ハ之ヲ聞届ケ速ニ轉換先ノ地方廳ヘ通牒シ其旨直ニ賞勳局及大藏省ヘ届出ヘシ

三年金受取場所轉換願出ノ期限ハ前項ニ據ルヘキモノト雖トモ右期限後公務ノ爲メ年金附與ノ期節ニ際シ轉換ヲ要スルトキハ現交付ノ地方廳ヘ願出ヘシ該地方廳ハ聞届ノ上其旨速ニ賞勳局ヘ届出ヘシ但大藏省及新主管廳ヘ報告方ハ本年三月大藏省令第五號歲出取扱順序第七十九條ニ據ルヘシ

第七百三十一條 勳章年金視奪停止取扱手續并榮譽ヲ汚辱シタル申報方

○明治十九年七月七日滋賀縣乙第八十八號達(七月十日發布) 郡役所戸長役場ヘ

開令第十九號ヲ以テ勳章年金視奪及停止取扱手續改正相成候ニ付テハ同令第一條第二項及第四項ニ該ル者アルトキハ其情狀ヲ詳記シ戸長役場ヨリ郡役所ヲ經由シ

二十二年四月ヨリ町村制實施ニ付戸長役場ニ改メル

テ速ニ本廳ヘ申報スヘシ (開令第十九號ハ後ニ出)

○明治十九年七月一日開令第十九號(官報七月一日) 各官廳ヘ

明治十六年九月第二十九號達勳章年金視奪及停止取扱手續改正スルコト左ノ如シ

十六年第三十九號達ハ太政官ノ達ニシテ政務ニ消滅ニ付テ既ニ消滅ニ付テ登載セズ

勳章年金視奪及停止取扱手續

第一條 勳章ヲ有スル者左ノ項目ニ觸ル、トキハ榮譽ヲ汚辱シタル者トス

第一項 重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタル者

但輕禁錮以下ノ刑ニ處セラレタル者ハ其所犯ノ情狀ニヨル

第二項 賭博犯ノ處分ヲ受ケタル者

第三項 懲戒例及免職條例ニヨリ免官セラレタル者

第四項 素行修マラス帶勳者タルノ面目ヲ汚ス者

第二條 第一條第一項ニ觸ル、者輕罪ヲ犯シタル者ナルトキハ裁判確定ノ後裁判管轄長官ヨリ司法大臣又ハ陸海軍大臣ヲ經由シテ宣告書寫ヲ添ヘ其旨ヲ賞勳局

二十二年六月十日法律第十號ヲ以テ賭博犯處分規則ハ第八十九條ニ出

寄附褒賞及賑恤備荒

總裁へ具申スヘシ其重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ普通刑法第三十一條第三十二條陸軍刑法第二十八條第二十九條海軍刑法第十七條ニ依リ處分ス

第三條 第一條第二項第三項第四項ニ觸ル、者アルトキハ所轄長官又ハ地方官ヨリ其情狀ヲ賞勳局總裁へ具申スヘシ

第四條 賞勳局總裁ハ其具申ヲ審査シ重禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ハ直ニ上奏シ其輕禁錮以下ノ刑ニ處セラレタル者及ヒ第一條第二項第三項第四項ニ觸ル、者ハ議定官ノ會議ニ於テ其褫奪ノ當否ヲ論定シ褫奪スヘキ者ハ奏請ス

第五條 褫奪ノ裁可アリタルトキハ賞勳局總裁ハ褫奪狀ヲ作り褫奪ノ具申ヲ爲シタル長官ヲ經由シテ本人へ傳達セシム

第六條 勳位進級セシ者ナルトキハ前級ノ勳章勳記ヲモ褫奪スヘシ年金票モ亦同シ

第七條 褫奪シタル勳章勳記年金票ハ褫奪ヲ行ヒタル官廳ヨリ賞勳局へ還納スヘシ

シ但其重罪ノ刑ニ處セラレタル者ニ係ルトキハ其宣告書寫ヲ添フヘシ

第八條 勳章ヲ有スル者重罪輕罪ノ訴ヲ受ケ拘留セラレタルトキハ其年月日及ヒ事由ヲ裁判管轄長官ヨリ司法大臣又ハ陸海軍大臣ヲ經由シテ賞勳局總裁へ具申スヘシ

但公訴權消滅シタルトキ若クハ放免ノ言渡ヲ爲シタルトキハ亦其事狀ヲ詳記シテ之ヲ申告スヘシ

第九條 重罪輕罪ヲ犯シ末ク其訴ヲ受ケスト雖モ現ニ拘留セラレタルトキハ檢察官ヨリ前條ノ手續ニ從ヒ賞勳局總裁へ具申スヘシ

第十條 外國勳章佩用免許狀ヲ沒收スルトキモ亦總テ此手續ニ準據スヘシ

第三款 恤救扶助 軍人軍属ノ扶助ニ係ル布令ハ第四章第五款ニ載ス
第七百三十二條 棄兒養育窮民救助米石代金授受手續

○明治二十二年四月九日滋賀縣訓令第三十一號(公報四月十日) 郡役所
棄兒養育窮民救助米石代金ノ義ハ自今郡長へ下渡候條郡長之ヲ代受シ左ノ書式ニ準シ領收証書ヲ差出スヘシ

但郡長ヨリ養育人及受救者へ下渡タル領受証書ハ郡役所ニ備置シヘシ

○

明治何年何月ヨリ何月マテ(何月中)棄兒養育(窮民救助)米代受領証
一金何程

此米何程 但本郡前月下米相廳平均一石ニ付金何程

内 譯

名	稱	年額(日額)	給	類	金	員	住	所	姓	名	備考

合計

右ノ通正ニ受領候也

年 月 日

何郡長

氏

名 印

會計主務官宛

第七百三十三條

被恤救者ニシテ救助米ヲ受クヘキ資格ヲ失ヒ其他身上ニ異動アル節届出ノ事

ル節届出ノ事

明治十七年五月八日滋賀縣庶務課照會 各郡役所

從來救助米ヲ受ケ居候モノ身上ニ異動ヲ生スル節ハ其旨速ニ可届出等ニ有之候處
往々其届出ヲ怠リ候モノ有之甚不都合ニ候條以來被恤救者ニシテ他ヨリ滿十五歲
以上ノ養嗣子ヲ貰ヒ受ケ又ハ病氣平癒若クハ死亡等ニテ救助米ヲ受クヘキ資格ヲ
失ヒ其他身上ニ異動ヲ生スル節ハ速ニ届出候様可取計旨各戸長へ豫テ御達置相成
度此段及御照會候也

第七百三十四條

非常ノ凶荒不慮ノ災害ニ罹リタル窮民救助方

寄附褒賞及賑恤備荒

○明治二十年一月十三日滋賀縣令第七號備荒儲蓄法施行規則第三章第四章

(本文ハ第七百三十七條ニ出)

○明治十九年九月三十日滋賀縣第一部庶第二二一號通牒(郡役所)

(本文ハ第七百三十八條ニ出)

第七百三十五條 備荒儲蓄金ニ係ル罹災救助金請求期限

○明治十九年六月二十一日滋賀縣訓令第八號(甲賀郡長)

(本文ハ第七百三十九條ニ出)

○明治二十一年一月六日滋賀縣第一部庶第四號通牒(郡役所長)

(本文ハ第四百二十四條ニ出)

○第四款 備荒儲蓄

第七百三十六條 備荒儲蓄金處分規則中更正及消滅

○明治十九年二月二日滋賀縣甲第五號布達

明治十四年^{十月}本縣甲第百五十六號布達備荒儲蓄金處分規則第一章第二條縣會ノ決議ヲ經テ左ノ通更正候條此旨布達候事

○

一第二條中七月三十一日ヲ四月三十日ト改メ一月三十一日ヲ十月三十一日ト改メ

(第七百三十七條ニ載スル二十年一月十三日滋賀縣令第七號ニ依テ全部消滅スト雖モ參看ノタメ編入ス)

第七百三十七條 備荒儲蓄法施行規則

○明治二十年一月十三日滋賀縣令第七號(公報一月十五日)

備荒儲蓄法施行規則縣會決議ノ上其筋ノ裁可ヲ經左之通相定メ來四月一日ヨリ施行ス

但本則ニ矛盾スル從前ノ諸達指令等ハ渾テ施行ノ日ヨリ消滅ス

寄附褒賞及賑恤備荒

十四年本縣甲
第百五十六號
布達ハ初編第
五百六十七條
(第三卷五百
二十丁)ニ出

備荒儲蓄法施行規則

第一章 賦課徴収

第一條 備荒公儲金ハ市街村落共徴収法ヲ異ニシ市街大津八幡彦根長濱ハ戸數ニ賦課シ村落ハ地租ニ賦課スルモノトス

但市街ト雖モ宅地外ノ土地ハ總テ地租ニ賦課スルモノトス

第二條 公儲金ハ其課額ヲ折半シ兩期ニ分テ前期ハ四月一日ヨリ全月三十日後期ハ十月一日ヨリ全月三十一日限リ徴収ス

第三條 公儲金ハ其年ノ地租豫算額ト前年一月一日ノ戸數トニ據リ賦課ノ乘率ヲ定メ之ヲ徴収スルハ地租ハ其年ノ租額ニ戸數ハ徴收期月ノ現住者ニ據ル

第四條 公儲金徴收ノ後地租ニ増減ヲ生スルコトアルモ之ヲ追徴又ハ還付セス

第五條 公儲金徴收以前罹災ノ爲メ儲蓄金ヨリ救助若クハ補助貸與ヲ受ケタル者ハ其年度公儲金ノ未徴收額ヲ免除スヘシ

但儲蓄金ヨリ救助若クハ補助貸與出願中納期ニ際スル者ハ處分済マテ其徴収ヲ猶豫ス

第二章 儲蓄及管理

第六條 配付金ト公儲金トヲ併セ之ヲ儲蓄金トシ其半額ハ利付公債証書ヲ購入シ他ノ半額ハ現金若クハ米穀ニテ之ヲ儲蓄シ時宜ニ由リ利付預ケト爲シ又ハ公債証書ヲ購求スルコトアルヘシ

但米穀ヲ蓄積スルトキハ一所又ハ數所ニ分儲スルモノトス

第七條 公債証書當鐵元利及預ケ金ヨリ生スル利子又ハ前年度ノ殘金之アルトキハ利付公債証書ヲ購入スルモノトス

第八條 公債証書及米穀ヲ購入シ又ハ賣却セントスルトキハ公告ノ上入札ヲ以テ購入若クハ賣却スルモノトス

第九條 儲蓄スル現金及公債証書ハ照應ニ米穀ハ都役所ニ於テ保管ス

第三章 救助

寄附褒賞及賑恤備荒

第十條 非常ノ凶荒不慮ノ災害ニ罹リ自ラ生存スルコト能ハサル窮民ニ限リ左ノ區分ニ據リ日數三十日以内ノ食料ヲ支給ス

但救助米代ハ罹災ノ前月其地下米平均相場ヲ以テ之ヲ給ス

一人一日ノ給額	支	米
男	五	合
女	四	合
七十年以上男女	三	合
三十年未満男女		

第十一條 同上自ラ小屋掛ヲ營ムコト能ハサル者ハ其實況ヲ酌量シ小屋掛料壹戸金拾圓以内ヲ給與ス

但借家住居ノ者モ亦本文ニ據リ給與スヘシト雖モ同居者ハ此限ニ在ラス

第十二條 同上農具種穀等ヲ購入シ能ハサル者ニハ農具種穀料壹戸金貳拾圓以内ヲ給與ス

但農具及ヒ種穀料共其土地相當ノ代價ヲ取調本文ノ金額ニ及サルトキハ其實費ヲ給與スルハ勿論トス

第十三條 全市全村又ハ其幾分不慮ノ災害ニ罹リ目下飢餓ニ逼ルノ恐レアルトキハ直ニ焚出ヲナシ假小屋ヲ建設シ若シハ相當家屋ヲ借入レ一時ノ急ヲ救助スルコトアルヘシ尤其日數ハ三十日以内トス

但焚出ヲ給與スル日數第十條ノ制限ニ至ラス假小屋掛ノ爲メ消費スル金額第十一條ノ制限ニ及ハスシテ剩餘アルトキハ其狀況ニ由リ該金額ヲ罹災者ニ割當テ給與スルコトアルヘシ

第十四條 第十條第十一條第十二條ノ給與ヲ願フ者ハ罹災ノ當日ヨリ三十日以内ニ必ス願出ヘシ

第十五條 儲蓄金取扱ニ關スル諸費(米倉營繕費米倉借受料番人給諸雇給運送費需用費諸手数料郵便電信料等)ハ總テ儲蓄金ノ内ヨリ支辨スルモノトス

第四章 貸與補助

寄附褒賞及賑恤備荒

第十六條 罹災ノ爲メ土地若クハ家屋ヲ賣却スルニアラサレハ地租ヲ納ムルコト能ハサル者ヘハ其土地被害ノ輕重ニ因リ之ヲ補助貸與スル事ト左ノ如シ

第一 田方ハ收穫高五分以上損毛ノ者ニ限り左ノ割合ヲ以テ其年ノ地租ヲ補助及ヒ貸與ス

損	毛皆	無九分以上	八分以上	七分以上	六分以上	五分以上
貸	與五	分五	分五	分五	分五	分
補	助五	分四	分三	分二	分一	分
						〇

第二 畑方ハ夏冬兩期ニ分テ每一季收穫高五分以上ノ損毛ニ限り左ノ割合ヲ以テ其年ノ地租ヲ補助及貸與スルモノトス

但兩期共皆無ノ時ハ前項田方ノ例ニ依ル

損	毛皆	無九分以上	八分以上	七分以上	六分以上	五分以上
貸	與二分五厘	二分五厘	二分五厘	二分五厘	二分五厘	二分五厘

補 助二分五厘 一分五厘 一分五厘 〇

第三 宅地ハ家屋全燒或ハ全流ノ者ニ限り其地租ノ未納額ヲ貸與ス

第十七條 前條田方損毛ノ歩合ハ本人本縣下所有田地ノ總收穫ニ據テ之ヲ定メ畑方モ亦其畑地ノ總收穫ニ據ルモノトス

第十八條 貸與ノ許可ヲ受ケタル者ハ貸與金借用證書ヲ差出スヘシ

第十九條 貸與金ハ罹災ノ翌年ヨリ五ヶ年賦テ以テ毎年十二月二十五日限り返納スヘシ

但本人ノ都合ニ依リ一時ニ返納スルコトヲ得

第二十條 貸與金返納年期中重テ貸與ヲ受クル者ハ前貸與金ノ返納ヲ免除シ又返納年期中該地所荒地トナルトキハ其荒地ニ係ル貸與金ノ返納ヲ免除スヘシ

第二十一條 貸與金返納年期中不慮ノ災害等ニ罹リ之ヲ返納シ能ハサル場合ニ遭遇スル者ハ事情ニ依リ返納延期ヲ許可スルコトアルヘシ

第二十二條 貸與金返納年期中其土地ヲ賣却シ若シハ讓渡ストキハ年期ニ拘ラス

其地所ニ當ル返納金ハ一時ニ完納セシムヘシ家督相続ニ由リ土地ヲ讓與スルト
キハ其讓受人ニ於テ借用証書ノ書換ヲ爲スヘキモノトス

第二十三條 地租ノ補助貸與ヲ請ヘント欲スル者ハ其地所立毛收穫以前ニ願出ヘ
シ若シ其期限内ニ願出サル者ハ一切採用セス

但宅地ニ係ル出願期限ハ第十四條ニ準ス

第五章 報告

第二十四條 儲蓄金穀及公債証書ノ出納計算表ヲ調製シテ毎年通常縣會ニ報告シ
尙ホ之ヲ管内ニ告示スルモノトス

第七百三十八條 借家若シハ同居等ノ罹災者小家掛料給與方

(參)明治十九年九月三十日滋賀縣第一部庶第二二一號通牒^{部役}所(公報十月二日)

備荒儲蓄法第六條中小家掛料借家同居者等へ給與方ノ義今般其筋ハ御問合ニ相成
候處左ノ通回答有之候條自今右ノ主旨ヲ以テ給與方御取扱相成度本部ヨリ此段及
御進牒候也

備荒儲蓄法ハ
十三年六月十
五日太政官第
三十一號布告
ニシテ滋賀縣
ノ布令ニアラ
ス故ニ登載セ

○

備荒儲蓄法第六條中ノ小屋掛料ハ罹災者家屋所有ト否トニ拘ハラヌ當然給與ス

ヘキモノト相考候處他縣ニ於テ借家住居セシモノヘハ給與セサレ乎ニ傳聞致候
右ハ借家ト雖モ固ヨリ一家ヲ擔ヘ罹災ノ爲メ家屋ヲ蕩燼流失シ立退ク場合ニ於
テハ其所有者ト毫モ異ナルコトナキヲ以テ同權衡ニ給與シ可然哉

前項解釋ノ如ク尙シ給與スヘキモノトセハ同居ニシテ本住者ノ厄介若シハ補助
ニ依リ生活ヲ立ルカ如キモノハ給與ノ限リニアラサルモ其生活ノ道ヲ異ニシ一
家ノ幾分ヲ借受ケ分住スルノ同居者ノ如キハ前項借家人ノ權衡ヲ取リ是又給與
致シ可然哉

右疑貳ノ廉有之候間至急御回示相成度此段及御問合候也(八月三十一日)

本年八月卅一日備荒儲蓄法第六條小屋掛料給否ノ儀御照會ノ趣了承右第一項
ハ支給相成可然存候得共第二項ハ給與ノ限ニ無之ト存候此段及御答候也(九月
十日)

第七百三十九條 罹災救助金申請期限

○明治十九年六月廿一日滋賀縣訓令第八號甲賀郡長へ

備荒儲蓄金處分規則第三章ニ據リ救助願ヲ許可セシ時該金請求ノ儀ハ十日以内ニ申請スヘキ義ト心得ヘシ
右訓令ス

明治十九年六月廿一日

滋賀縣令 中井 弘

甲賀郡長田中知邦殿

○明治二十一年一月六日滋賀縣第一部庶務第四號通牒郡役所戸長役場へ

(本文ハ第四百二十四條ニ出)

第七百四十條 備荒儲蓄金地租賃與返納順序中改正加除

○明治二十年二月二十八日滋賀縣達第八十號(公報三月二日)郡役所へ

明治十六年十二月本縣丙第百三十九號備荒儲蓄金地租賃與返納順序第五條左ノ通改正來ル四月一日ヨリ施行ス

備荒儲蓄金處分規則ハ初編第五百六十七條(第三卷五百二十七)ニ出但第七百三十九條ニ載スル二十一年一月十三日滋賀縣令第七號ニ依テ規則全部消滅ス

十六年本縣丙第百三十九號達ハ第三編第百二十五條(下卷二百五十七)ニ出

備荒儲蓄法施行規則ハ第七百三十七條ニ出

第五條 左ニ掲グル第一項第二項ハ經伺ノ上處分スヘク第三項第四項ハ處分ナラシタル後其事由ヲ詳記シ翌月五日以内ニ届出ヘシ

一 備荒儲蓄法施行規則第二十條ニ遭遇スルモノアレハ人別明細計算書ヲ付シ事由ヲ具スヘシ

二 同規則第廿一條ノ場合ニハ請願者ノ身代景狀ヲ審明シ處分ノ見込ヲ具スヘシ

三 備荒儲蓄法施行規則第十九條但書及第廿二條前段ノ場合ニハ人別明細計算書ヲ付シ該金納受方ハ第三條ニ準據スヘシ

四 同規則第二十二條後段又ハ負債主改姓名シタルトキ

○明治二十年十月二十五日滋賀縣達第三百六十四號(公報十月二十六日)郡役所へ

明治十六年十二月丙第百三十九號達備荒儲蓄金地租賃與返納順序第五條及第三號確形中左ノ通改削増補ス

十六年丙第百三十九號達ハ第三編第百二十五條(下卷二百五十七)ニ出

寄附養實及賑恤備荒

第五條 左ニ掲グル第一項第二項ハ經伺ノ上第三項ハ直ニ處分スヘシ

三 同規則第十九條但書及第二十二條ニ據リ處分ヲ了シタル返納金ハ第三號納證ヲ以テ翌月七日以内ニ送付スヘシ該金納受ノ手續ハ第三條ニ準據ス

四 削除ス

第三號離形中拜借ノ内ノ下ニ(何村外何ヶ村町何人分)ノ十字ヲ加フ

(考)明治二十年十月二十五日滋賀縣第二部會第一二二一號通牒(公報十月二十六日)

今般達第三百六十四號ニ據リ地租貸與金繰上ケ一時返納ノ節人別明細書ヲ要セサル様相成候ニ付テハ年賦額ハ豫算上實ニ要用ニ付返納證及更訂證共其年賦括算高ノ錯誤ナキ様御注意相成度且返納證及更訂證記載ノ人員ハ村町社寺或ハ數人連借共一筆ノ貸與ヲ一人ト算セラルヘシ又更訂證書中一金何程ノ行村町人員ハ是迄區々ニ候條自今每時未納者ノ現數ヲ登載候義ト御承知有之度此段及御通牒候也
第七百四十一條 備荒公儲金徵收順序

連第三百六十
四號ハ前ニ出

本年當縣令第
三十一號ハ第
三十一條ニ
出

○明治二十一年二月十七日滋賀縣令第三十五號(公報二月十八日)

備荒公儲金徵收順序ノ儀ハ本年當縣令第三十一號ヲ以テ定メラル地方税金徵收順序ニ依リ來ル二十一年度ヨリ取扱フヘシ

但納金ハ地方税金取扱所へ納入スヘシ

第七百四十二條 備荒公儲金徵稅令書徵稅額報告書徵收濟報告書ニ記載スル整理

科目

○明治二十一年三月九日滋賀縣訓令第二十六號(公報三月十日) 郡役所へ

備荒公儲金徵稅令書及徵稅額報告書徵收濟報告書ニ記載スル整理科目ハ備荒公儲金ヲ頂トシ地租割又ハ戶數割ヲ目トスル儀ト心得ヘシ

第七百四十三條 備荒儲蓄金地租賃與返納金納付方

(考)明治二十一年二月二十八日滋賀縣令第五十號(公報二月二十九日)

備荒儲蓄金地租賃與返納金來ル二十一年度以後ハ本年當縣令第四十五號地方税金取扱所區域ニ隨ヒ該所へ納付シ其預リ證書ヲ以テ所管郡役所へ本納ヲナスヘシ

本年當縣令第
四十五號ハ第
三十三條ニ
出

寄附養費及賑恤備荒

(二十二年九月七日滋賀縣令第百十三號ヲ以テ廢止更定)
(又ト雖モ參看ノタメ編入ス其縣令ハ第六編ニ載スヘシ)

○明治二十一年二月二十八日滋賀縣第二部會第二五二號通牒郡役所(公報二月二十九日)

今般縣令第四十四號ヲ以地方税金取扱所事務順序定ノラレ候付テハ備荒儲蓄金地租賃與返納金納受ノ手續來ル二十一年度ヨリ左ノ通御承知相成度此段及御通知候也

○

一 本年當縣令第五十號ニ依リ本納ヲナシタル地租賃與返納金地方税金取扱所預リ證書ハ從前ノ手續ヲ以本廳ヘ送納セラルヘシ若シ該金過納誤納アルモ一旦右送納ノ上更ニ拂戻方請求セラルヘシ則チ地方税金取扱所事務順序第二十五條第二十六條ニ據リ支拂フモノトス
一 負債主身代限分配金若シハ訟求等ニ依リ現金ヲ以直ニ徵收セル場合ニハ出納主任ノ郡書記ヲシテ地方税金取扱所事務順序第二十二條ニ準據シ納付方取計ハル

縣令第四十四號ハ第四百九條ニ出
縣令第五十號ハ前ニ出

ヘシ而シテ該領末及計算書等ハ郡長ヨリ知事ヘ具申セラレヘシ

第七百四十四條 備荒儲蓄金收支豫算決算及管理順序

○明治二十一年三月三十日滋賀縣達第八十五號郡役所

(本文ハ第三百九十九條ニ出)

○明治二十一年四月十日滋賀縣達第九十四號郡役所

(本文ハ第三百九十九條ニ出)

○明治二十二年二月十三日滋賀縣達第十七號郡役所

(本文ハ第三百九十九條ニ出)

○明治二十二年四月十二日滋賀縣達第九十五號郡役所

(本文ハ第三百九十九條ニ出)

○明治二十二年六月二十二日滋賀縣達第四百四十三號郡役所

(本文ハ第三百九十九條ニ出)

第七百四十五條 備荒公儲金收納帳簿式記載例

寄附褒賞及賑恤備荒

○明治二十一年二月十七日滋賀縣訓令第二十一號^{所(公報二月十八日)}
備荒公儲金收納ニ係ル帳簿ノ儀ハ本年當縣訓令第十七號地方稅收納帳簿式記載例
ニ依リ二十一年度ヨリ調理スヘシ

第七百四十六條 備荒公儲金收入精算書離形并進達期限

○明治二十年三月二十八日滋賀縣達第百三十七號(公報三月三十日)^{所(公報三月三十日)}
備荒公儲金收入精算書左離形ノ通取調整年度五月二十五日限差出スヘシ
但明治十四年六月丙第三十九號及十六年六月丙第五十七號達ハ廢止ス

離形

一金何程	後期	明治何年度何郡備荒公儲金收入精算書
内	地租割	
金何程	前期	但徵收期節現在地租額何程乘率地租壹圓ニ付何程

一金何程	後期	但徵收期節現在地租額何程乘率地租壹圓ニ付何程
内	戸數割	
金何程	前期	但徵收期節現在戸數何戸乘率壹戸ニ付何程
金何程	後期	但徵收期節現在戸數何戸ノ内免除ノ分何戸ヲ除キ實際何 戸乘率壹戸ニ付何程
外		(免除又ハ損失金アルトキハ如此外書ニ記載スヘシ)
金何程	何々ニ付免除	
		(年度后追納金アルトキハ左ノ如ク記載スヘシ)
一金何程	何年度勘定除却ノ分追納	

内	地租割前期
金何程	但何々ノ事由ニ依リ勘定除却金何程ノ内
金何程	戸數割前期
計金何程	但何々ノ事由ニ依リ勘定除却ノ分
右ハ	自何年何月何年度備荒公儲金收入精算書面ノ通候也
至何年何月	
年月日	郡長 氏 名 印
	滋賀縣知事氏名殿

十七年丙第百
五號ハ第三編
第三百二十七
條下卷二百
七十二丁ニ
出

○第十二章 社寺教院及祭祀教法

○第一款 社寺廢立關

○第二款 社格并名稱關

○第三款 社寺境内

第七百四十七條 社寺境内枯損木伐採願取扱方ノ達中追加

○明治十九年十月四日滋賀縣令乙第四十七號(公報十月六日)戸長役

明治十六年九月丙第百五號達へ左ノ但書ヲ追加ス

○

但官幣社ハ本文ノ限ニアラス

第七百四十八條 官有社寺境内一時貸下料社寺へ下渡ノ事

○明治十九年六月廿八日滋賀縣甲第九十九號布達(七月一日發布)

官有社寺境内ノ一時貸下料ハ本年七月以後該社寺へ可下渡候條社殿堂宇ノ修繕費ニ充ツヘシ

但本文貸下料ハ其貸下許可指令又ハ達書ニ依リ該社寺ニ於テ毎月末日借地人ヨリ直ニ徴收スヘシ若シ之ヲ差出サ、ルモノアルトキハ速ニ本廳ヘ申告スルモノトス
右布達ス

○第四款 神官

第七百四十九條 縣鄉村社神官皇典講究分所ノ試験ヲ受クヘシ并試験證書ヲ所持

セサルモノハ改撰ノ事

○明治十九年三月十二日滋賀縣諭第四號諭達(三月十六日發布)

縣鄉村社神官撰擧ノ節試験證書等ノ義明治十五年九月本縣甲第百三十三號ヲ以テ布達シ尙又從來奉仕ノ神官ト雖モ同様試験可相受旨明治十六年六月及諭達置候處今以テ試験ヲ受ケサル者有之不都合候條右ハ本年十二月迄ニ皇典講究分所ノ試験ヲ受ケ證書寫ヲ添ヘ届出ヘシ(二十年一月六日滋賀縣諭達第一號及同年七月十九日滋賀縣諭達第四號ヲ以テ受驗期限ヲ延期ス其諭達ハ後ニ出右諭達ス)

○明治二十年一月六日滋賀縣諭達第一號(公報一月八日)

縣社以下神官撰擧ノ節試験證書等ノ儀ニ付明治十五年本縣甲第百三十三號布達全十六年六月及全十九年三月諭達ノ趣モ有之候處今以等閑經過候者有之不都合候條速ニ試験ヲ受ケ證書寫ヲ添ヘ届出候様致スヘシ(二十年七月十九日滋賀縣諭達第四號ヲ以テ試験期限ヲ延期ス其諭達ハ後ニ出)

附寺教院及祭祀教法

十五年本縣甲第百三十三號
第八號第二卷
第九號第二卷
第十號第二卷
第十一號第二卷
第十二號第二卷
第十三號第二卷
第十四號第二卷
第十五號第二卷
第十六號第二卷
第十七號第二卷
第十八號第二卷
第十九號第二卷
第二十號第二卷
第二十一號第二卷
第二十二號第二卷
第二十三號第二卷
第二十四號第二卷
第二十五號第二卷
第二十六號第二卷
第二十七號第二卷
第二十八號第二卷
第二十九號第二卷
第三十號第二卷
第三十一號第二卷
第三十二號第二卷
第三十三號第二卷
第三十四號第二卷
第三十五號第二卷
第三十六號第二卷
第三十七號第二卷
第三十八號第二卷
第三十九號第二卷
第四十號第二卷
第四十一號第二卷
第四十二號第二卷
第四十三號第二卷
第四十四號第二卷
第四十五號第二卷
第四十六號第二卷
第四十七號第二卷
第四十八號第二卷
第四十九號第二卷
第五十號第二卷
第五十一號第二卷
第五十二號第二卷
第五十三號第二卷
第五十四號第二卷
第五十五號第二卷
第五十六號第二卷
第五十七號第二卷
第五十八號第二卷
第五十九號第二卷
第六十號第二卷
第六十一號第二卷
第六十二號第二卷
第六十三號第二卷
第六十四號第二卷
第六十五號第二卷
第六十六號第二卷
第六十七號第二卷
第六十八號第二卷
第六十九號第二卷
第七十號第二卷
第七十一號第二卷
第七十二號第二卷
第七十三號第二卷
第七十四號第二卷
第七十五號第二卷
第七十六號第二卷
第七十七號第二卷
第七十八號第二卷
第七十九號第二卷
第八十號第二卷
第八十一號第二卷
第八十二號第二卷
第八十三號第二卷
第八十四號第二卷
第八十五號第二卷
第八十六號第二卷
第八十七號第二卷
第八十八號第二卷
第八十九號第二卷
第九十號第二卷
第九十一號第二卷
第九十二號第二卷
第九十三號第二卷
第九十四號第二卷
第九十五號第二卷
第九十六號第二卷
第九十七號第二卷
第九十八號第二卷
第九十九號第二卷
第一百號第二卷

十五年甲第百三十三號ハ第九卷(下卷)第三十九丁(下卷)第三十七條(下卷)三十四丁ニ出

十五年本縣甲第百三十三號ハ第九卷(下卷)第三十九丁(下卷)第三十七條(下卷)三十四丁ニ出
十五年本縣甲第百三十三號ハ第九卷(下卷)第三十九丁(下卷)第三十七條(下卷)三十四丁ニ出
十五年本縣甲第百三十三號ハ第九卷(下卷)第三十九丁(下卷)第三十七條(下卷)三十四丁ニ出

○明治二十年七月十九日滋賀縣諭達第四號(公報七月二十日)

縣鄉村社祠官掌試驗證書ノ儀ニ付テハ明治十五年九月本縣甲第百三十三號布達同十六年六月諭達同十九年三月諭達第四號及本年一月諭達第一號ヲ以テ相達置候次第モ有之候處今以依然試驗ヲ受ケサルモノ有之不都合ノ至ニ候得共今回特別ノ詮議ヲ以テ尙本年十月迄延期ヲ與ヘ候條早々試驗ヲ受ケ證書寫テ添ヘ届出ヘシ若シ右期限經過何等届出サルモノハ相當處分ニ可及候條心得違無之様致スヘシ
(十九年諭達第四號前ニ出二十年十一月八日滋賀縣訓令第百四號ヲ以テ試驗證書ヲ所持セサル者ハ改選セシム其訓令ハ後ニ出)

○明治二十年十一月八日滋賀縣訓令第百四號(公報十一月九日)(郡役所戶長役場)

縣社以下祠官掌試驗證書ノ義ニ付テハ明治十五年九月本縣甲第百三十三號布達同十六年六月諭達同十九年三月諭達第四號同二十年一月諭達第一號及同年七月諭達第四號ヲ以テ數度延期ヲ與フト雖モ中ニハ遷延等閑ニ付シ于今受驗ノ届出ヲ爲サ、ルモノ有之不都合ニ候條從來奉祀ノ祠官掌ニシテ皇典講究本分所ノ試驗證書ヲ所持セサルモノハ氏子ニ於テ速ニ改撰セシメ候様取計ヘシ

○第五款 住職

第七百五十條 寺院住職ノ者等犯罪ノ處分ヲ受ケタル時又ハ行政上妨害ノ行爲アリト認ムルモノ申報方

○明治二十年一月廿二日滋賀縣訓令第七號(郡役所、戶長役場)

今般其筋訓令ノ次第有之候條神佛教師及寺院住職ノ者犯罪ノ處分ヲ受ケタル時ハ裁判言渡書寫テ添ヘ所轄戶長役場ヨリ郡役所ヲ經テ速ニ本廳ヘ申報スヘシ若又行政上妨害ノ行爲アリト認ルモノハ其事由ヲ詳記シ戶長役場ニ於テハ郡役所ヲ經由郡役所ニ於テハ直ニ本廳ヘ申報スヘシ

二十二年四月ヨリ町村制實施ニ付戶長役場ハ町村役場ニ改マル

○六款 僧尼

第七百五十一條 寺院ニ住居スル僧尼戶籍上族籍ト寺院ト明瞭區分相立ツヘキ等ノ事

○明治十九年四月三十日滋賀縣訓示^{戸長}

(本文ハ第七百八十三條ニ出)

第七百五十二條 僧侶改名願處分方

(補) 明治十七年十月七日滋賀縣庶務課通達^{郡役所}

(本文ハ第七百九十六條ニ出)

○第七款 氏子檀家及社寺總代人^調

○第八款 社寺財產

第七百五十三條 社寺ニ係ル地所建物等賣買質入書入ヲ要スルハ縣廳ノ許可ヲ經ル後登記請求ノ事

○明治二十年二月三日滋賀縣達第三十號^{郡役所 長役場}

(本文ハ第七百六條ニ出)

第七百五十四條 社寺所屬ノ地所金穀等誤テ町村又ハ一巳人ノ名受ニ致來リタル分訂正ノ事

○明治二十一年十二月二十二日滋賀縣訓令第百二十二號(公報十二月二十二日)^{郡役所 長役場}

社寺所屬ノ地所並ニ金穀等誤テ町村ノ名義又ハ一巳人民ノ名受ニ致來候向往々有之如此財產ハ社寺維持ノ基本ニシテ決シテ忽諾ニ附スヘカラサル勿論ノ儀ニ付舊來由緒アルモノ及名實其當ヲ得サル物件ハ渾テ此際順序ヲ經テ訂正セシムヘシ

○第九款 御陵及墳墓

○第十款 轉宗改式

○第十一款 社寺參詣

○第十二款 教導

第七百五十五條

神佛教師等犯罪ノ處分ヲ受ケタル時又ハ行政上妨害ノ行爲アリト認ムルノ申報方

○明治二十年二月二十二日滋賀縣訓令第七號 郡役所戶長役場へ

(本文ハ第七百五十條ニ出)

第七百五十六條 說教等ヲ執行スルモ届出ニ及ハサル事

○明治二十一年十月三十日滋賀縣令第五百一十一號

(本文ハ第七百五十七條ニ出)

○第十三款 神祭佛事 附 招魂祭

第七百五十七條 神佛ノ祭禮開扉雨乞虫送等ノ事業ヲ執行スルモ届出ニ及ハサル事

○明治二十一年十月三十日滋賀縣令第五百一十一號 (公報十月三十一日)

神佛ノ祭禮開扉說教雨乞虫送等ノ事業ヲ執行スルモ自今別段警察署へ届出ニ及ハス

第七百五十八條 寺院等ニ於テ出火鎮火ノ信號ニ紛敷打鐘禁止ノ事

○明治二十年三月二十八日滋賀縣令第九十八號 (公報三月三十日)

本年二月縣令第五十八號及第五十九號ヲ以テ出火並ニ鎮火ノ信號等相定メ候ニ付テハ寺院等ニ於テ右ニ紛敷打鐘一切禁止ス

本年縣令第五十八號ハ第五十九號ニ出
第十八條ニ出
第十六條ニ出
第十五條ニ出

○十四款 葬儀

第七百五十九條 墓地及埋葬取締細則中改正刪除

○明治二十二年四月九日滋賀縣令第六十號

(本文ハ第四百六十七條ニ出)

第七百六十條 墓地及埋葬取締心得等ノ達廢止并同心得改定

○明治二十二年五月三十一日滋賀縣達第百三十三號(郡役所町村役場)

(本文ハ第四百六十八條ニ出)

○明治二十二年五月三十一日滋賀縣達第百三十二號(郡役所町村役場)

(本文ハ第四百六十八條ニ出)

○第拾五款 配札并勸財關

○第拾六款 禁厭祈禳附リト占關

○第拾七款 社寺教院及教導ニ關スル雜則并諸表

第七百六拾壹條 官有地ニ係ル境內伐木願ノ内障礙木伐採願ニ限リ本寺法類連署

管長添書ヲ要セカル事

○明治二十二年一月二十五日滋賀縣令第九號(公報一月二十六日)

明治十八年十一月 本縣甲第百五十八號布達管長添書ノ儀ハ障礙木伐採願ニ限リ本寺

法類連署及管長ノ添書ヲ要セス

第七百六拾貳條 府縣社以下教法部類ニ非カル講社結集手續ノ布達廢止

○明治二十二年三月五日滋賀縣令第二十八號(公報三月六日)

明治十五年十二月 本縣甲第百五十四號布達ヲ廢ス

十八年本縣甲
第百五十八號
ハ第四編第二
百七十六條(一
下卷百四十九
丁)ニ出

十五年本縣甲
第百五十四號
布達ハ第二編
第三百七條(一
下卷三百五十
四丁)ニ出

○第拾三章 戸口

○第壹款 戸籍總則

第七百六拾三條 戸籍簿編製手續及戸籍登記書式送附狀書式

（參）明治十九年十月二十五日滋賀縣令乙第五十六號（公報十月二十七日）（郡役所、戸長役場へ）

内務省令第二十二號ヲ以テ戸籍取扱手續定メラレ候處戸籍簿並副本書式及編製着手期限ノ義ハ追テ指示スヘシ

○明治十九年十二月二十日滋賀縣令乙第七十九號（公報十二月二十二日）（郡役所、戸長役場へ）
本年十月内務省令第二十二號ヲ以テ戸籍取扱手續定メラレ候ニ付テハ該書式等ハ追テ指示スヘキ旨本年十月縣令乙第五十六號ヲ以テ相達置候處戸籍簿編製手續及戸籍登記書式等別冊ノ通相定ム

別冊

戸籍簿編製手續

但從前本縣布達達等ノ本令ニ牴觸スルモノハ總テ消滅ト心得ヘシ

十九年十二月二十日滋賀縣令乙第七十九號ニ依テ消滅ノト雖モ參照スルタメ編入ノ其縣令ハ後ニ出

本年乙第五十六號ハ前ニ出

二十年一月三十一日滋賀縣令第十號ヲ